

2022（R4）年度

事業報告書



BOWA SUMIRE

社会福祉法人 ボワ・すみれ福社会

目次

法人理念等	1
役員名簿	2
理事会・評議員会の開催状況	3
監事監査・苦情解決第三者委員会開催状況	7
花の家（生活介護）	8
花の家（生活介護）	12
クッカ広場（就労継続支援 B 型）	22
かけはし（相談支援）	26
医務部門	28
栄養部門	30
運営部門	33
花の郷（生活介護）	53
支援部門	53
生産活動部門	61
医務部門	66
栄養部門	68

委員会年間総括	70
---------	----

ボワ・アルモニー（経営計画より）	84
------------------	----

ボワ・アルモニー（就労継続支援 B 型）	86
----------------------	----

ボワ・アルモニー（生活介護）	88
----------------	----

栄養部門	90
------	----

業務分担	93
------	----

居住支援部（ボワ・ミニヨン・クレール・あかね・ひなた・はるかぜ）	104
----------------------------------	-----

であい（短期入所）	109
-----------	-----

児童支援部	112
-------	-----

ボワ・コンサー（児童発達支援・放課後等デイサービス）	123
----------------------------	-----

ボワ・フルール（放課後等デイサービス）	125
---------------------	-----

ボワ・エール（放課後等デイサービス）	127
--------------------	-----

社会福祉法人ボワ・すみれ福社会

理念

「誰にも優しい地域社会をつくれます」

経営姿勢

- ・ **職員を大切にする会社を目指します**
法人は、元気に笑顔で仕事ができるように、職員を大切にします。
- ・ **質の高い利用者支援を提供します**
法人が目指す支援は、ご利用者が望む支援を質の高さを常に意識して提供していきます。
- ・ **新たな事業に挑戦し多様な支援を提供します**
法人はニーズに応じて新しい事業や多様な支援を提供していきます。
- ・ **法人は職員と共に成長します**
法人＝職員の考えに基づき、職員の成長なくして法人の成長はない、人材育成の取り組みを行っていきます。

行動指針

- ・ **私たちは、常に熱い心と冷静な姿勢で仕事に取り組みます**
仕事に対して熱意を持ち、冷静沈着な姿勢で仕事に取り組み成果を出していきます。
- ・ **私たちは、より高度な倫理観を持ち社会的責任を自覚し誠実な行動をします**
支援者として常にご利用者の人権と自己決定を尊重し、社会的責任、役割を理解し、社会福祉法人の職員としてふさわしい行動をします。
- ・ **私たちは、法人職員として夢と希望をもって行動します**
自分たちの職場を大切に、全職員自らが夢と希望を持ちご利用者支援の仕事をします。

社会福祉法人 ボワ・すみれ福祉会
理事・監事・評議員名簿

2021年6月～2023年6月
定時評議員会終結時、任期2年

		氏名
1	理事	田部井眞
2	理事	鈴木一典
3	理事	守屋和夫
4	理事	山田 都
5	理事	熊谷 春一
6	理事	畠山 史郎
7	理事	成澤勲
1	監事	大久保悦子
2	監事	市川健一

2021年4月1日～2025年6月
定時評議委員会終結時、任期4年

1	評議員	金子好雄
2	評議員	平本善一
3	評議員	小野田義之
4	評議員	柴適
5	評議員	志村邦義
6	評議員	岩切孝光
7	評議員	石原正義
8	評議員	木下美夏

2022年度 理事会・評議員会の開催状況

開催日	議案・報告事項等
第1回理事会 2022年5月24日（火）	（1）専決報告 なし （2）決議事項 第1号議案 2021年度事業報告及び決算承認の件 （別冊参照） 第2号議案 評議員会召集の件 第3号議案 規程類の改定承認の件（慶弔見舞金規程） 第4号議案 役員賠償責任保険契約承認の件 （3）報告事項 ① 感染状況報告 ② 苦情解決第三者委員会報告 ③ 理事長の職務執行状況報告 ④ 医療的ケアなどに関する報告 ⑤ 職員の採用と退職の報告 ⑥ 運営状況報告及び活動報告 ⑦ 今後の予定 ⑧ その他
第1回評議員会 2022年6月16日（木）	（1）決議事項 第1号議案 2021年度事業報告及び決算承認の件 （2）報告事項 ① 規程類改定報告 ② 役員等賠償責任保険契約締結の報告 ③ 感染状況報告 ④ 苦情解決第三者委員会報告 ⑤ 理事長の職務執行状況報告 ⑥ 医療的ケアなどに関する報告 ⑦ 職員の採用と退職の報告 ⑧ 運営状況報告及び活動報告 ⑨ 今後の予定 ⑩ その他

第2回理事会 2022年9月6日（火）	(1) 専決事項 応研人事給与システムクラウドリース契約 (2) 決議事項 第1号議案 9月補正予算承認の件 第2号議案 評議員会召集の件 第3号議案 苦情解決第三者委員選任の件 (3) 報告事項 ① 資格取得支援規程について ② 後援会「ありかた委員会」について ③ 理事長の職務執行状況報告（健康増進温浴施設運営委員、法人連代表等） ④ 医療的ケアなどに関する報告 ⑤ 職員の採用と退職の報告 ⑥ 運営状況報告及び活動報告 ⑦ 今後の予定 ⑧ その他
第2回評議員会 2021年9月15日（木）	(1) 決議事項 第1号議案 9月補正予算承認の件 (2) 報告事項 ① 理事長専決事項について ② 苦情解決第三者委員の選任について ③ 資格取得支援規程について ④ 後援会ありかた委員会報告について ⑤ 理事長の職務執行状況報告 ⑥ 医療的ケアなどに関する報告 ⑦ 職員の採用と退職の報告 ⑧ 運営状況報告及び活動報告 ⑨ 今後の予定 ⑩ その他

第 3 回理事会 2021 年 12 月 6 日（火）	(1) 専決報告 役職員等慶弔見舞金規程について (2) 決議事項 第 1 号議案 12 月補正予算承認の件 第 2 号議案 規程類の改定承認の件 第 3 号議案 評議員会召集の件 (3) 報告事項 ①報告事項 ・後援会ありかた委員会の提案について ・苦情解決第三者委員会報告 ・復職支援実施要領について ・八王子労働基準監督署より（心の健康づくり計画の件など） ・花の郷実地指導の件 ② 理事長の職務執行状況報告 ③ 医療的ケアなどに関する報告 ④ 職員の採用と退職の報告 ⑤ 運営状況報告及び活動報告 ⑥ 今後の予定
第 3 回評議員会 2021 年 12 月 15 日（木）	(1) 決議事項 第 1 号議案 12 月補正予算承認の件 (2) 報告事項 ①報告事項 ・管理職の人事異動について ・専決報告 ・規程類の改定について ・後援会ありかた委員会の提案について ・苦情解決第三者委員会報告 ・復職支援実施要領について ・八王子労働基準監督署より（心の健康づくり計画の件など） ・花の郷実地指導の件 ② 理事長の職務執行状況報告 ③ 医療的ケアなどに関する報告 ④ 職員の採用と退職の報告 ⑤ 運営状況報告及び活動報告 ⑥ 今後の予定

第 4 回理事会 2022 年 3 月 7 日（火）	(1) 専決事項 (2) 決議事項 第 1 号議案 2023 年度事業計画及び予算の承認の件 第 2 号議案 規程類の改定承認の件 第 3 号議案 定時評議員会召集の件 第 4 号議案 次期役員候補承認の件 第 5 号議案 新生活介護事業所設置の件 第 6 号議案 新しい理念承認の件 (3) 報告事項 ① 3 月補正予算について ② ボワ・コンサル児童発達支援 3 月末廃止など ③ 理事長の職務執行状況報告 ④ 医療的ケアなどに関する報告 ⑤ 職員の採用と退職の報告 ⑥ 運営状況報告及び活動報告 ⑦ 今後の予定 ⑧ その他
第 4 回評議員会 2022 年 3 月 16 日（木）	(1) 決議事項 第 1 号議案 2023 年度事業計画及び予算の承認の件 第 2 号議案 新生活介護事業所設置の件 第 3 号議案 新しい理念承認の件 (2) 報告事項 ① 3 月補正予算について ② 規程類の改定など ・規程類の改定 ・次期役員候補について ・感染状況について ③ 理事長の職務執行状況報告 ④ 医療的ケアなどに関する報告 ⑤ 職員の採用と退職の報告 ⑥ 運営状況報告及び活動報告 ⑦ 今後の予定 ⑧ その他

監事監査の実施状況

実施日	監事名	監査項目
2022年5月16日（月）	市川 健一 大久保 悦子	法人定款第18条の規定に基づき、2022年度事業にかかわる理事の職務執行状況及び法人の財務監査

苦情解決第三者委員会

氏名	開催日
叶内 昌志 比留川 昇良	2022年9月29日（木） 2023年3月29日（水）

2022年度 法人本部 事業報告

1. 法人本部経営企画部門

(1) 目標
目標1. 採用事務を改善します。
目標2. ホームページの改善、更新等の管理を行います。また、広報及び社内報を発行します。
目標3. 職員一人ひとりの専門性を高め、法人本部の価値を高めます。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(1) - ① 新型コロナウイルス感染症等に対応したリモートでの会社説明会や面接を導入し、求職者が簡便に参加できるようにします。	専用のシステムの導入を図りリモートでの会社説明会を年間37回実施しました。	実施しました。	
(1) - ② 様々な媒体を使用して採用活動を行い、正規職員の欠員状態を早期に改善するように努めます。	インターネット、紙媒体など様々な媒体を活用しましたが、十分に採用することができませんでした。	概ね実施しました。	
(1) - ③ 次年度新卒採用についてはリクナビ2022を使用し、早期に内定を出せるように取り組みます。	2022年3月からの解禁に向けてリクナビ、リレイティブと契約し3月より2023年新卒対応を実施しました。	実施しました。	
(2) - ① 新たに職員採用に特化したホームページを作成し、採用につなげます。	リレイティブにより新たな採用ページを作成しました。	実施しました。	
(2) - ② 定期的にホームページを確認し、不適切な表現等がないか管理します。	不定期でしたが、確認作業は行いました。	概ね実施しました。	
(2) - ③ ホームページを通して社内報の発行を行います。	9回発行したものは、すべて印刷用のデータを用意する。ホームページに掲載し職員へ周知しました。	実施しました。	
(2) - ④ 職員やご利用者、ご家族向けに相談室を作成し、意見や相談を受け付けます。	ネット上に相談室を設けましたが、職員用は必要に応じて活用されましたが、ご家族向けのものはゼロでした。	実施しました。	
(2) - ⑤ ホームページ及び広報を通して、ボワ・すみれ福祉社会が地域で果たしている社会福祉活動(社会貢献活動)を、具体的に掲載し地域にアピールします。	法人経営の動きや各事業所の取組については広報することはできました。買い物支援の定期運行は次年度4月からとなりました。	概ね実施しました。	
(3) - ① eラーニングを導入し、職員個々の能力向上を図ります。	事業所ごとに研修計画に導入し、活用をしました。また、実施事業者の変更により、より障がい福祉に特化した内容へ変更することができました。	実施しました。	

(3) - ② 法人本部職員として必要な知識などを強化するための研修・学習会に職員を派遣します。	十分に実施することはできませんでした。	実施できませんでした。	
・ 運営協議会 各事業所の保護者を対象として、理事長等が参加し、経営状況の報告をし意見交換を行い、法人経営、事業所運営に反映していきます。	感染防止のため中止しました。	実施できませんでした。	
・ 苦情解決第三者委員会 苦情解決の請求があった場合に、委員会を開催します。また、9月、3月に法人に寄せられた意見要望等に関して、外部委員と意見交換を行います。	2回実施しました。委員からの確かな助言をいただきました。	実施しました。	
・ 法人医務会議 新たな、医療的ケアに関する指針、要綱を制定し、それに基づく対象事業所における要領、マニュアルの作成を支援し、医ケア児者に対する支援が安全にできるように管理します。	感染防止のため中止し、各事業所での開催となりました。	実施できませんでした。	
・ 法人衛生会議 毎月開催される、経営会議と同時開催とし労働安全衛生等に関する内容に関して意見交換等を行います。腰痛防止や労働環境点検を実施します。	感染防止のため中止し、各事業所での開催となりました。	実施できませんでした。	
・ 法人栄養会議 法人全体の栄養調理に関する内容について必要に応じて開催します。	開催しませんでした。	実施できませんでした。	
・ 法人感染症等防止委員会（旧法人安全衛生委員会） 感染症防止対応、食中毒防止対応等の各事業所の実施状況の管理及び運用支援を行います。また、法人として統一した対応についての整理等を行います。	毎月開催の経営会議にて感染状況を共有し各事業所の感染対策の徹底を図りました。	概ね実施しました。	
・ 法人身体拘束等適正化委員会 事業所ごとの身体拘束等適正化委員会の運営を支援し、研修等の実施に関して管理を行います。	各事業所の運営状況を確認し、適切に実施できるように確認作業を行いました。	概ね実施しました。	

・法人広報委員会 年4回の広報誌を発行します。	年4回発行することができました。	実施しました。	
・法人防災委員会、災害対応訓練 BCPの作成管理、事業所ごとに作成するBCPを法人防災委員会で作成の支援、シミュレーション訓練の実施、法人としての統一した対応等を管理します。 無線電話通話訓練、安否確認メールの送信及び返信訓練の実施。夜間参集訓練の実施。	BCPの作成は完了しませんでした。シュミレーション訓練も感染防止のため実施しませんでした。無線電話訓練は実施。夜間参集訓練も未実施です。	実施できませんでした。	
・管理者評価 9月上旬に評価用紙を配布し、評価を行います。評価結果は、理事会・評議員会に報告します。	実施し、必要に応じて管理者指導を行いました。	実施しました。	
・災害対応マニュアル見直し 7・8月にマニュアル見直し作業を実施します。修正分は9月に配布します。	本年度の修正要望はなく、改定しませんでした。	実施できませんでした。	
・職員満足度調査の実施 9月に実施します。昨年度実施結果と比較して改善点を見つけ出し、次年度の計画に反映させます。	9月末に実施し、結果は職員に開示しました。経営会議では結果についての共有を行いました。	概ね実施しました。	
・ワークフロー等の導入 4月以降早期に、ワークフローを導入し、決裁書類の迅速処理、保管を強化します。 事務の効率化、経費の削減をします 法人本部事務の一元化やITを利用した効率化を図り、経費の削減を行います。また、光熱費、消耗品の使用を管理し更なる経費の削減を目指します。 ペーパーレス化（チェック体制の構築）、事業所間の紙の移動を削減する、押印の廃止、記録の電子化、日直点検日誌、運行日誌、車両点検簿、防火管理点検などを電子化する、給食部門の電子化（各種記録簿）アルコールチェックの電子化を行います。	ワークフローの導入は完了しました。ペーパーレス化も行い、紙での保存が減少し保管場所の減少、ファイル等の事務用品の削減ができました。各種日誌などの電子化はできませんでした。	概ね実施しました。	

・年末調整の電子化 電子化することにより事務の軽減を図ります。	電子化は完了しました。	実施しました。	
・人事評価育成制度についての説明 変更した仕組みについて、事業所ごとに説明会を開催します。	事業所ごとの説明会は、各管理者が行いました。	概ね実施しました。	
・社内報の発行 法人の情報伝達を目的として、適宜発行します。	9回発行しました。	実施しました。	
・法人研修（外部・内部研修） ① 参加職員の意識向上と、知り得た情報を共有し法人の発展につなげます。 ② 法人連等の主催する研修への参加をします。	コロナの影響で対面での研修への参加は控え、オンラインでの参加にとどまりました。	概ね実施しました。	
・法人表彰式の開催（2022年11月17日予定） 当法人および各施設において長年貢献された方などを対象として、表彰を行います。	感染防止のため開催は、対象事業で実施となりました。	実施できませんでした。	
・町田市社会福祉法人施設等連絡会への参加 引き続き参加し、町田市の福祉の向上のために役割を果たしていきます。	本年度より理事長が代表を務めることになりました。	実施しました。	

2022年度 ニーズセンター花の家 年間総括

Ⅰ. 生活介護「花の家」

【支援全体】

(1) 目標 「花の家では、ご利用者やご家族、地域の多様なニーズに対し、以下の視点から高い専門性を持った支援を提供します」
①（支援）ご利用者一人ひとりの状態像や想いに寄り添った支援を提供します。
②（活動）活動の充実を図り、豊かな経験と彩りある生活を支援します。
③（健康）専門職や関係機関と連携しながら健康生活を支援します。
④（職員）質の高い支援、サービスを提供する為、職員育成（資質向上と専門性の習得）を図ります。
⑤（安全）リスク管理を徹底し、ご利用者が安心して過ごせる環境を整えます。
⑥（地域）開かれた施設運営を通し、地域福祉の発展に貢献します。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①ー1 ご本人のニーズやご家庭の想い、年齢や状態等を加味した上でAからGの7グループ編成として環境を整え、その人らしい支援します。	・各グループ、部署において、個人毎のアセスメント、ニーズに基づく計画に沿って丁寧な支援を行っている。 今年度は個別支援計画の様式も変更し、その年度に求められる支援をより具体化できるように取り組んでいる。	実施できました。	
①ー2 <支援における5つの柱（①人権擁護②生活支援③活動支援④健康支援⑤コミュニケーション支援）>に基づき、多角的な観点から、ご利用者の生活が豊かになるよう支援します。	・今年度に新たに明示した<支援5つの柱>であり、「言葉」としては定着していないが、理念については浸透して現場で活かしている（虐待防止研修、活動や健康支援の充実等）。	実施できました。	
①ー3 多くの人との関わりを通し、集団の中の一人ひとりの役割や力が発揮されるように支援します。	・例えば、グループの朝礼での挨拶（日直）、給食を事務所まで運ぶ等、係りを決めて取り組んでもらうことで、ご本人達のやる気や達成感、成長に繋がっている。	実施できました。	
①ー4 施設内の相談支援事業や地区の障がい者支援センターを中心とした関係機関と連携を図りながら、家庭を含めた総合的な支援を行います。	・相談支援事業所との連携が一般化されてきており、花の家が担うこと、範囲を超えて相談支援や地域支援センターが担うこと等を分担、共有しながら支援に当たる事例が増えてきている。	実施できました。	

①－５研修等を通じて職員の人権意識を高め、虐待が疑われる関わりや不適切な関わりの撲滅に努めます。	・８月正職会議にて「不適切事例」をモチーフにグループワークを行い、支援におけるスローガン「みんな見てますその支援」を策定（刷新）した。 １０月には有期職員を対象に同研修を実施予定。	実施できました。	
②－１＜活動における５つの柱（①作業活動、②療育活動、③健康への取組、④社会活動・余暇活動、⑤個別活動）＞に基づき、多角的な観点から、ご利用者の生活が豊かになるよう支援します。	・活動においては、＜５つの柱（観点）＞に基づきつつ、各グループ、ユニット、部署等で工夫しながら提供している。 今年度から、＜ダンス＞や＜体操＞＜体づくり（ストレッチ）＞等の新しい取り組みも始まっている。	実施できました。	
②－２ ニーズがあるご利用者に対し、入浴支援を行います（週１回）。	・入浴ＰＴメンバーが中心となり、利用状況やニーズの聞き取り等を行った上で、メンバー決めや入浴方法を工夫しながら実施している。 ８月から数回に渡って希望者を対象に入浴リフト研修を実施。	実施できました。	
②－３ 補足的な支援として、通所時間外の支援（日中一時支援）、保護者による通院が困難な場合の付添い、入浴（週１回）サービスを提供します。	・規程に基づくレスパイト支援を実施。コロナ感染の為、事業内容を縮小（時間短縮、送迎中止等）しており件数は以前より少なくなっているが、一定の利用はされている。	実施できました。	
③－１ご利用者の状態、体調等を配慮した活動プログラムを提供し、生活リズムを整えます。	・基本的には毎日同じリズムで生活を過ごすことで健康状態の安定を図っている。 体調に配慮が必要な人、場合には、個別の事情に配慮して過ごし方を工夫している。	実施できました。	

③－２ 看護師や嘱託医（内科、小児科、歯科）、訓練士等の専門職や地域の医療機関等と連携しながら、健康を支援します。	・各職種の専門性を活かしながら、計画通りの支援を実施できている。 - 長らく花の家に協力してくれた作業療法士（深栖ＯＴ）が前期で退職され、訓練は理学療法士（時増ＰＴ）に引き継がれた。	実施できました。	
③－３ 一人ひとりに合った食事形態や環境の提供と喫食状況の把握をし、安心、安全で楽しく食事ができるよう支援します。	・年３回実施する歯科医師による摂食評価、指導等の機会を利用しながら、一人一人に合った食事形態と介助方法にて食事を提供している。	実施できました。	
③－４ 花の家「医療的ケア要領」に基づき、医療的ケアを必要とされる方に対し、安心と安全が保たれた質の高い支援を提供します。	・今年度から刷新された医療的ケア要領に基づき、各人の手続きを済ませている。 - 新しい様式では医師からの指示がより具体的に示されるようになっている為、支援者（看護師等）は今まで以上に安心してケアの実施ができるようになった。	実施できました。	
④－１ 研修等を通じて必要な知識や専門性、高い技術を身につけ、適切な支援ができるよう努めます。	・研修委員会が中心となり、職員研修を計画、実施、受講の推奨を行っている。 - 工夫例として、８月をeラーニング視聴月間とし、各人の興味に基づく視聴を推奨したところ、１１名の職員が受講してくれた。 - そこから発展させてグループ会議内で視聴した部署があり、そこでは有期職員の知識獲得や共通認識を図れた。	実施できました。	
④－２ 外部研修や学習会等で得た知識や情報を職員間で共有し、支援現場で活かしていきます。	・eラーニングで受講した内容に関し、職員間で情報交換することがあった。 - また、受講した職員の言動に学んだことが反映される等の事例もあり、研修の成果は一定現れている。	概ね実施できました。	

④－３ 法人及び事業所にとって強みとなるような「専門性」とは何かを考える為のプロジェクトチーム（「専門性PT」）を通じ、社会動向や福祉情勢等の調査、取り組みの検討を進めていきます。（２年間）	・ 取り組み内容の検討を行った昨年度に続き、今年度は候補の中から、主として「インカム」と「メルカリ」に絞って取り組みを進めているところ。 「インカム」はデモ機を利用した結果を踏まえ、後期に導入の有無を検討する予定。	実施できました。	
⑤－１ 避難訓練、応急救護訓練、防災教育等の訓練を継続して実施します。	・ ９／１の防災の日に、避難訓練と起震車体験、防災備蓄品の喫食、初期消火訓練を実施。 後期には２回目の避難訓練とＡＥＤ操作、応急救護訓練を予定している。	実施できました。	
⑤－２ 防災訓練（内容）のバリエーションを増やし、いろいろな状況に合わせて避難行動がとれるように訓練していきます。	・ 上述のように、訓練内容としては起震車体験という新しいプログラムを導入した他、火災による避難訓練では、初めてＢグループ室にある避難扉からの避難を行った。	実施できました。	
⑤－３ 地域機関や地域住民等と連携した避難訓練、防災訓練を行います。	・ 前期中には実施できませんでした。 後期に予定されている避難訓練の際の計画に盛り込めるか、今後の委員会にて検討を行う。	着手できませんでした。	
⑤－４ ＢＣＰ（事業継続）を策定し、計画に基づいた訓練を実施します。	・ ＢＣＰについては感染症にかかる物は作成したが、自然災害に関する物の作成には未着手。 後期に情報収集を行い、作成に取り掛かる予定。 従って、前期中のＢＣＰに基づく訓練は未実施。	着手したが達成できませんでした	
⑤－５ 研修の実施や警察などと連携を図りながら、防犯への意識づけを行います。	・ リスク管理委員会の担当が警察にアポイントを取っているとおりであり、後期に防犯研修を計画している。	着手したが達成できませんでした。	

⑤ー６ 新型コロナウイルスやインフルエンザ等への感染予防策として、手洗いうがいの励行、換気、３密の回避、マスク着用等を徹底し、安全で安心して過ごせる施設環境を整えます。	・手洗いやうがい、消毒、換気、３密回避等の基本的な対策は徹底している。 その他、東京都から届けられる抗原検査キットを用い、週２回検査を実施（実習生は毎日）している。 また、４回目となるワクチン接種も８月に実施し、１２０名弱のご利用者、職員が接種している。	実施できました。	
⑥ー１ 小中高等学校、専門学校、大学等の教育機関と連携を図りながら、実習やボランティアの受け入れを行い、福祉教育や後進育成、進路選択、資格取得等を支援します。	・実習生には毎回抗原検査を実施する等の感染予防を徹底した上で、前期中に介護福祉士、社会福祉士、保育士、公認心理師等の実習受け入れを行った。	実施できました。	
⑥ー２ 施設開放や各種講座の開催等を通じ、地域住民の福祉向上に協力する。	・コロナ感染の為一時中止していた施設開放について、条件付きではあるが再開させた。 しかし、設定等の条件が厳しい為か、利用には至らなかった。 ７月には地域イベントへの参加を予定していたが、感染拡大時期と重なった為、参加を見合わせた。	着手したが達成できませんでした。	
⑥ー３ 大規模災害発生時に、地域の福祉避難所としての役割を担っていきます。 医療的ケアが必要とする方も安心して利用できるよう防災備蓄品等の準備をしておきます。	・町田市二次避難所としての準備は整えている（一日３００食×３日分の備蓄食等）。その他、医療的ケアが必要な方を想定した電源を使わない吸引機等の設置も行っている。 法人として、要医療的ケア者を対象にした防災アンケートを実施したので（９月）、その結果を踏まえ、更に備蓄を増強することも予定している。	実施できました。	

【Aグループ】

(1) 目標「日々、変化のある生活を作り出す工夫を大切に支援します。」
① ご本人らしさが表現できるように配慮した関わりを意識した支援を提供します。
② 社会資源を活用することで、日中活動が「楽しい・うれしい・ドキドキする・満足・ほっとする」体験を大切にします。
③ 生活リズムを整え健康維持に努めるとともに、個別性のある質の高いケアを提供します。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①ー1 活動や余暇時間等の中で、役割を持つことができる関わりを行います。また、一人ひとりがどのようなことに興味・関心を抱いているかを日々の生活から見つけ出し、自分自身で行おうとする意思やサインを見つけ、支援に繋がります。	朝礼や活動時の号令、日用品の補充や書類の処理などの仕事を随時設定しました。それぞれのご利用者がその日の体調などを考慮しながら立候補をしている様子があり、仕事を通して他者と関わる機会にもなりました。	概ね実施出来ました。	
①ー2 安定した心休まる生活環境に配慮します。	1人ひとりがその日の気持ちや体調に合わせて過ごせるよう都度意思を伺い、尊重した関わりを徹底しました。体を休ませながら仕事に取り組んだり、早めに活動を切り上げてゆっくり過ごしたりと様々でした。	概ね実施出来ました。	
②ー1 感染症対策に配慮しながら、ボランティアや実習生等の幅広い人たちと触れ合う機会を設けます。	コロナウイルス感染症対策のため、下半期においてもAグループでの実習生・ボランティア等の受け入れを控えました。	概ね実施出来ました。	
②ー2 タブレットやスイッチ等の機器を導入し、新しい活動に取り組めます。	今年度より新しい製品企画や生産計画、販売や広報活動の各工程をご利用者を含めたAグループの活動として取り組みが始まりました。ご利用者と検討を重ね多数決でガーデンピックの製品化が決めましたが、タブレットやスイッチ等の機器を導入した販売方法の確立までには至りませんでした。	実施しましたが、結果が不十分でした。	

③ー１ ご家庭と情報共有を行いながら健康状態を把握し、心身ともに安定して過ごせるよう、医療職と連携を図りながら健康支援の充実に努めます。	ご家庭や看護師、嘱託医や他事業所等の関係者と情報共有を行うことで、日々変化するご利用者の体調に合わせた関わりが出来るよう努めました。	概ね実施出来ました。	
③ー２ ケアの基礎の観察力をしっかり持ち、根拠のある支援を行います。	Aグループに新規採用職員への研修を実施することで基礎知識の習得と、日々の支援の中での細やかなOJTを行い、共通認識の中で安定した支援が提供できるようにしました。また、日々変化するご利用者に合わせて必要な勉強会を設定することで、新たな知識を得られるよう努めました。	実施出来ました。	

【BCDグループ】

(1) 目標「多種多様で豊富な活動と社会との繋がりを大切にし、ご利用者・ご家族の笑顔溢れる支援を提供します」			
① 様々な活動を提供し、ご利用者の笑顔を引き出します。			
② 地域交流や集団生活を通し、自主性と社会との繋がりを大切にします。			
③ ご家庭のニーズ等を把握し、地域における自立を支援します。			

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①ー１ 楽しさと社会性の双方が培われるよう、活動と作業を随時行います。	ムーブメントやスヌーズレン、音楽などの『活動』と、リサイクルや園芸・陶芸などの『作業』を随時設定し、ご利用者個々に合った内容を行えるよう支援しました。	実施できました。	
①ー２ 新たな内容を模索・実施し、常に高揚感が味わえるよう支援します。	活動の根幹自体は大きく変わることはありませんでしたが、紙すきでコースターを作成したり、療育活動の内容に変化を加えるなど、随時新たな活動内容考え、実施しました。	実施できました。	

①－３ 他グループとの活動共有を図ります。	コロナ禍での感染予防の観点から、他グループとの活動共有は行えませんでした。	着手できませんでした。	国内のコロナに対する状況を確認しながら、安全衛生委員会、運営会議等で花の家においての対策を検討し、臨機応変に対応します。
②－１ ご利用者のできることを把握し、ご利用者が意識的に行動に移せるよう支援します。	活動準備や食事の片付け、送迎の乗車確認など、個々でできることを見つけ、それに合わせた声掛け等を行いました。声掛け等に合わせ、各ご利用者も積極的に行動する様子が見られました。	実施できました。	
②－２ 集団生活の中で周囲のことを意識した行動ができるよう支援します。	ご利用者自身が周囲のことを考え、配慮できるよう、常に支援者が間に入り、声を掛けました。ご利用者によっては理解している行動も多く、周囲を気にしている様子が窺えました。	概ね実施できました。	
②－３ 安全に配慮した中で地域交流や外出を行い、周囲と関わる機会を豊富に作ります。	地域との関りが増すよう、コロナ感染状況が落ち着いている時期を選び、外出や学校との交流会を随時行いました。	実施できました。	
②－４ 職員との繋がりを大切にし、適切な関係のなかで距離が縮まるよう支援します。	職員との関係が適切に保たれるよう、言葉遣いや身体拘束などについて、職員全体に随時研修を行いました。職員によっては、時折、適切でない言葉遣いが見られましたが、ほとんどの職員が昨年度よりも言動に注意した支援が行えました。	概ね実施できました。	
③－１ 社会資源の活用により、自立に向けて支援します。	相談支援かけはしと連携し合い、個々のご利用者・ご家庭に合った社会資源の情報を提供しました。	実施できました。	

③－２ 家庭環境を理解し、各ご家庭に寄り添った支援を行います。	各ご家庭の状況を把握し、通院同行や送迎の調整、レスパイトなど、ご家族のご要望にできる限り応えられるよう支援しました。	実施できました。	
---------------------------------	--	----------	--

【EFGグループ】

(1) 目標「一人ひとりの障がい特性に合わせ活動提供し、自分の力を存分に発揮できるよう支援します」			
① 個々のニーズや得意なことを活動の中に取り入れ、持てる力を発揮できるように支援します。			
② 地域との繋がりを大切に活動を行います。			
③ ご家庭やグループホームと連携しながら健康で安定した生活を支援します。			
④ レクリエーションを充実させることで心身のリフレッシュの機会を持ち、日々の活動に取り組む意欲につながるようにします。			
⑤ 職員の障がいへの知識・理解が共有、向上できるよう目指します。			

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１ 他グループと活動共有をしながら、個々の興味や状態に合った活動提供をします。	新型コロナウイルス感染症の為、Fグループのみで活動を行い、EGグループが活動共有を行いました。ご利用者の状態に合わせた活動提供をすることが出来ました。	概ね実施出来ました。	感染状況を見ながら活動共有が出来る時に行っていく。
①－２ 作業を含めた活動や生活の中で、ご本人が行えることの幅を広げながら、一人ひとりの力が発揮できるよう支援します。	ご利用者一人ひとり、出来ることは自分でやることを基本にして支援をしました。出来ることが増えたご利用者もいました。	実施出来ました。	
②－１ 施設外での活動（リース等納品やビラ配り、出張販売等の作業や買い物など）に取り組むことで、地域の方々と触れ合う機会を設け、社会参加につなげていきます。	新型コロナウイルス感染症の為、リースや納品、買い物を行いました。リースで観葉植物を届けると、「いつもありがとう」などの声を掛けて頂き、ご利用者も嬉しそうな表情を見せていました。	実施出来ました。	
③－１ ご家庭・ホームや医務と情報を共有しながら、体調把握に努めます。	体調不良や怪我をした時にはご家庭への連絡や医務と情報共有を行いました。	実施出来ました。	

③－２ 日々のバイタルチェック及び月１回の体重測定を行い、健康状態の把握に努めます。	毎日二回の検温やバイタルチェックを行いました。また、月一回の体重測定を行い健康状態の把握に努めました。	実施出来ました。	
④－１ 心身のリフレッシュや日々の意欲につながるイベントを企画し、実施します。	各グループとも月一回はイベントを行い、日々の活動への意欲が出るように努めました。	実施出来ました。	
④－２ ご利用者が楽しみながら参加できる運動プログラムの充実に努めます。	昨年度末より、新しく始めている体操では、音楽に合わせて身体を動かすなどご利用者も笑顔で参加していました。また、体づくりではストレッチを中心に言い少しずつ可動域が広がっている関節もありました。	実施出来ました。	
⑤－１ 情報共有のさらなる向上と研修への積極的参加が出来るよう努めます。	情報共有の向上についてはインカムの導入の検討がありましたが導入出来ず、変化はありませんでした。 研修への参加は出来ました。	概ね実施出来ました。	情報共有に関しては今後も検討していきます。

2. クッカ広場

【全体】

(1) 目標「ご利用者が充実した社会生活を継続的に送れるよう、個々のライフステージやニーズに応じた就労支援・生活支援を行います」

① 事業収入(売上)1,500万円を達成します。

② ご利用者一人ひとりの状態像に適正に応じた就労・生活支援を行います。

③ 安全、安心して過ごせる環境を整えます。

④ 質の高い支援とサービスを提供するために職員育成に努めます。

⑤ SDGsを意識した取り組みを行います。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①-1 リサイクル事業では、季節ごとにセールを開催し商品を入れ替えることで「飽きの来ない楽しみを提供できる店」づくりに力を入れ、売上1,100万円を達成します。	飽きの来ない店づくりを基本に、4月・6月・9月にリサイクル全品半額セールを行い商品の入れ替えをしました。セールのない月にはスカート、ズボン10円企画や300円割引企画、衣類半額セールなどを実施しお客様から好評を得ることができました。上半期店舗売り上げ6,639,270円、その他の収入34,500円となりました。	実施できました。	セール開催時期を季節変化に先駆けて実施できるよう調整していきます。
①-2 ガーデン事業では、ショップ販売・観葉リース・花壇管理などの作業を中心に収入340万円を達成します。	5月に町田市の小学校3校に学習教材として使用する花苗や資材の納品、町田市の小山田児童公園の花壇撤去・植え付を行いその後も毎月水やりや清掃の花壇管理を行いました。毎月の観葉リースが3件と各月の観葉リース1件を行いました。リース、花壇管理等の収入は558,338円となりました。6月にコロナ禍で中止や出店を控えていた「しょうぶ、あじさい祭り」に3年ぶりに出店し多くのお客様にしょうぶをご購入いただきました。今期初めてドライフラワーとして販売する貝細工の花を種から育て収穫、作成、販売しました。店舗売り上げが減少傾向にありますが、上半期店舗売り上げ863,005円となりました。	実施しましたが結果不十分でした。	売り上げ増収を目指し、店舗での販売方法を検討していきます。

①-3 受注事業では、除草・分別作業などを中心に収入60万円を達成します。	日々CD仕分け作業を行いました。ご利用者の作業ペースも上がり、上半期231,462円の収入となりました。4月から花の家除草作業に着手し、7回実施しました。今後花の家清掃作業に着手し進めていきます。花の家除草・清掃作業は下半期の収入となります。	実施できました。	
①-4 カフェ事業では、自家焙煎珈琲豆・プリン・焼き芋販売を中心に売上37万円を達成します。	コロナ禍で2年以上営業を中止しています。今後のカフェについて検討しましたが職員体制や、作業提供などの課題に原材料の高騰が重なり、店舗営業含めコーヒー豆の販売、自家製プリンの販売を当面の間中止することとしました。焼き芋の販売は季節限定で継続していきます。上半期売り上げは213,410円となりました。	実施できました。	カフェ店舗の今後を検討します。
②-1 モニタリングやアセスメント面談を6ヶ月毎に行い、ご本人のニーズや状態像変化の把握と課題を整理し支援計画を作成します。	4月から9月（上半期）までの支援計画の振り返りをご利用者とともにを行い目標の達成度を確認しました。また状態像の変化や新たなニーズや課題を把握し、職員間で情報共有し、今後の支援につなげていくことを話し合いました。	実施できました。	
②-2 職場でのあいさつの習慣化やコミュニケーションの図り方、身だしなみへの意識づけなど、社会性が学べるよう支援します。	日々積極的に職員から挨拶や声掛けを行いました。挨拶や返事をしっかり行うことのできるご利用者が増えました。衣服やマスクの乱れや汚れなどが見られた際にはその場で伝え正していただくことで身だしなみ対する意識の向上が見られました。	実施できました。	

③-1 医務部門と連携し、体調変化の早期発見・対応に努めるとともに健康診断、歯科検診を実施します。また、相談しやすい環境づくりに努めます。	7月14日に医務と連携し健康診断を実施しました。日常的に来所時の顔色や行動の変化を見逃さないよう観察しました。不調や不調の訴えがあった際には状態を確認し、必要に応じて医務に連絡を取り対応、対処しました。精神的に不安定になるご利用者や面談を希望するご利用者には随時面談を行いました。精神的不調も含め大きな体調不良やケガもなく過ごすことができました。	実施できました。	
③-2 防災訓練・避難訓練・応急救護訓練・防犯訓練を実施し、様々な状況に合わせた行動が出来るようにします。	9月1日(午前)地震を想定した避難訓練を行いました。(午後)起震車をご利用者全員と一部職員が体験し、地震のすごさを確認することができました。繰り返し訓練を行うことで地震発生の声掛けにすぐに机の下に入る、頭をカゴで覆うなどの状況にあわせた身を守る行動を取り、スムーズに避難することができました。	実施できました。	防災頭巾の場所がわかりやすくなったものの取り出しにくい等の課題があり、保管場所の再検討を行います。
③-3 感染症対策を徹底し、感染防止に努めます。	コロナ禍の中、日々感染症対策を徹底しました。手洗い、マスクの着用はもとより、ご利用者のお茶うがいの継続、作業場等の消毒、換気、午前・午後の検温、黙食を行いました。店舗ではお客様にマスクの着用、入店前の手指消毒にご協力いただき、常時換気を行い、使用後の買い物カゴの消毒、感染症対策協力のアナウンスを行いました。また、職員は週2回の抗原検査を実施し、必要に応じてご利用者の抗原検査も行いました。ご利用者、職員数人の方がコロナに罹患しましたが、適切な感染症対策を行うことで拡大することはありませんでした。	実施できました。	

④-1 研修等を通じて必要な知識や技術・専門性を身につけ、質の高い支援につなげます。	6月3日「個人情報保護法」、8月5日「支援上の記録の書き方」を職員全員で受講しました。今まで知らずに対応していたことへの城も多く、研修後は各自で学びを振り返るとともに職員会議でも支援に必要な知識や技術を再確認し、支援につなげることができました。	実施できました。	
④-2 よりよいチーム支援が出来るように研修等で得た知識や技術、情報を全職員間で共有します。	研修で得た情報や日々の終礼でご利用者の様子や気付きを情報共有し、新たな課題、問題を解決できるようにチームで取り組むことに努めました。	実施できました。	
⑤-1 リサイクルショップを窓口とした海外支援を検討します。	クッカ広場の品物とは区別した形でリサイクル品の海外支援を目的とした品物の種類や回収方法を検討しましたが結論には至りませんでした。	実施しましたが結果不十分でした。	引き続き検討していきます。
⑤-2 海外支援についての知識や情報を学び、準備します。	インターネット等を通じて海外支援を実施しているボランティア団体を見つけ詳細を確認しました。どの団体を利用して海外支援をしても送料負担が発生することがわかりました。	実施できました。	費用負担についての検討も行っています。

3. かけはし

(1) 目標
① 障がい福祉サービスを利用する方より良い暮らしづくりを目指し、当事者の想いに寄り添った相談支援を提供します。
② 当事者のニーズに応え、当事者が望む生活を支える為に、各種サービス利用や社会資源の調整、マネジメントを行い、計画立案と定期的な状況確認（モニタリング）を行います。
③ 相談支援で得られた情報を通して地域における課題を明らかにする中で、障がいのある方が暮らしやすい地域社会の実現を目指していきます。
④ 相談支援の質の向上、相談業務の専門性の習得を目指し、研修等を通じて相談員の育成に努めます。
⑤ 事業の継続と発展を目指し、適正な人員配置と収支バランスを意識した運営を行います。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①-1 ご利用者の想いにより添った、丁寧な相談支援（基本相談）を行います。	・計画書やサービス利用に繋がらないような内容の相談にも丁寧に対応するようにしている。	実施できました。	
②-1 ご本人が望むご本人らしい生活の実現を目指して、各種機関・サービスと連携し、サービス等利用計画の作成およびサービスのマネジメントを行います。	・新規受付は行っていない為、従前のご利用者に対する計画相談支援を継続して行っている。 かけはし開設以来5年が経過し、情報も集積してきており、関係機関とのネットワークも構築できてきている。 そのネットワークを通じて、多角的な支援を提供できている。	実施出来ました。	
②-2 定期的な状況確認（モニタリング）を行うことで、ニーズの変化や追加、サービス利用上の課題等に対応していきます。	・今年度はスケジュール管理を徹底することで、ほぼ予定通りのモニタリングが行えている。 モニタリング期間が3ヶ月となったことで、より丁寧な状況把握ができるようになったが、変化のない方も多く、聞き取りが形骸化、形式化してしまう傾向もある（陥らないよう注意が必要）。	実施できました。	
②-3 計画立案やモニタリングに遅れが生じないようにスケジュール管理を確実に行っていきます。	・上述のように、今年度はスケジュール管理を徹底することを相談員間で申し合わせており、ほぼ規定通りのモニタリングが行えている。	実施できました。	

③-1 ご利用者が地域で豊かに暮らせるために、関係機関との連携を図ります。	・町田市や法人連絡会の相談支援事業所連絡会、忠生地域のネットワーク会議等を通じて顔の見える関係性が構築されている。 いろいろなご利用者の相談に対し、様々な地域の多様な関係機関の協力を得ながら（相談）支援を提供できている。	実施できました。	
③-2 相談支援を通じて得られた情報や相談支援事業所連絡会での意見交換を通じて得られた情報等から地域の課題を明らかにする中で、関係機関や行政と連携を図りながら障がいのある方々が暮らしやすい社会の実現を目指します。	・上述した連絡会やネットワーク会議において、個々の事例を踏まえた地域の課題を共有しながら、上部団体等へ改善に向けた取り組みを提案する等の活動を行っている。	実施できました。	
④-1 法人の人事制度の活用や研修等を通じて、相談支援の質の向上、相談業務の専門性の習得を図ります。	・法人の研修システム（eラーニング）を利用して知識の習得に努めたほか、町田市相談支援事業所連絡会の事例検討等を通じて、相談支援の質の向上に努めた。	概ね実施できました。	
⑤-1 高い質の相談支援を行う為の人員配置を行いつつ、収支バランスが適正に保てるよう、相談件数が月35件を目指して段階敵に取り組めます。	・モニタリング等の期間毎に支援しても多い時で月24件に留まっている。後期の件数の推移を観ながら、将来的には契約者数の見直し（増やす）も視野に入れて対応を検討していく。	実施しましたが到達しませんでした。	

4. 医務部門

(1) 目標

① ご利用者の安心・安全な生活を目指して心身の健康支援を行います。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①ー1 ご利用者の体調を把握し、異常の早期発見・早期対応に努めます。 ・軽微なけがなどの処置 ・バイタルサインチェック（毎日） ・嘱託医（内科医、小児神経科医）による医療相談（毎月） ・健康診断のチェック（年1回） ・訓練士（PT）による作業訓練（月2回/不定期） ・町田市口腔保健センターによる歯科検診（年1回） ・鶴川記念病院健診部による健康診断（年1回） ・歯科医師による摂食指導	・7月14日鶴川記念病院健診部による健康診断を実施しました。（生活介護、就労Bの希望者）健診結果は嘱託医に確認・助言をいただき支援職員と共有しました。受診の必要性がある時もありました。 ・町田市口腔保健センターによる歯科健診を12月12日に実施しました。コロナの流行により、キャンセル者も増えたため、感染対策に十分配慮しました。 ・町田市歯科医師会医師による摂食指導を実施しました。（生活介護） ・毎月2回嘱託医による医療相談を実施しました。 ・訓練士（PT）による作業訓練等は生活介護の各グループを巡回し支援職員や看護師に対して助言・指導を行なっています。助言を頂きながら一緒にAグループご利用者の身長測定を実施しました。	実施できました。	引き続き行なっています。
①ー2 服薬管理を適切に行います。 ・日常的な服薬内容の把握 ・3日分の予備薬管理	・予備薬の交換を行いました。例年屯用薬（座薬等）の提出忘れが多かったことから、今年度は配布プリントに個別にマークで印をつけて注意を促しました。比較的提出忘れが少なかったので続けていきます。 ・4月、新入職員に対して「薬の取り扱い」について研修を行いました。 ・市販薬、屯用薬の服用介助については徐々にルールが定着しつつありますが何人かのご家庭に服用の確認のご連絡をしました。	実施できました。	引き続き行なっています。

①－３ ご家族、主治医、嘱託医、提携病院、他の専門職（栄養士、PT等）、支援職員、他事業所等との連携を図り情報の共有をします。	・日々、支援職員、ご家族、主治医、嘱託医、他事業所等との連携に努めました。主治医とご利用者の様子について電話連絡もしました。 ・ワクチンバスによる職域接種の会場準備や接種者の誘導等の協力をしました。	実施しました。	引き続き行なっています。
①－４ 軽微なけがなどの処置は、支援職員が安全に実施できるように指導していきます。（「医行為でない行為」に基づいて）。	・軽微なけがや虫刺されなどの処置はその場で支援職員に指導をし処置をできるように努めました。処置前に洗浄してから医務室へ来る支援職員も増えています。	実施できました。	引き続き行なっています。
①－５ 介護職員等による喀痰吸引等の指導要綱に基づき、対象者への実地研修・指導を行います。	・認定特定行為業務従事者に対して実地研修を行い日々医療的ケアの指導を行いました。5月小沢医師による食品注入の研修を行いました。注入用品の新規格への変更についてグループ会議を通して取り扱い方法を説明し、支援職員による食品注入も行なうようになりました。 ・12月,1月注入手技のフォローアップ研修を行い、知識、手技の再確認をしました。	実施できました。	引き続き行なっています。

5. 栄養部門

(1) 目標
① 季節感のあるメニュー、味付けや盛り付けの工夫、利用者の嗜好の反映等に努め、より美味しくて飽きのこない食事の提供を目指します。
② ご利用者個人にあわせた食事形態を提供をします。
③ HACCPに沿った調理環境の整備、衛生管理を徹底し、安心・安全な食事を提供します。
④ 肥満、生活習慣病予防対策としてご利用者の栄養管理を行います。
⑤ 知識や技術の向上を目指します。
⑥ 安定した食事を提供する為、発注漏れ等の事故防止に努めます。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①-1 旬の食材や行事食を取り入れ、季節感のある食事を提供します。	旬の食材の使用(花の家で採れたパセリ・玉葱・じゃが芋・長葱使用)、行事食(入所式・子供の日・七夕・土用の丑・海の日・山の日・夏祭り・十五夜・ハロウィン・冬至・クリスマス・お正月・成人式)を取り入れ、季節感のある食事を提供しました。	実施できました。	
①-2 嗜好調査(5月・11月) 残食調査(8月・2月)を実施します。	嗜好調査を、5/23(月)～5/27(金)、11/14(月)～11/18(金)に実施、残食調査を、9/12(月)～9/16(金)と2/13(月)～2/17(金)に実施しました。	実施できました。	
①-3 栄養会議を実施し、献立や食事内容の改善を行います。(毎月)	支援各事業所(生活介護・クッカ)へアンケートを配布し、それを元に栄養会議を行いました。支援からの意見や喫食状況・要望を把握した上で、食事内容の改善を行いました。質問があった場合は、回答を正職会議資料に載せ、全体へ周知できるようにしました。(給食の味付け、濃さ、固さの調整等)	実施できました。	
①-4 リクエスト給食や栄養部門アンケートを実施し、ご利用者の嗜好を取り入れた献立を作成します。	栄養部門アンケートの要望やリクエスト内容を検討し、献立に取り入れました。12月に、花の家で提供したメニューランキングを集計し、上位3位までのメニューを採用しました(3月に実施)。	実施できました。	

①-5 保護者向けの給食試食会を実施し、保護者のニーズや意見を把握します。	今年度も、コロナ対策の為、実施していません。	着手できなかった。	調理研修については、再度次年度計画する。(コロナ感染状況による)
①-6 調理研修の実施やマニュアルを作成し、安定した食事の提供をします。	調理研修については、コロナ対策の為、実施していません。	着手できなかった。	再度次年度計画する。(コロナ感染状況による)
①-7 グループ訪問を行い、ご利用者の食事状況の把握に努めます。(11月～3月感染予防週間以外の期間と、コロナの感染状況による)	今年度も、コロナ対策の為、実施していません。	着手できなかった。	再度次年度計画する。(コロナ感染状況による)
②-1 支援職員と連携を図り、ご利用者の摂食機能に合った食事形態を、年3回の歯科医師の回診によるアドバイスを含めて検討し、食べやすい食事を提供します。	摂食については、摂食会議の結果・歯科医師の巡回診察(年3回)の結果を考慮している。今年度6月・10月に歯科医師の巡回診察を行ったが、形態変更の要望はなし。	概ね実施できました。	今年度、残りの巡回診察が残り1回(2月)の結果によっては、形態変更の要望が出る可能性がある。
②-2 ご利用者個人に合わせたアレルギー対応・制限食等の提供をします。	今年度は、昨年度からのご利用者のアレルギー対応・制限食対応に加え、注入食移行のご利用者のアレルギー対応準備中です。	実施できました。	
②-3 食品注入食導入に向けて、支援・医務との連携を図ります。	今年度5月を目標に新たに1名、食品注入に向けて支援や医務と計画を立て、調整を行っていましたが、ご利用者本人の事情により、新規の食品注入はありませんでしたが、来年度に向けてもう1名、注入食移行に向けて準備中です。	実施できました。	
③-1 配膳間際の盛り付けや、保温性のある食缶の使用、電子レンジを活用し適温での食事の提供をします。HACCPに沿った衛生管理を行います。	適時適温と調理後2時間以内の喫食を遵守する為に、調理工程の見直しと配膳間際の盛り付け、冷蔵庫での保管等の適切な温度管理を行いました。	実施できました。	

③－２ 細菌検査を実施します。(毎月)	毎月１回実施しました。	実施できました。	
③－３ 冷凍・冷蔵庫、厨房の室温等の温度管理を行います。	調理機器の温度管理を行いました。	実施できました。	
③－４ 手洗い後のペーパータオルの使用・アルコールでの消毒、使い捨てマスクの使用等、衛生管理を徹底して行います。	計画通り徹底して行いました。	実施できました。	
③－５ 電解水、殺菌庫、食器消毒保管庫を使用して調理器具類の消毒や殺菌を行います。	計画通り徹底して行いました。	実施できました。	
③－６ 日常的な清掃（床、冷蔵庫、トイレ他）と定期的な清掃（換気扇、下水）を行い、厨房内を衛生的に保ちます。	日常清掃に加え、随時気になる所の清掃を行っている為、清潔に保つ事が出来ました。	実施できました。	
③－７ 調理従事者の衛生教育を行います。	洗浄室の洗浄後の手袋やエプロンの使い分けの変更を行い、衛生面の見直しを行った。	実施できました。	
③－８ HACCPに沿った厨房の環境整備を行います。	2021年度6月より運用している、HACCPに基づいた衛生管理マニュアルに沿って、環境整備を行った。	実施できました。	
④－１ 年１回実施のご利用者の健康診断のデータと、給与栄養量に基づいた食事を提供します。	昨年度より、給食の塩分量を見直し、塩分量を減らしました。	実施しましたが、結果が不十分。	月間の平均値は、まだ塩分量が多い為、更に塩分量を減らしていく。

⑤－１ 調理実習や試食会の参加等を行い、技術や知識の向上を目指します。	今年度もコロナ対策の為、調理実習、試食会等の参加はしていません。	着手できなかった。	再度次年度計画する。(コロナ感染状況による)
⑤－２ 法人内の他事業所との連携を図り、知識や技術の向上を目指します。	花の郷・アルモニーとの業務提携・情報交換は行いませんでした	着手できなかった。	再度次年度計画する。
⑥－１ 事故防止の為、発注等の漏れ・献立表の記入ミスが無いよう、献立作成から作業指示書作成、発注前後において都度チェックを行います。	栄養士が作業指示書作成後、掲示用献立表と直近の過去メニューを参照の上、発注前後のチェックを行い、在庫チェックリストを元に在庫チェックを行いました。また、発注書作成から発注前後の品目名・規格量のチェックも徹底する。	実施しましたが、結果が不十分。	発注ミスが未だに無くなっていない。発注時の物品の規格量・メーカー(加工食品の場合)の確認、発注前後の品目と在庫量・使用量のチェックを徹底する。

6. 運営部門

(1) 目標
① 設備環境や人的環境を効果的に運用し、健全な財政運営を行います。
② 法人の人事制度と連動させながら、職員の育成と専門性の向上を図ります。
③ 働きやすい環境と自己責任と自主性、チームワークを大切にした強い組織作りを目指します。
④ 職員の心身の健康管理に努めます。
⑤ 感染予防、防災、防犯等に努め、安全で安心して過ごせる環境を整備します。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１ 設備環境や人的環境を効果的に運用しながら、健全な財政運営、資金の確保に努め、将来的に持続可能な施設運営、法人経営を行います。	・花の家とクッカ広場、エール等複数事業を営む多機能事業所として、効率的な人員配置等を行うことができる為、人件費率も６０％（後半）に抑えることができる等、財政面上も効率の良い運営ができています。	実施出来ました。	
①－２ 財政状態を勘案しつつ、適正な職員配置を行い、予算と現場のバランスが取れた運営を行います。	・花の家とクッカ広場、エール等複数事業を営む多機能事業所として、効率的な人員配置等を行うことができる為、人件費率も６０％（後半）に抑えることができる等、財政面上も効率の良い運営ができています（同上）。	実施出来ました。	

②－１法人の人事制度と連携し、職位や経験、自己目標に応じた成長方針に基づいた目標管理計画を立案し、職員の質と専門性の向上を図ります。	・新人事制度への移行期間にあつて、新しい役割基準や目標管理面談等の試行を始めているところ。 職員の意識づけ、システムの運用方法もまだ確立されている段階ではない。 前期行った管理者の評価者研修の内容をシステムに反映できるよう努めていきます。 上記の新人事制度と研修の仕組みの関連付けもまだ確立はされていないものの、試行的な取り組みは始められています。	概ね実施出来ました。	
②－２ 各現場において、ＯＪＴ（On-the-Job-Training＝業務を通した教育、研修）を重視した育成を行います。	・グループリーダー、主任という指導的な立場にある職員が相応しい成長をしてきており、ＯＪＴが適切に行われるようになってきています。	実施出来ました。	
②－３ ご利用者の人権擁護・虐待防止の観点から、研修委員会と連携しながら「不適切な支援」事例を通し「適切、適正な支援」方法を考えます。	・「不適切支援」を題材に自分達の支援を振り返るワークを正規職員対象に実施し（８月）し、スローガンを作成しました。 同じ内容を１０月に有期職員を対象に実施を予定しています。	実施出来ました。	
③－１ 職位と業務内容、権限を明確にすることで、一人ひとりの職員が自分の役割と職責を理解し自主的かつ積極的な働きができ、他者への思いやりとチームワークを大切にした職員関係の構築を目指します。	・新人事制度はまだ試行段階ではあるが、少しずつ職位への意識づけもできてきている様子。 それぞれの職位にあるものが、相応しい行動を取ることで、良いチームワークが形成されていると言える。	概ね実施出来ました。	
④－１ 健康診断のアフターフォローを確実に行います。	・今年度から産業医の関わりが明確化され、健診結果に指導内容が記載されることになりました。 今年度に関し、大きな指摘はありませんでした。	実施出来ませんでした。	

④－２ 職員の健康管理について、嘱託医や産業医の活用を検討していきます。	・上述のように、今年度から健康診断結果について産業医に見ていただき、指導と助言をいただけるようになりました。 - その他、職員のメンタルヘルス等に関しては、必要な事例が出た場合に助言をいただいています。	実施出来ました。	
④－３ メンタルヘルスについての取り組みを行います（研修の実施等）。	・全管理者及び主任が「メンタルヘルス研修」を受講しました（昨年度から今年度にかけて）。 ・７～９月にかけてストレスチェックを実施（中）。その結果次第で、必要な対応を行う仕組みができています。 ・今年度に「心の健康づくり計画」を策定し、来年度からの執行の準備を整えました。	実施出来ました。	
⑤－１ 衛生、感染予防の観点から、安全衛生美化委員会と連携して、施設の衛生管理（消毒等）、手洗いやうがい、換気、３密の回避等の感染予防策を徹底します。	・計画通り、手洗い、うがい、換気、マスク着用、黙食等の感染予防に努めているほか、東京都が配布するキットを用い、週２回抗原検査を実施しています。 ・その時々々の感染状況等を鑑み、花の家における生活や活動の質にも留意しながら、活動等の内容を検討しながら提供しました。 ・コロナ感染につきましては、単発での発症はご利用者や職員にありあましたが、クラスターの発生は防ぐことができました。	実施出来ました。	
⑤－２ 防災対策では、実態に即した訓練や地域と連携した訓練、備蓄品の拡充に努めます。	・９月１日の防災の日に、避難訓練、起震車体験、防災備蓄品を給食に提供、初期消火訓練を実施。 - 後期（２月）には、桜美林町内会のご協力をいただきながら、近隣の関係施設（ぐうし館）との初の合同防災訓練を実施しました。	実施出来ました。	

⑤－３　ＢＣＰ（事業継続）を策定し、計画に基づいた訓練を実施します（年３回・９～１１月予定）	・ＢＣＰ作成に関し、情報収集には努めました、作成には至りませんでした。	着手しましたが実施できませんでした。	
⑤－４防犯対策として、警察署（交番）や地域、関係機関と情報共有し連携を図ります。	・１月に町田警察署による防犯研修（刺す又等を使用した）を実施しました（７年ぶり）。実技を交えた研修から学ぶことは多くあり、参加者からも好評でした。	実施出来ました。	

7. 安全衛生美化委員会

①作業場や生活空間、施設全体の環境整備に努めます。
②感染症予防に努めます。
③事故時の迅速な対応と、事故件数、前年度比10%減を目指します。
④環境整備、保健衛生、事故・ひやりはっつに関する研修を実施し、職員の意識向上に努めます。
⑤医務部門と協力し、職員、スタッフ、ご利用者の健康を支援します。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①ー1 日々の定期清掃の実施	各グループごと決められた箇所の清掃を行うことができました。	実施できました。	引き続き実施します。
①ー2 年3回以上美化DAYを設定し、普段行えない場所等の清掃を実施します。	年度内で4回、「美化デイ」と称する日程を組み、職員全体で普段行えない場所を清掃しました。	実施できました。	引き続き実施します。
①ー3 担当を配置し、機器類（加湿器や捕虫器等）の管理を徹底します。	各グループの加湿器や扇風機については、グループごと時期をみて設置するなど、適宜管理をしました。また、ホール等に設置した加湿器、捕虫器に関しては、管理する担当を決め、適切に清掃等を実施することができました。	実施できました。	機器類が増えた際などは、管理が適正に行えるよう、その都度担当を配置します。
①ー4 清掃や整理整頓に関する啓蒙および指導を行います。	清掃に関する研修は行いませんでしたが、ワクチン接種の日（ご利用者半日）を利用し、美化委員主導のもと、清掃の方法を職員に伝えました。また、整理整頓については、ポスター等を靴箱等に掲示し、常に意識できるようにしました。	概ね実施できました。	適宜、清掃に関する研修等を実施します。
①ー5 理美容の調整をし、月1回程度実施します。	月の最終週の月曜日にカットボウを行いました。美容師資格のある職員がカットを行い、ご利用者からの評判も良く、滞りなく実施できました。	実施できました。	引き続き実施します。
②ー1 インフルエンザ予防接種の推奨します。	職員向けに助成金を設定し、予防接種を推奨しました。	概ね実施できました。	より効果のある勧奨方法を考えつつ、来年度も実施します。

②－２ 適切な情報収集による早めの予防対策の実施と周知の徹底をします。新型コロナウイルスの動向には特に注意し、その時の情勢等を見極めて予防対策を実施します。	感染症予防のため、空気清浄機や加湿器、CO2計測器を設置し、室内環境に十分注意を払いました。新型コロナウイルスの罹患者が施設内で出た際は、保健所と連携を図り、濃厚接触者を特定し、感染が広がらないよう適宜対応しました。濃厚接触者を速やか特定したことで、それ以上は感染が広がることはありませんでした。 また、施設内でワクチン接種を行うなど、出来る限りリスクが軽減できるよう配慮しました。	概ね実施できました。	引き続き実施します。
②－３ 感染症予防・対策に関する研修を実施します。また、感染症予防マニュアルの周知徹底を図ります。	手洗いや嘔吐時の対応、感染予防について研修を実施しました。また、「感染症及び食中毒の予防及びまん延防止のための指針」を作成し、職員間で周知できる環境を整えました。	概ね実施できました。	職員全体が指針の内容を把握、理解できるように、周知方法を検討し、実施します。
②－４ ノロウィルス等感染性胃腸炎対策については、栄養部と連携し、HACCPや電解水等を活用しながら食品衛生を徹底します。	電解水、HACCP（食中毒などの健康被害を引き起こす可能性のある危害要因を科学的根拠に基づき管理する方法）を随時活用し、適切な衛生管理を実施しました。	実施できました。	引き続き実施します。
③－１ 事故・ひやりはっと発生時の迅速な対応を行います。	事故・ひやりはっと発生時は各現場で迅速に行動し、当該者への通院の促しなど、適宜その事象にあった対応を行いました。	実施できました。	引き続き実施します。
③－２ 月一回のグループ会議で気づき報告、KYT（危険予知トレーニング）研修を行い、ひやりはっと等への意識を向上させ、事故を未然に防ぎます。	各グループ会議内でKYT研修を常時行いました。KYT研修を行ったことで、事故に対する意識づけが行え、支援の事故減少に繋がりました。	実施できました。	引き続き実施します。

③ー３ 事故・ひやりはっとの記録と管理、周知を徹底し、再発防止に努めます。	事故が起こった際は担当で速やかに会議し、記録と関係者への周知を徹底しました。。また、３か月後に事故のモニタリングをし、その記録の記載も徹底しました。ひやりはっтоに関しては、起こったすべての内容を各グループ会議で伝え、共有理解ができるようにしました。	実施できました。	引き続き実施します。
③ー４ 研修委委員会と連携し、リスクマネジメントの研修に積極的に参加します。	外部研修についてはコロナ禍等で参加することができませんでしたが、e-ラーニングを活用して、職員全員が好きな時に研修できる環境を整えました。	概ね実施できました。	引き続き実施します。
③ー５ 上記の計画を行い、事故件数、前年度比10%減を目指します。	昨年度と比較し、支援中の事故は約2割減、車輛事故は約7割減にすることができました。	実施できました。	事故件数を少なくするとともに、ひやりはっとの件数を増やし、事故防止の意識が高まるようにします。
④ー１ 様々な媒体を活用し、安全衛生等に関する研修、職員の派遣を行います。	実地研修の他、オンラインやe-ラーニングを活用し、安全衛生に関わる研修を随時行いました。	実施できました。	引き続き実施します。
⑤ー１ ご利用者、職員対象の健康診断（年１～２回）の実施と、アフターフォローを確実にを行います。	健康診断を計画通り実施し、検査結果を管理者、産業医で確認しました。その後、再検査等のある職員に関しては声掛けをし、アフターフォローを徹底しました。	実施できました。	引き続き実施します。
⑤ー２ 腰痛予防PTを設置し、腰痛対策に関して継続的に取り組みます。（アンケート実施・腰痛ベルト支給、機器類の配置等）	腰痛ベルトや膝・腱鞘炎サポーターの助成を行いました。また、腰痛予防PTを設け、昇降リフトの継続的な使用や床走行リフトの導入、アシストスーツの推進など、腰痛予防への取り組みを強化しました。	実施できました。	引き続き実施します。

⑤－３ 心身の健康に関して、相談しやすい環境を整えます。	法人全体でストレスチェックを実施して、職場環境の把握に努めました。また、メンタルヘルスに関する指針の作成や外部相談窓口をポスター等で分かりやすく周知するなど、職員が相談しやすい環境を整えました。	実施できました。	メンタルヘルスに関する指針を職員全体に周知し、今以上に相談しやすい環境を整えます。
------------------------------	---	----------	---

８．送迎委員会

(１) 目標
①運転するすべての職員が安全に運転業務を遂行し、事故件数昨年度比5割減を目指します。
②ご利用者個々の特性を理解し、車内での安全を確保します。
③送迎を利用されるご利用者のニーズに応えられるよう努めます。

(２) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１ 職員全体に運転をする上での注意喚起（研修等を含む）を随時行い、事故件数を昨年度よりも減らします。	研修（ドライブレコーダーの映像を介した）や個々への注意喚起を随時行ったことで、昨年度に比べ車両事故件数を約7割減らすことができました。	実施できました。	車両事故がなくなるよう、運転する職員への注意喚起を常時行います。
①－２ 新しい職員が入職した際はその方の運転技術等を見極め、必要な期間、運転研修や運転実施練習を行います。	運転可能な新しい職員の入職がなく、運転研修等はありませんでした。運転手に関しては、年度末に入職した方への運転研修を現在（2023年3月末）行っています。	実施できました。	
①－３ ドライブレコーダーを活用し、随時、運転状況の確認を行います。	添乗員等から危険な状況があったと話があった際は、ドライブレコーダーを確認し、その状況の把握に努めました。また、確認した上で運転手に注意喚起をし、安全運転に努めてもらえるよう配慮しました。	実施できました。	
①－４ 車両の定期点検を行い、故障時には迅速に対応します。	各車両の車検、6か月・12か月点検を実施しました。また故障等が起きた際には迅速に対応することで安全に運行することができました。	実施できました。	

①ー５ 事故が起こってしまった際は、マニュアル通りの対応が潤滑に行えるよう、運転手、添乗員への周知徹底を図ります。また、速やかに事故検証会議を行い、同じ事故が起らないようすべての職員に促します。	・事故発生時の適切対応を全職員・運転手に徹底したことで、事故処理に関しては不備なく行うことができました。 ・事故後は同様の事故が起らないよう、速やかに事故検証会議を行いました。また、事故時の映像を職員・運転手で共有したり、連絡ボードを活用したことで、同じような事故が複数回起こることはありませんでした。	概ね実施できました。	
②ー１ 送迎連絡ボードを活用し、注意が必要な事象があった際は添乗員への周知を徹底します。また、送迎時の各ご利用者のマニュアルを更新し、ご利用者の特性を理解して添乗業務にあたれるよう努めます。	各ご利用者の送迎時のマニュアルを再度確認し、ご利用者一人ひとりが安全に乗車できるよう努めました。また、送迎車内での事故、ヒヤリハットがあった際は、その都度、連絡ボードに内容を記載するなど注意喚起を徹底しました。通院に至る事故はありませんでしたが、職員の注意不足による怪我等の事故が数回見られました。	着手しましたが、結果が不十分でした。	各ご利用者への配慮をさらに徹底し、車内での安全と風通しの良い送迎運行ができるよう努めます。
③ー１ 希望するご利用者全員が利用できるよう、乗車車両や乗車位置の調整を行います。	常に乗車車両や乗車位置を検討し、乗りたいご利用者が100%乗れるよう配車しました。	実施できました。	
③ー２ ご家庭の状況に合わせて、到着時間等をできる限り配慮します。	ご家庭の要望に合わせて送迎時間の調整をしました。ただ、要望の時間を見落としてしまい、ご家庭に負担を掛けてしまうことも数回見られました。	概ね実施できました。	ご家庭の要望を見落とさないよう、複数名での確認を徹底します。
③ー３ 感染症等の流行時期でも送迎が行えるよう、その都度より良い乗車方法を考慮し、実施します。	お迎えの際の検温、常時車内換気をして運行し、年度中は継続して送迎を行うことができました。	実施できました。	

9. 医療的ケア委員会

(1) 目標
①医療的ケアを安全且つ適切に実施するための情報共有、検討を行います。
②医療的ケアや重症心身障害者支援に関する職員の知識や技術の向上、育成に努めます。
③認定特定行為業務従事者(以下、従事者)を1名増員し、ご利用者の生活の幅を広げます。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①ー1 新たな医ケア要領に基づき、毎月の委員会内で要医ケア者の体調や手技、リスク、変更事項等の確認を行います。	毎月の委員会にて、ご利用者の健康状態や手技、事故やヒヤリ等の確認をメンバー間で共有することで、日々安心、安全に医療的ケアを実践することが出来ました。	実施できました。	
①ー2 医療的ケアに関する書類等を整備し、関係者で共有します。	看護師が医療的ケア実施申請書、医療的ケア指示書、指導医健診記録、医療的ケア実施通知書を整備し、委員会等で共有することが出来ました。	実施できました。	
①ー3 最新情報をマニュアルに反映させ、周知徹底を図ります。	支援職が安全にミキサー食の注入が出来るよう看護師がマニュアルを作成し、対象職員と共有しました。また、ご利用者の状況に合わせて追加された手法を個々人マニュアルに反映させることで周知徹底することが出来ました。	実施できました。	
①ー4 新たなケアのご要望に対して、主治医や保護者、嘱託医、他事業所等と連携し、よりよいサービスを提供します。	胃ろうからミキサー食の注入を希望されているご利用者らに対して、食品注入手順書をもとに導入に向けて検討を重ねました。 また体調変化により医療的ケアが必要になったご利用者が安心して送迎を利用出来るよう、看護師添乗での送迎等について関係者会議の設定、意見交換と情報共有を行いました。さらに、胃ろう造設に関する注入等の不明点等について他事業所や嘱託医と安全なサービス提供に向けて連携を図りました。	実施できました。	

②ー１ 医療的ケアや重症心身障害者支援に関する研修を企画・実施します。～研修テーマ3本柱～「呼吸」「食品注入」「姿勢」	支援職が安心・安全に胃ろうからペースト食の注入を実施するため、嘱託医が講師となって食品注入に関する研修を実施したことで、受講者が現場で食品注入を行うことが出来ました。	実施できました。	
②ー２ ICT関連の知識を深めご利用者支援に活かせるよう、専門知識を有する方へのアプローチを検討し、実践します。	ICTに関するWEB研修に参加したり国際福祉機器展に出向いて最新情報の動向を収集しましたが、コロナウイルス感染症の影響で外部機関への相談等は実施出来ませんでした。	実施しましたが結果が不十分でした。	次年度も継続します。
②ー３ 感染症等の状況を勘案しながら、医療的ケアや重症心身障害者支援に関する施設の見学や外部研修等の積極的な研修企画・実践をします。	コロナウイルス感染症の影響で、外部施設への見学や研修企画等は控えました。	着手できませんでした。	次年度も継続します。
③ー１ 特定の対象者に喀痰吸引等を実施出来るよう、喀痰吸引等の基本研修を受講する機会を設けます。	要医療的ケア者が在籍するグループの職員が１名基本研修を受講し、認定特定行為業務従事者が増えました。フォローアップ研修にて手技が定着した後に実地研修を実施することで手技の安定化に繋がりました。	実施できました。	
③ー２ 従事者が同一技術の支援を維持できるよう、フォローアップ研修を企画・実施します。	第3号研修受講者全員を対象とした、フォローアップ研修を実施しました。胃ろうの手順の振り返りと演習を行うことで、基本に立ち返り、正しい手技の再確認をすることが出来たのと同時に、日頃医療的ケアに関わらない職員にとっては再確認の貴重な場となりました。また、新規規格シリンジの特徴や使い方と急変時等における対応方法の取り決めについて情報共有を行いました。	実施できました。	

10. リスク管理委員会

(1) 目標

①大規模災害や防犯対策等へのリスク管理を徹底し、ご利用者、職員の安全を図ります。また、備蓄の充実、避難訓練や防災・防犯研修等を通じた職員やご利用者の防災意識の向上、関係機関や地域ネットワーク構築を行います。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－1 避難訓練の想定を工夫し、実効性のある訓練を行ってまいります。	新型コロナウイルス感染予防に努めつつ、施設全体での避難訓練を行いました。今年度は年2回の実施をすることが出来ました。	実施できました。	
①－2 心肺蘇生やAED操作など応急救護訓練を実施します。	消防署に依頼をし心肺蘇生、AED操作など正規職員中心での訓練を行いました。	実施できました。	
①－3 不審者などへの対応を統一する防犯研修を行います。	町田警察署による刺す又等を使用した不審者対応訓練をしていただきました。	実施できました。	
①－4 大規模災害を想定した宿泊訓練を実施します。(年3回・9～11月)	新型コロナウイルス感染予防の為、行いませんでした。	実施出来ませんでした。	来年度も感染対策の為、実施は未定です。
①－5 事業継続計画(BCP)に基づく訓練を行います。	感染症に関する事業継続計画は作成したが、計画を利用した訓練は実施できませんでした。	実施できませんでした。	
①－6 近隣の自治会や関係施設等との連携を図り、エリア全体で一体的に災害対策に努めます。	桜美林町内会の協力も得つつ近隣関係機関(ぐうし館)と訓練の共同開催を行いました。	実施できました。	
①－7 町田市二次避難所として、町田市と連携しながら、地域貢献を図ります。	町田市二次避難所会議には出席したが、それ以上の具体的な展開は特にありませんでした。	概ね実施できました。	
①－8 町田市の福祉施設情報伝達訓練に参加し、災害時等における市や関係機関との連絡の強化を図ります。	計画通り、訓練に参加したが、それ以上の発展はありませんでした。	概ねできてきました。	

①－９ 防災備蓄品について見直し、消耗や賞味期限等について管理を行います。	備蓄食料の消費（給食で提供）や期限管理、補充等は計画通り実施できました。	実施できました。	
①－１０ 防災マニュアル、災害時対応マニュアル等の周知を図ります。	防災マニュアルや災害時対応マニュアルについて周知する機会は特に設けることができませんでした。	実施できませんでした。	
①－１１ 防災、防犯に関する研修会に参加して最新の情報を収集し、施設の防災対策、職員の防災教育を行います。	防災に関しては近隣の関係施設（ぐうし館）との初の合同防災訓練を実施しました。 また、１月には７年ぶりとなる町田警察署による不審者対応訓練を実施しました。	実施できました。	
①－１２ 施設に合った、防犯環境対策を検討していきます。	長期期間中の敷地内への立ち入り防止を強化する為、バリカの施錠等を行いました。 １階には既に防犯カメラを設置しているが、２階部分（正面玄関、駐車場等）の導入は今年度も見送っています。	概ね実施できました。	

１１．研修委員会

(１) 目標	
①職員が「知りたい！学びたい！」こころ☆おどる研修の企画・実践を通じて、職員のスキルアップと仕事へのモチベーションアップを目指します。	
②新たなオンライン研修コンテンツの活用方法を模索します。	
③他の委員会と連動しながら、職員の専門性の向上を図ります。	

(２) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１ 階層別研修、事業所全体に係る研修、入職必須研修、グループ会議内研修等の他に「〇〇強化WEEK」を新たに設置し、ゲーム感覚で楽しく知識取得と実践が図れるよう研修計画を立案・執行します。	６月は腰痛予防WEEKとして、PTお勧めのストレッチ動画を朝礼前に流して腰痛予防への取り組みを行いました。７月は事故防止WEEKとして、毎日一人一つヒヤリはつとを記入し、集計データの掲示を行いました。１１月は手洗いWEEKとして、手洗い検査キットを用いた手洗い方法の見直しを周知しました。各項目ごとの研修アンケートより、いつもと違い面白かった等のプラスのご意見がありました。	実施できました。	

①ー２ 感染症等を考慮しながら、外部講師招聘研修を年3回企画します。	コロナウイルス感染症の影響で招聘研修の企画は見送りましたが、虐待防止・人権擁護に関する研修実施に向けて、講師依頼が実現するよう先生へのアプローチを継続中です。	実施できました。	
①ー３ 各自がキャリアアップやスキルアップのために研修計画を立案し、主体的に研修に参加することを目指します。また、目的達成のためキャリアアップとスキルアップが連動するよう体系化をすすめ、職員一人ひとりの職種や経験年数・配属等に応じた情報提供を行います。	研修と階層の紐付けは具現化しませんでした。東社協の階層別研修を受講していただき日常の職務の中では行いにくい新たな動機付けや視野の拡大に努めました。	実施できました。	
①ー４ 研修PDCFAの運用について、委員会内で検討します。	eラーニング視聴、外部研修、内部研修全てにおいて「P」はWF、「C・F」はグループフォームで対応しましたが、担当上司による研修の詳細把握が難しく、的確なフィードバックをすることが出来ませんでした。行動変容定着化の確認が出来ないために新たな課題が見つけないく、行動修正や研修のゴールが曖昧になりがちでした。	実施しましたが、結果が不十分でした。	
(２)ー①支援現場で新コンテンツが定着するよう、業者と連携します。	新たなeラーニングコンテンツが現場に浸透するよう「好きなサポカレ視聴月間」を8月と12月に実施したり、職員通用口に毎月の研修案内を掲示したりしました。またWEBコンテンツをグループ会議内で視聴したりLiveゼミに参加するなど、研修委員が積極的に活用しました。定着化については、支援職40名中17名が自主的に視聴するようになりました。	概ね実施できました。	

②－２ WEB講義を活用することで、同じものを視聴しディスカッションすることで、職員同士の総合理解と信頼を高め、組織の活性化に繋がります。	入職時、新人職員に４つのコンテンツの事前視聴していただきオリエンテーション時にディスカッションをすることで重要点や気づきの共有をすることが出来ました。 身体拘束・虐待防止研修においてもWEB講義を活用したことで、職員間の知識の統一化に繋がりました。	実施できました。	
③－１ 摂食委員会による摂食勉強会や医療的ケア委員会による勉強会・第３号研修、安全衛生委員会による感染症対策や虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会による最新情報の共有やディスカッション等を企画します。	各委員会内で計画された研修が、漏れなく企画・実施出来るよう連携を図りました。 身体拘束適正化や虐待防止は、知識の共有は出来ても行動変容までには至りませんでした。	実施しましたが、結果が不十分でした。	

12. 広報委員会

(1) 目標			
①法人で発行する広報誌の紙面、ホームページ等を利用し、花の家の活動を広く地域に向けて周知をします。			
(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－1 年4回発行される法人広報誌の紙面と適宜更新されるホームページを利用し、花の家で行っている諸活動について、広く地域に向けて発信します。	広報誌については、特集や時宜に叶った内容で記事を掲載できました。 ホームページの活用については、適宜報告を行ったが、定期的な掲載には至りませんでした。	概ね実施できました。	ホームページ記事の更新については、時期を決めて行うようにする。

13. 人権擁護・虐待防止委員会

(1) 目標			
①国や都等における人権擁護や虐待防止に関する情報を収集し、施設内で情報提供、周知徹底を図ります。			
②施設内や近隣地域等の虐待に纏わる情報を把握し、施設内で周知、改善を図ります。			
③人権擁護・虐待防止に関する研修を通して、職員の意識向上を図り、虐待や不適切な関わりの根絶に努めます。			
④定期的に身体拘束の状況について情報共有し、不適切な関わりの有無の確認や代替方法がないか等についての検討を行います。			
(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－1 行政や関係機関等から送られてくる人権擁護や虐待防止に関する情報を集約し、職員会議や掲示等を通じて施設内に情報提供し、周知徹底を図ります。	行政や関係機関等から送られてくる人権擁護や虐待防止に関する情報を集約し、職員会議や掲示等を通じて職員に情報提供しました。	実施できました。	
②－1 運営会議の中で施設内や近隣で生じた虐待事例等の情報を収集し、運営者で対応について協議、職員会議等で方針について徹底します。	近隣他事業所の虐待事例について運営会議議題で取り上げ、自施設と照らし合わせて話し合いを行いました。	概ね実施できました。	
②－2 虐待防止月間（10月）にはポスター掲示をする等して、人権や虐待防止への意識付けを図ります。	毎年行っている「虐待防止節句リスト」を用いた意識づけや不適切支援に関するグループワークを実施し、支援に関する新しいスローガン「みんな見てますその支援」を策定。掲示する等して意識づけを図りました。。	実施できました。	

③ー１ 人権擁護及び虐待防止等における研修を全職員へ実施し、職員の人権意識の向上を図ります。	東京都が主催した人権擁護・虐待防止研修に職員が参加し、その報告研修を全職員に対し行いました。	実施できました。	
③ー２ 「不適切な支援」事例を題材にした研修を通し、人権擁護の視点に立った「適切な支援」について学びます。	全職員を対象にして不適切支援に関するグループワークやeラーニングでの研修を実施し、改めて支援のあり方について学び直しました。	実施できました。	
③ー３ 定期的（３ヶ月目安）に支援方法、声掛けの仕方等について確認作業を行います。	不適切支援等に関する勉強会を各グループ会議においてほぼ定期的に行いました。 全体的に声掛けの仕方等についての意識が改善されたように思います。	概ね実施できました。	
④ー１ 毎月の運営会議において、身体拘束に関する各現場の状況を確認します。	計画通り運営会議での状況確認の他、対象者がいるグループでは毎月対応について検討を重ねてまいりました。	実施できました。	
④ー２ 止むを得ず拘束する必要がある場合は、マニュアルに照らしつつ、保護者への確認、施設内での情報共有と施設決定、３要件（切迫性、一時性、非代替性）の該当等の手順や条件を達成しているか確認します。	身体拘束に当たる対象者がいるグループにおいて、毎月状況（切迫性、一時性、非代替性）や対応について、専門家（PT等）の助言を受けるなどしながら検討を重ねてまいりました。	実施できました。	
④ー３ また、止むを得ず拘束する必要がある場合は、専門家等の意見や助言等も聞きながら代替方法について検討します。	身体拘束に当たる対象者がいるグループにおいて、毎月状況（切迫性、一時性、非代替性）や対応について、専門家（PT等）の助言を受けるなどしながら検討を重ねてまいりました。	実施できました。	

14. サービス向上委員会

(1) 目標
①ご利用者や保護者、職員等の関係者からの要望や苦情、意見等を収集し、事業所運営や支援に活かしていきます。
②国や都等における福祉関連のサービス提供に関する情報を収集し、施設内に情報提供、周知徹底を図ります。
③施設内のサービス提供の実態を把握し、改善、向上を図ります。
④福祉サービスに関する研修を通し、職員の意識の変革やサービスの向上を図ります。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①ー1ご利用者のご要望や意見等については保護者会やアンケートを通じて、また、施設内関係者から直接的な申し出の他、ご意見箱を活用する等して意見や提案等を収集し、事業運営や支援に活かしていきます。	行政や関係機関等から送られてくる福祉関連の情報を集約し、職員会議や掲示等を通じて職員に情報提供しました。	実施できました。	
②ー1 行政や関係機関等から送られてくる福祉関連の情報を集約し、職員会議や掲示等を通じて施設内に情報提供し、周知徹底を図ります。	今年度については主に感染予防等に関する情報が多かったですが、適宜職員に情報提供と意識づけを行いました。	実施できました。	
③ー1 運営会議の中で施設におけるサービス提供に関する情報を収集し、運営者で対応について協議、職員会議等で方針について徹底します。	意見箱を通して意見を募る等、サービス課題の把握に努めました。意見が出た際には運営会議等関係会議で取り上げ、対応・改善の検討を持った。検討・対応の結果については職員に周知をしています。 (中断していた) 家族への「花の家利用に関するアンケート」を実施し、サービス改善に向けた検討材料としています。	実施できました。	
④ー1 福祉サービスに関する研修を実施し、職員の意識変革、知識や技術の向上を図ります。	チェックリストを活用したりグループワークを行う等して虐待防止や不適切支援の防止に関する取り組みを実施したほか、知識や技術向上に関しては、eラーニング等を通じた学びをしています。	実施できました。	

15. 摂食委員会

(1) 目標
①ご利用者が安心・安全に食事が摂れるよう、職員の知識と技術の向上を目指します。
②歯科医師のアドバイスをもとに、ご利用者個人に合わせた摂食指導を行います。
③保護者や歯科医師等との情報共有を図ります。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①ー1 研修委員会と連携し、職員への研修を設定します。	11月に、入職3年目までの職員を対象に、摂食の基礎知識を含めた研修を行いました。 2月には各グループ会議内で、口腔ケアについての研修を行いました。	実施できました。	
①ー1 委員会のメンバーが率先して研鑽し、知識と技術の向上を図りました。	歯科医師からの摂食指導の際、委員会のメンバーが必ず同行し学ばせていただき、最新の摂食に関しての技術・知識が向上しました。	実施できました。	
②ー1 新規入所者、又は摂食に課題のあるご利用者の摂食指導を、歯科医師のアドバイスをもとに行います。	6月、10月、1月に新規入所者と摂食に課題のあるご利用者の摂食指導を行っていただきました。	実施できました。	
②ー2 摂食指導を撮影した様子と、歯科医師からのアドバイスを担当職員にフィードバックします。	歯科医師からのアドバイスを担当職員へフィードバックし、今後の活用方法などを伝えました。	実施できました。	
③ー1 摂食についての、情報共有を行います。	摂食について課題のあるご利用者のご家族へ、摂食指導がある日程の情報を提供しました。	実施できました。	
③ー2 新規入所者と摂食に課題のあるご利用者を委員会で把握し、情報共有します。	ご家族や担当職員に、摂食に対して悩みや課題のあるご利用者の聞き取りを行い、委員会の中で情報共有しました。	実施できました。	

③-3ご家庭からの要望や摂食状況を考慮し、食形態の見直し・モニタリングをおこないます。	ご家庭からの要望があった際は、委員会の中で情報を共有し、速やかに食形態の見直しをする為に、モニタリングしました。	実施できました。	
--	---	-----------------	--

2022年度 花の郷 年間総括

部門別年間総括

1. 支援部門

【全体】

(1) 目標
① 支援者はプロとしての意識を持ち、専門職としての知識、技術の向上、ご利用者個々の障がい特性を理解する取り組みを行います。
②ご利用者の思いに寄り添った、安心・安全な支援を行い、豊かで幸せな時間を過ごせるようにします。
③適正収支を確保します。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－1 医療的ケアの強化として認定特定行為業務従事者の育成を実施します。。	初めて、他法人の事業所の職員を対象とした認定の研修を実施しました。また、内部でも、研修をすすめ、認定済みの職員の手技の確認を行い、医療的ケアが安全に実施できるよう努めました。	概ね実施できました。	外部の方の研修に柔軟に対応できるように体制を整えます。
①－2 専門性の高い支援を提供します。	理学療法士、言語聴覚士、公認心理士を島田療育センターより派遣していただき、日常的な支援のアドバイスを受けることができました。体に関わること、食事、環境等ご利用者が快適に過ごすための支援につなげることができました。	概ね実施できました。	継続していきます。
①－3 SDGSを意識した取り組みを行います。	節電、再利用等を職員間で意識する提案をしてきました。具体的な取り組みは成果としては上げることはできませんでした。	着手できませんでした。	23年度に向けて、給食を作る際に出る野菜の皮や芯などを乾燥、粉碎して肥料として使うことや電気代の節約のため、職員の時間外の仕事を場所を一か所に決め、各部屋の空調や電気を消す取り組みをすることを決めました。

①－４ 鶴川地区協議会へ参加し地域社会づくりに努めます。	感染予防対策のため、会議への参加は見合わせました。メールにて、開催状況は確認させていただきました。	着手できませんでした。	次年度は、凍結。体制が整い次第で検討。
②－１ 感染症予防を最優先とし、できる範囲で地域団体へ駐車場の貸し出し等をおこないます。	継続して、地域の少年野球チーム、また、近隣の福祉事業所の行事の際、駐車場の貸し出しを行いました。AEDを外に設置、また、外部から設置がわかる看板を取り付けました。掲示板にて設置のお知らせをしました。	概ね実施できました。	AED外設置に関するお知らせを町内会にてアナウンスしていただきます。
②－２ 二次避難所として整備をしています。	2次避難所としての協定を締結しました。必要な備蓄品をそろえるため、備蓄品の確認をすすめました。	概ね実施できました。	継続していきます。
③－１ 人件費率を75%以内にします。	予算執行状況を確認しながら、採用をすすめました。	概ね実施できました。	感染状況に応じて、ライン、電話での面談を実施していきます。
③－２ 事業活動収支差額を30,000,000とする予算管理を行います。	職員全員で予算執行状況を確認しながら、購入すべきもの、現状は不必要なものの判断をしました。	概ね実施できました。	支援の質を維持するために必要な経費は有効に利用し、節約できることは徹底します。
③－３ 節電等のコストカットを徹底します。	空調、電気、カラーコピーなど、節約支援以外で節約できそうな項目をピックアップしました。光熱費、食材費等が大幅に上がっていることを職員に伝え共有しました。	概ね実施できました。	支援の質を維持するために必要な経費は有効に利用し、節約できることは徹底します。

【Aグループ】

(1) 目標
① 安全・安心して過ごせるよう支援します。
② 心身の健康に配慮します。
③ 一人ひとりのニーズやペースに合わせた活動の提供を目指します。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１ ご利用者一人ひとりに応じた支援を行い、安心・安全・安定した活動を提供します。	ご利用者一人ひとりに合わせた支援を行いました。状況に応じて、じっくりとお話を聞いたり、個別での対応を行うことで、安心・安全に過ごすことが出来ました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
①－２ 支援者間で支援方法の共有をし、グループ全体で安全・安心な環境作りに努めます。	グループ日誌や会議資料、カンファレンスを通して、支援方法の共有をし、安全・安心な環境づくりに努めました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
①－３ 心の動きに配慮し、一人ひとりのニーズに合わせた支援を行います。ホール・グループ室を活用し、状況に応じて個別での支援や、少人数の支援を行ない、安心して過ごせられるようにします。	ご利用者の心の動きに配慮したり、個々のニーズを汲み取り、活動設定をしました。ホールとグループ室を活用して、状況に応じて少人数での支援を行いました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
②－１ 日々の生活（活動）の中で、看護師、ご家庭、グループホームと連携を図りながら健康の維持・増進に努めます。	体調に変化があった場合は、速やかに医務に報告し、ご家庭・グループホームと情報共有をしました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
②－２ 基礎代謝を高める活動を行ない、健康の増進に努めます。	園芸・散歩・ムーブメントなど、体を動かす活動や足湯を設定し、基礎代謝を高めました。体制が整わないため、ご利用者の1週間の散歩の回数を把握し、平等に設定できるようにしました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。

③－１ 一人ひとりの自主的な行動や発言を受け止め、可能性・経験の広がりにつながるよう支援します。	活動の中で、ご利用者の自主的な行動や発言が引き出せるよう支援しました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます
③－２ ご利用者が楽しく、達成感を得られるような活動の提供を行ないます。	グループごとの活動設定のため、２つの活動を設定することで、ご利用者が楽しく活動参加できるようにしました。今年度体制が整わず、クッキーの設定はできませんでした。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます
③－３ 納品、買い物などの活動を通してご利用者の社会とのつながりを大事に支援します。	感染症対策から、納品・買い物等の設定は出来ませんでした。	着手できませんでした。	感染症の状況をみながら、引き続き継続していきます。

【Ｂグループ】

(１) 目標
① 一人ひとりのニーズに合わせた活動提供をします。
② 安全に楽しく食事ができるよう工夫します。
③ 心と体の健康維持を図ります。

(２) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１ 生産活動や療育的活動の中で、個々の強みを活かした活動設定をします。	個々の能力に合わせてパッキン以外にもパックはがし、シール貼り、箱の組み立てを実施しました。作業前に目標を設定してから取り組むことで意欲の向上に繋がりました。スヌーズレンでは季節に合わせたテーマを設定し、季節感を味わえるようにしました。	実施できました。	引き続き生産・療育両方の活動の中で、ご利用者ができることを模索し、得意なことを伸ばす内容にします。
①－２ 納品や販売等に積極的に参加し、社会との繋がりを大切にします。	新型コロナウイルスの影響で販売の実施ができませんでした。	着手できませんでした。	新型コロナウイルスの感染状況など見ながら実施します。

①－３ 余暇の一環として外出を設定し、自ら選択する、購入する、金銭のやりとりを行う等の機会を提供します。	新型コロナウイルスの影響で実施することができませんでした。	着手できませんでした。	新型コロナウイルスの感染状況など見ながら実施します。
②－１ 摂食に関しての知識を共有し、一人ひとりに合った食事支援を行います。	日々グループの職員全員が摂食支援（口腔周辺のマッサージやレンジのみ、かじりとりなど）に取り組みました。STカンファレンスではご利用者の評価の確認、摂食支援の確認を行いました。	実施できました。	引き続き日々の支援の中で摂食支援にも取り組んでいます。
③－１ 安定して過ごせるように、その日の体調や気持ちに合わせた支援を行います。	連絡帳の記載やご本人の様子を見ながら、その日の体調や気持ちに合わせて活動設定を行いました。	実施できました。	引き続き体調や気持ちに合わせた活動調整を行います。
③－２ てんかん発作や体調不良時は、看護師やご家庭、ホームと相談しながら迅速且つ適切に対応します。	発作時は安全に注意して対応しました。また体調不良やけがを確認した時には場合によっては看護師に相談し、連携して対応しました。寝不足の際は活動内容を変更し、安静に過ごせるようにしました。	実施できました。	引き続き発作、体調不良時は適切に対応します。

【Cグループ】

(1) 目標
① ご利用者が安全・安心して過ごせる環境を整えます。
② 充実した活動を提供します。
③ 一人ひとりの健康維持を支援します。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１ 支援者が連携し合い、環境整理をし、転倒事故やその他事故防止に努め、安全・安心な環境づくりに努めます。	転倒事故、他害事故等が起きましたが、原因を分析し、話し合い、共有し、実践し再発防止に努め、安全安心な環境づくりに努めました。ヒヤリハットも共有しました。	概ね実施できました。	ヒヤリハットの活用しやすい環境作り、事故防止の為の更なる職員意識の向上。

②－１ 創意工夫しながら活動を設定し、充実した楽しい活動を提供できるよう努めます。	ご利用者の精神面、体調に合わせて活動を設定しました。 グループの小集団だからこそ、一人一人にスポットを当て、ニーズに合わせた活動設定をすることができました。	概ね実施できました。	ご利用者にあった更なる活動の工夫。
③－１ 体の取り組みや散歩を定期的実施し、心身ともに健康維持を図ります。	散歩は安全に出かけることができる体制を整えて実施しました。また、PTからアドバイスをいただくことで、ご利用者の現状に合った体の取り組みを実施することができました。	概ね実施できました。	体の取り組みを行う時間、人手の工夫。
③－２ ご利用者の様子観察を行ない、健康状態や様子の变化の把握に努めます。また、看護師や専門職との連携を図り適切な対応をします。	記録表を用いて、てんかん発作や排泄の記録等について、ご家庭やグループホームと共有しました。STの評価を受け、できていること、現状の課題、将来に向けて必要な支援を理解することができました。	概ね実施できました。	

【Eグループ】

(1) 目標
① 障がい特性を理解し、健康面に配慮をします。
② 安全で楽しい食事を提供します。
③ 充実した活動を提供します。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１ 一人ひとりの体調に合わせた生活ペースを大切にします。	ご利用者個人の意思や体調、ペースを尊重しながら、無理のない範囲で集団生活を送れるように配慮しました。	実施できました。	安全性の確保、より快適なスペースの確保について考えていきます。
①－２ 看護師と連携し、認定特定行為業務従事者が安全な医療的ケアを実施します。	口鼻腔吸引、胃瘻、経鼻胃管などの医療的ケアに関して、第三号研修を実施し、看護師と協力して安全に配慮した医療的ケアを行いました。 また、カニューレフリーの気管切開部の吸引も看護師のもと支援職員も安全に実施しています。	実施できました。	積極的に医療的ケア者との関わりをもち、看護師と連携しながら、添乗、フォロー等に入れるようにしたいと考えます。また、他グループに異動になった職員であっても定期的に、手技の確認を行います。

①－３ 体調の変化や緊急時には保護者、看護師と素早く連携を図ります。	体調変化があった時や新型コロナウイルスの疑いなど、緊急時には保護者、看護師と連携を取り合いました。	実施できました。	継続します。
②－１ 安全に楽しく食事できるよう支援します。	決まった時間に食事をし、和気あいあいとした雰囲気の中で食事を行いました。	実施できました。	ご利用者を交えた内容の会話を心掛けていきます。
③－１ ムーブメントや音楽、スヌーズレンなど感覚を刺激する活動を大切にします。	ムーブメントではボールプール、ブランコ、トランポリン、サーキット、陣取り等様々な取り組みを行いました。朗読では沢山の本を読みました。朝顔やマリーゴールドの摘み取り等ガーデニングも行いました。	実施できました。	よりご利用者に楽しんで頂ける療育的活動を検討していきます。
③－２ 常に活動の工夫をしながら安全に楽しく参加できるようにしたり、外出や季節感のある行事を通し、豊かな時間を過ごせるようにします。	レクリエーションではご利用者がより関わりやすく楽しめる工夫をしました。	実施できました。	ご利用者に楽しんで頂く活動を検討していきます。

【Fグループ】

(1) 目標
① 一人ひとりの体調に配慮し、安心した生活を目指します。
③ 一人ひとりのニーズに合わせ様々な活動を設定し、充実した時間を過ごします。
④ たくさんの人との関わりを楽しみ、人間関係を広げます。
⑤ 一人ひとりの生活状況に合わせた自立のサポートをします。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１ ご家庭と連携し、看護師と相談しながら全職員で安心して生活できる環境を作ります。	ご家族や看護師と情報を共有し毎日の排便やその日のコンディションを確認しながら職員間で周知しながら支援しました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。

①－２ 看護師と連携し、認定特定行為業務従事者や特例実施者が安全な医療的ケアを実施します。	認定特定行為業務従事者及び特例実施者による吸引、注入、及び酸素ボンベ交換、てんかん発作時の座薬挿入等を行いました。必要に応じ、看護師による研修、手技の確認を行い安全に実施できるよう努めました。ご利用者の様子がいつもと違う時には、看護師と状況を共有し実施についての判断をしました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
②－１ 一人ひとりのニーズや興味に合った活動を設定します。	ご利用者の出来る事が、生かせるよう活動を設定しました。それぞれの得意分野を伸ばし、今まで行えずにいた活動への参加機会を設けることで出来るようになるよう支援しました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
②－２ 安全に充実した活動を設定し、楽しく過ごせるよう支援します	安全に過ごせるよう支援しました。グループ室の整理整頓を心がけました。ご利用者の歩行時足元に障害物のないように環境を整えました。また車椅子やベッドで過ごすご利用者がベッドや車椅子から転倒しないようサイドレールやベルト、カットテーブルを使用しました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
③－１ 活動を通していろいろな人との関わりを楽しめるよう支援します。	職員全員でその日のコンディションや体調を共有し、日々たくさんの職員とコミュニケーションが取れるよう支援しました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
③－２ 外出する機会を設定し、地域社会とつながる機会を作ります。	新型コロナウイルス感染拡大の為設定できませんでした。	着手できませんでした。	
④－１ 必要に応じ、面談やカンファレンスを設定します。また、関係機関との連携を図り、地域生活を支援します。	今年度ST評価を行いました。新型コロナウイルス感染拡大の為、カンファレンスは行えませんでした。職員間での引継ぎをしながら情報共有して行きました。	実施しましたが、結果が不十分でした。	

2. 生産活動部門

【クッキー】

(1) 目標
① 新型コロナウイルスの感染状況に応じた販売、納品を設定し、地域社会とのつながりを広げていきます。
② 品質の向上、新製品の開発により花の郷ブランドの向上を目指します。
③ クッカ広場、花の家と連携を図り委託販売、イベントへの参加など協力しあい販売を促進します。
④ クッキー工房の環境を整え、多くのご利用者の作業参加を目指します。
⑤ 年間売り上げ300万円を目指します。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－1 新型コロナウイルスの感染状況に応じて、販売、納品の設定を検討し、ご利用者が関われるようにします。	新型コロナウイルス感染予防のため、ご利用者が販売、納品に関わることはありませんでした。今年も株式会社スリーパンズに委託販売し、町田マルイ、東急青葉台、千葉（船橋）に出店しました。	概ね実施できました。	感染状況に応じて販売、納品を検討します。
②－1 マニュアルを整備し、入室前の準備を周知・徹底し、衛生的に作業に臨みます。	入室前の準備は周知できました。	実施できました。	
②－2 工房の内の環境整備を行い、異物混入がないようにします。	環境は整備されており、異物の混入はありませんでした。	実施できました。	
②－3 ご利用者の意見やお客様の声を大切に、品質の向上に努めます。	贈答用BOXの押し花のシールを日中の活動では作成できなかったため、押し花をコピーしたシールに変更しました。ご利用者が作業に入る機会が少なく、ご利用者の意見を聞くことができませんでした。	着手しましたが、達成できませんでした。	
③－1 花の家やクッカ広場と協力し、委託販売、お中元、お歳暮を通して販売促進に努めます。	クッカ広場、花の家に協力していただき、お中元、お歳暮シーズンにクッキーの販売をしました。	概ね実施できました。	
④－1 車椅子やベットで入室できる環境を整え、希望者は工房内の作業に参加します。	車椅子ご利用者が入室する際は、タイヤを拭いて入室しました。ベットを入れての作業は実施できませんでした。	実施できました。	引き続き、委託販売を利用していきます。

④－２ ご利用者が主体的に作業参加出来る作業方法、環境を整えます。	職員体制が整わず、今年度クッキー活動に入る機会が少なくなりました。	実施できました。	ベットを入れて、作業設定ができるようにします。
⑤－１ 納品先や販売先と連絡を取りあい、関係性を築きます。	定期的に連絡を取りあいました。ロブチューさんが10月末に閉店することになりました。	概ね実施できました。	他のグループのご利用者や職員が作業に関われるようマニュアル整備します。
⑤－２ 新型コロナウイルスの感染状況に応じて、委託販売やイベントなどの出張販売に参加します。	定期的にしずく整骨治療院へクッキーを納品することになりました。またお客様からメールで問い合わせがあり、振込先などのやりとりをすることが数件ありました。	実施できました。	メールでの問い合わせや現金の振り込みでの支払いの依頼が増えていたため、メールを見逃さないよう、確認をします。
⑤－３ 花の郷通信、ホームページ、ちらし等を利用し、クッキーに関する情報を発信します。	新型コロナウイルス感染予防他のため、実施できませんでした。	着手できませんでした。	感染状況に応じて販売を検討します。

【動物用クッキー】

(1) 目標
① 誰もが参加出来る環境を整え、一人ひとりが力を発揮できるよう作業設定を行います。
② 動物用クッキーの宣伝活動を行い、地域に根ざした活動を展開します。
③ 年間売り上げ3万円を目指し、安全な商品を提供します。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１ 活動時間や参加人数は、一人ひとりのご利用者の特性を理解した上で最適な設定・配置をします。	設定できませんでした。	着手できませんでした。	作業設定の時間、場所を確保が難しい。
①－２ 道具や環境、身だしなみを整え、安全で衛生的な活動を提供します。	設定できませんでした。	着手できませんでした。	

①－３ 作業行程を細分化し、一人ひとりのニーズに合わせてそれぞれの得意なことを活かした作業を設定します。 （生地作り、型抜き、袋詰め、買い物、パソコンでのポスターやラベル作りラベルのスタンプ押し等）	設定できませんでした。	着手できませんでした。	
②－１ 定期的なテラス販売、花の家の納品を設定し、ご利用者が関われるようにします。	設定できませんでした。	着手できませんでした。	作業設定を確保します。
③－１ 計画的な活動設定を行い、安定した生産・販売を行います。	設定できませんでした。	着手できませんでした。	計画的な活動設定、活動場所を設定します。来年度は活動を見合わせ、環境が整い次第、活動を再開します。
③－２ 動物の愛護及び管理に関する法律（動物愛護管理法）、食品表示法に基づき、商品のラベルの作成、品質管理に努めます。	設定できませんでした。	着手できませんでした。	

【草木染】

(1) 目標
① ご利用者の作業意欲や持っている力を引き出せるよう支援します。
② 植物採集を通して五感に働きかけます。
③ 販売を実施し社会参加を支援します。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①ー１ 紙すきや紙の染色、紙パッキングや紙ちぎりなど、様々な作業を行うことで個々のニーズに対応し作業意欲を高めます	各グループでご利用者の能力に合った活動を提供しました。出来ることが増えるよう作業方法を工夫しました。	概ね実施できました。	
①ー２ ちぎる、すくう、押す、伸ばす、叩く、はがすといった作業工程を通じてご利用者の持っている力が発揮できるよう支援します。	作業工程を細分化しご利用者ができる作業から実施していくことで、作業能力を引き出すことができました。	実施できました。	
②ー１ 植物を採集することで四季折々の草花に触れ、観たり匂いをかぐことで様々な感覚に働きかけます。	季節に応じて植物を育てたり、採取したりすることで五感に働きかけるよう支援しました。	実施できました。	定期的な花の採集、年間を通した草花の栽培を行っていきます。
③ー１ ご利用者、購入者ともに満足いく製品を作製し、社会参加意識と売上げ向上につながる支援を行います。	新型コロナウイルスの影響のため、販売は実施しませんでした。	着手できませんでした。	

【園芸】

(1) 目標
① 作業を通して、運動量の確保、健康の増進に努めます。
② 他の生産活動との連携を図り、生産活動全体の収入増を目指します。
③ 花の郷敷地内の土地の有効活用ができるよう思案します

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１ ご利用者のニーズ、能力に合わせた作業提供を行います。	ご利用者のニーズ、能力、健康状態に合わせ畑作業、室内（作業棟）作業を行いました。夏場の暑さ、冬場の寒さ、雨天等、天候や気候に考慮し、作業設定しました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
①－２ 土運びや土ふるい等、体を動かす活動を行います。	土づくりや土ふるいなど、体を動かす活動を設定し、ご利用者の運動量の確保に努めました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
②－１ クッキーに使う野菜の栽培、ペパーミントの管理をします。	クッキーに使用する野菜の栽培をしました。今年度は落花生、サツマイモを栽培しクッキーに使用しました。ペパーミントは、夏場は露地で冬場は衣装ケースで、簡易栽培を実施しました。また、イチジクの剪定を行うことで、害虫予防や果実を安定して収穫を行うことができました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
③－１ 作業棟が園芸作業だけでなく、他の活動や会議に使用できるように、清潔な環境を維持します。	定期的に作業棟内を掃き掃除などを行うことで、清潔な環境を整えることができました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
③－２ 花の郷内の敷地内の土地を有効活用し野菜の栽培などを行い園芸収入アップとご利用者の豊かな生活に繋がるよう、年間を通して活用を試みます。	限られた敷地を有効活用し野菜を栽培することができました。今年度も昨年度以上の収益を上げることに成功しました。またご利用者へ収穫の喜びを得ることができるよう、農繁期に収穫できる作物を多く栽培することで、収穫の楽しさを感じる機会を多く提供できました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。

3. 医務部門

(1) 目標
① ご利用者と支援の安全に配慮した環境を整えます。
② ご利用者の個性を考慮した専門職との連携を強化します。
③ 指導看護師として医療的ケアの安全な実施を継続します。
④ ご利用者の口腔衛生環境 向上に努めます。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①-1 健康にかかわる情報を中心に支援職員と共有します。	日々各グループに入り、健康ニーズの把握及び健康観察について職員と共有できるようにしました。	概ね実施できました。	支援者の1人としてだけではなく、ご利用者の支援をよりよくするための看護師としての視点を反映できるよう、専門職に関わる学習をしていきます。
①-2 緊急時、災害時等、非日常的な生活を想定した看護師が管理する備蓄管理リストを改訂し、看護師全員が対応できるようにします。	預かり薬や医療的ケアに関わる備品、感染症対策備品の管理を継続しました。移送・搬送備品を定期的に整備しました。	実施できました。	備品リスト及び、備品リストを改訂しました。
①-3 看護職員が改善できる支援・介護の基本を意識し各グループの支援を行います。改善の必要性がある場合は速やかに対応します。	服薬方法等基本の確認、感染対策など、ご利用者の支援に必要な知識や技術を伝え共有しました。事故対策等、より安全に支援ができるよう支援職員と一緒に対策を考え対応しました。	実施できました。	介護用品等、正しく取り扱えるよう支援職員と一緒に取り組む必要性がありますが、計画からは削除します。
②-1 専門職に関わる、ご利用者のニーズの見つけ方を共有します。	相談事業では、相談が必要な根拠を確認しました。各専門職からの助言を支援に反映できるよう、支援職員が中心に実施できるよう協力しました。専門職担当や看護師が相談に立ち会うことが体制上困難だったため、来年度は総合的に関わられるよう取り組みます。	実施しましたが、結果が不十分でした。	コロナ禍、カンファレンスに代わる学びや情報共有が担当者の負担にならないよう、まずは看護職員全員の専門性を高めます。⇒NS会議設定

②－２ 心と体マップを作成し、看護師間の知識を向上します。	看護師会議でアンケート形式でご利用者の全体像を把握するマップ作りの機会を作りました。	着手しましたが、達成できませんでした。	二次障害や成人病など、ご利用者の基礎疾患や将来的な体の変化について、通常業務内で全員のマップ作りは困難なため、対象がある時に看護師間で情報を共有します。
③－１ 指導看護師として計画的に実地研修を行います。	実地研修対象が今年度は少なかったため、スケジュール調整し、演習などに取り組みました。	実施できました。	日々変化のあるご利用者の医療的ケア内容に対応できるように継続します。また、一定期間、認定特定行為業務を実施した職員が、花の郷内で部署が変わっても、その手技が継続できるように、定期的に手技の確認をしました。
③－２ 認定特定行為業務従事者の業務継続が安全に実施できる環境を提供します。	経験者・未経験者と対象を分けて研修を計画・実施しました。対象を分けたことで、準備等スムーズに行えました。	実施できました。	どの看護師でも講師ができるよう認定特定行為業務従事者研修マニュアルを作成します。
④－１ 口腔ケアに関する啓蒙活動及び支援環境整備を継続します。	歯科検診や受診の結果をもとに、磨き方の工夫や過敏性に考慮した口腔ケアについて支援職員と共有し、必要な情報はご家庭にお伝えしました。	実施できました。	看護職員の通常業務として、計画からは削除します。
④－２ 口腔ケアに関わる個別マニュアルを全員分確認します。	ご利用者の支援マニュアルを確認し、口腔ケアについて、配慮が必要なご利用者についてマニュアル化し支援で共有できるようにしました。	実施できました。	口腔ケアに関わる学習の機会を作ります。

4. 栄養部門

(1) 目標
① 季節感のあるメニュー、味付けや盛り付けの工夫、ご利用者の嗜好の反映等により美味しくて飽きのこない食事の提供に努めます。
② ご利用者個人にあわせた食物形態（形態食）での食事の提供に努めます。
③ 食事環境の整備、職員の衛生の徹底を図り、衛生的で安全な食事を提供します。
④ ご利用者一人ひとりに快適な食事時間を設定し、ご利用者に適切な支援を行います。
⑤ 食品ロスを削減する取り組みを行います。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１ 季節の食材の使用や行事食を取り入れ、季節の感じられる食事を提供します。	野菜、魚、果物など旬の食材を使用した献立を意識しました。また、季節行事に合わせてこどもの日やハロウィン、クリスマスなどのメニューを献立に反映しました。	実施できました。	
①－２ 嗜好調査（５月・１１月）残食調査（８月・２月）を実施します。	・残食調査 ８月２２日～８月２６日 ２月１３日～２月１７日 ・嗜好調査 ５月２３日～５月２７日 １１月７日～１１月１１日 に実施しご利用者の嗜好の把握や献立メニューに反映しました。	実施できました。	
①－３ 献立会議を実施し、献立や食事内容の改善を行います。	花の郷栄養部門でその都度献立についての話し合い、改善を行いました。	概ね実施できました。	
①－４ リクエスト給食・保護者向けの給食試食会を実施します。	リクエスト給食は各グループご利用者に、昼食時に食べたいメニューなどアンケートを取り、献立に反映させました。保護者向け給食試食会は、感染予防のため実施を控えました。	実施できました。	感染予防を最優先しながら、保護者向けの試食会の実施については検討していきます。
②－１ 個人個人にあった食物形態の食事の提供をします。 〔形態食（初期・中期・後期）普通食・アレルギー食・〇〇なし食・ダイエット食〕	食札を使用してご利用者個々に合わせた食形態食やアレルギー食など間違えが無いように対応しました。	概ね実施できました。	提供できる食数を超えているため、形態食を提供できない分は、各グループにて支援職員が再調理し提供しました。

②－２ ニーズに応じた治療食の提供をします。	治療食の必要のあるご利用者については個別に作業指示書を作成し、ご利用者に合った栄養管理を実施しました。	実施できました。	
③－１ できるだけ配膳時間ぎりぎりの盛り付けや、保温性のある食缶の使用、電子レンジを活用し適温食事の提供をします。	１１：３０検食、１１：４５配膳１２：００喫食というように厨房と支援職員と協力しながら適温食事の提供を行いました。	実施できました。	
③－２ 食中毒の予防を徹底し、安心して食べられる食事を提供します。	細菌検査、手洗いの徹底、中心温度測定、消毒、マスクの着用などを行い食中毒予防に努め安心して食べられる食事を提供しました。	実施できました。	
③－３ 毎月１回の細菌検査を実施します。	毎月１回細菌検査を実施しました。６，７，８月は食中毒のリスクが高いため２回実施しています。	実施できました。	
③－４ 中心温度の測定を行います。	毎回中心温度８５度を９０秒測定し食中毒の予防に努めました。	実施できました。	
③－５ 手洗い後のペーパータオルの使用・電解水又は消毒液での消毒、使い捨てマスクの使用等、衛生面について徹底して行います。	徹底することができました。	実施できました。	
③－６ 調理器具等の消毒を徹底して行います。	徹底することができました。	実施できました。	
③－７ 日常的な清掃（床、下水、冷蔵庫、トイレ他）と定期的な清掃（換気扇）を行い、厨房内を衛生的に保ちます。	毎日の清掃、業者による清掃、年末の清掃など実施することができました。	実施できました。	

③－８ 調理従事者の衛生教育等を行います。	ハサップに準じた形の衛生管理を実施しました。	実施できました。	
④－１ 食事中的の訪問やアンケートの実施、必要に応じて支援職員と連絡を取り合い、喫食状況の把握に努めます。	日々の検食を通して常食や形態食が適切に提供でき、ご利用者が安全安心おいしく召し上がれる喫食状況の確認を行いました。	実施できました。	
④－２ 各グループと協力し、よりよい食事時間・食事環境を整えます。	栄養部門からご利用者の喫食の様子確認をしてもらい、ご利用者の喫食状況や食事環境を実際に把握することができました。	実施できました。	
⑤－１ 食品ロスを削減する取り組みを行います。	ロスなく提供できるよう配膳状況や喫食状況を確認しました。 また、防災食の日を実施し、備蓄食品が期限内に提供できるよう工夫しました。	実施できました。	次年度も年2回、防災食の日を実施します。

委員会年間総括

Ⅰ. 虐待防止委員会

(Ⅰ) 目標
① 虐待防止や身体拘束廃止に取り組めます。

(Ⅱ) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－Ⅰ 虐待防止責任者を設置し、虐待防止に取り組めます。	虐待防止責任者を施設長とし、毎月虐待防止委員会の開催を行い、ご利用者の呼称ポスターの作製や職員会議資料にて虐待防止の啓蒙を実施しました。虐待防止委員会の中で身体拘束についての適正化に向けた検討を実施することができました。また、支援主任に虐待防止研修や強度行動障害支援者養成研修を受講してもらい、職員会議のケースカンファレンスに生かしました。	実施できました。	

①－２ 毎月最終火曜日に虐待防止委員会を開催し、虐待や身体拘束防止の検討を行います	副施設長中心に虐待防止チェックリストの配布集計、ケアカルテへの身体拘束の状況入力を行いました。	実施できました。	
①－３ 虐待防止アンケートを実施し職員全体に虐待防止に関わる啓蒙活動を行います。	チェックリストを実施し、３年分の意識の高まったところ下がったところをまとめ、職員会議資料として配布し啓蒙活動に繋げました。	概ね実施できました。	
①－４ １２月、２月にグループ会議で虐待に関するケースカンファレンスを行います。	１２月に全職員対象の虐待ケースカンファレンスを実施しました。３月のケースカンファレンスは各グループごと実施しました。感染予防のため、紙面による会議設定となりました。	概ね実施できました。	
①－５ 会議録等は法令順守責任者である理事長へ報告をします。	会議録をデーターで所定のフォルダーに入れ理事長時報告しました。	実施できました。	
①－６ 会議で話された内容は職員会議を通して職員周知を行います。	感染予防のため、グループ会議は紙面により実施しました。グループ会議の資料に虐待防止標語を載せ、折に触れて確認できるようにしました。	実施できました。	

2. 安全衛生委員会

(1) 目標
① ご利用者・職員の安全及び衛生のための教育を実施します。
② ご利用者・職員の健康の保持増進のための措置を行います。
③ 施設内の重大事故を未然に防ぐ事故防止に努めます。
④ ご利用者・職員が快適に過ごせる施設環境を整えます。
⑤ 感染症対策を徹底し、感染予防に努めます。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１ 毎月定例の安全衛生委員会を開催し、利用者・職員の安全衛生及びひやりはっと事故防止に向けた取り組みを行うとともに緊急の課題（インフルエンザ対応など）が発生した場合はただちに対処します。	ご利用者、職員の状況確認を必ず行い、必要があれば個別に面接相談をするなどの対応をしました。また、新型コロナウイルスに関する施設における感染症防止対策を作成し、実施しました。また、ケースごとに随時対応を検討、実施しました。	実施できました。	BCPの内容を充実させていきます。
①－２ 研修会、会議（感染症、事故防止、対策（年２回）、腰痛、車いす操作）の定期開催のほか、職場のニーズに応じた学びの場を作ります。	Eラーニングを使用した腰痛予防研修や安全衛生研修（吐物処理研修）を実施しました。	概ね実施できました。	
①－３ 職員が安全安心して働ける労働環境の整備をします。	看護主任を中心に職員の相談、アドバイスを行いました。また、安全衛生委員会で検討が必要なケースについては随時検討、確認を行いました。	実施できました。	
②－１ 嘱託医と連携を取って安全・衛生面の向上に努めます。	月１回の定期健診や医療支援の相談等その都度連絡をとり、安全に安心してご利用者が花の郷をご利用いただけるように努めました。	実施できました。	
③－１ 施設内での事故及びひやりはっとについて検証し、原因及び再発防止に努めます。	毎月月締めで月ごとのひやりはっとの確認を行い、情報の共有を図ることができました。また、ドライブレコーダーによる事故検証及び事故防止の啓蒙を行うことができました。	概ね実施できました。	

④－１ 施設内の安全、快適な環境整備について維持し更に改善します。	各事故検証会議において事故の原因再発予防に努めました。また、事故が多いときは職員会議資料にて事故防止の啓蒙を行いました。	実施できました。	
④－２ 事故につながる前のひやりはっについて職員に意識してもらうように啓蒙し、用紙に記入、分析したものを集計し、事故防止につなげます。	ヒヤリハットの件数が減少傾向にある際は各部署に再アナウンスし、職員に意識を持ってもらうように努めました。	実施できました。	
⑤－１ 感染症対策を随時検討し、対応していきます。	クラスター発生がありました。保健所や町田市、東京都と連絡を取り、対応や報告についての助言をいただきました。施設閉鎖や濃厚接触による自宅待機等、ご家族の負担が大きく、花の郷での対応についてご相談を受けることもありましたが、感染拡大を防ぐという視点で、ご家族の理解・協力を得ながら実施しました。	実施できました。	

３．医療的ケア委員会

(１) 目標	
① 医療的ケアを適切に行うために委員会運営を行います。	
② 実施者の知識、技術向上に関する教育を適宜行います。	
③ 認定特定行為業務従事者、特例実施者が安全・安心に医療的ケアができる環境を整えます。	
④ 第３号研修及び医療的ケア、緊急時対応の研修を実施していきます。	
⑤ 医療的ケアの啓蒙を行います。	

(２) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１ 毎月１回、委員会を開催し、適切に医療的ケアが実施できているか確認します。	毎月１回開催し、認定特定行為従事者、特例実施者の医療的ケアに関する現状確認、要医ケア者の現状確認、検討事項として、たんの吸引等の実施の為の研修内容の確認等々検討し、また、医療的ケアに関する研修に関しても情報を共有するようにしました。	実施できました。	

①－２ 適宜、医療的ケアの内容の確認や変更事項やご利用者の体調の把握に努めます。	看護師や各フロアの主任に医ケアの内容や確認、変更事項、体調把握に関する報告をしてもらい、内容によっては検討し情報を共有し、安全に医療的ケアができるように努めました。	実施できました。	
②－１ 医療的ケアに関する研修への参加の機会を認定特定行為業務従事者及び特例実施者に設けます。	正規職員、有期契約職員に対して認定特定行為業務従事者になるための研修を実施しました。また、吸引、注入のフォローアップ研修を行いました。	実施できました。	
②－２ 医療的ケアを実施する場面で、手技や配慮する点などの看護師によるOJTや確認を実施します。	日常の支援の中で看護師と同じ空間でご利用者支援をしているので、随時看護師によるOJTや確認を実施し、安全に医療的ケアができるようにしました。また、送迎時のみ吸引をする職員には別途看護師の元、手技の確認を行いました。	実施できました。	グループ異動に伴う職員の吸引注入について検討していきます。
③－１ 職員にマニュアルの周知徹底を図ります。	４月１４日特定職員研修、てんかん発作時の座薬挿入研修の実施しました。認定特定行為業務従事者研修は、６月８日と９月７日に経験者、未経験者に分けて２回実施しました。それぞれの特徴に合わせて学習を深めることができました。	実施できました。	
③－２ 情報提供を行うことによって指導医と主治医の連携の強化を図ります。	ご利用者の体調の変化や入院等があった場合は指導医に必ず報告し、また、主治医に意見や情報を確認したい場合は書面にて連絡を取り合い、ご利用者の状態をしっかりと把握し、支援することができました。	実施できました。	
③-3 法人の医療的ケア指要項に基づいて花の郷医療的ケア要領、細則の運用を行います。	法人の医療的ケア実施要項に基づいて花の郷医療的ケア要領、細則の運用を行い安全に花の郷での医療的ケアを実施することができました。	実施できました。	

④－１ 計画的に研修を実施し、健全、確実な運用を行います。	年間計画に沿ってに実施しました。花の郷内部での認定特定行為業務従事者の育成を計画的に行うことができました。	実施できました。	
④－２ 職員に認定特定行為業務従事者の認定を取得してもらい、ご利用者の生活の保障等を目指していきます。	計画的に研修会を実施し、有期契約職員にも認定特定行為業務従事者の認定取得を計画的に実施できています。そのことごとでご利用者の支援に反映することができました。	実施できました。	
⑤－１ 施設見学の受け入れや医療的ケアに関する研修や連絡会に参加します。	感染予防を最優先にするため、積極的な受け入れや研修参加はありませんでしたが、年度の後半より、入所を前提とした見学や実習等は受け入れるようにしました。	着手できませんでした。	

４．送迎委員

(１) 目標
① ご利用者が安心して花の郷へ通えるよう、安全な送迎業務に取り組みます。
② 「基本ルート表」に沿って毎月送迎車の運行を行います。
③ 総括を行い、送迎業務の見直しをします。

(２) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１ 車検以外にもディーラーに依頼し定期点検を行い、また花の郷でも定期的な点検を実施することで、車輛の安全確保に努めます。	ディーラーに依頼し、６ヶ月点検、１２ヶ月点検、車検を行いました。金曜夕方の送迎後から日曜にかけて実施することで送迎に支障が出ないよう配慮しました。	実施できました。	継続して車両の安全確保に努めます。
①－２ 車中ではシートベルトの他に、必要に応じて胸ベルトをすることで更なる安全対策に努めます。	ご利用者の特性や座る座席に合わせ、シートベルト以外に胸ベルトをするなど安全対策を施しました。また、個別支援計画にその旨を記載し、保護者にも確認をとりました。	実施できました。	継続してご利用者の安全確保に努めます。

①－３ 運転手は急ブレーキや急発進などをしないよう心がけ、安全な走行に努めます。	運転手はご利用者が安心して乗車できるように安全な運転を心がけました。	概ね実施できました。	継続して運転手は安全な走行に努めます。ヒヤリハットや事故があった際は全員で共有して日々の業務改善に努めます。
①－４ 車内では利用者の座席配置に気を配り、安全に過ごせるよう配慮します。	ご利用者の障がい特性に合わせた座席配置を行い、安全に過ごせるように配慮しました。	実施できました。	継続して車内でのご利用者が安全に過ごせるよう配慮します。
①－５ 緊急時におけるマニュアルを作成し、対応の統一を図ります。	緊急時の対応の統一化へ向け「送迎引継ぎ表」を作成しました。	実施できました。	来年度も継続して使用し緊急時における対応の統一化を行います。
①－６ 「運転手マニュアル」を継続して活用し、断続的に見直しを行います。	昨年度作成した運転手のマニュアル・添乗員のマニュアルを使用し、送迎車の運行を行いました。	実施できました。	来年度も継続して使用し業務の統一化を行います。
②－１ 送迎ルートは原則固定とし、年度途中での大幅な見直しは行いません。	新規ご利用者の追加を除き、大幅なルートの変更は行いませんでした。	実施できました。	来年度も原則、ルートを一年間固定します。必要がある場合は臨時の送迎会議を行います。
②－２ 毎月１０日前後に送迎連絡表（キャンセル表）をご利用者に配布し、翌月の送迎ルート表に反映させます。	毎月送迎連絡表を配布することで円滑に送迎業務を行うことができました。	実施できました。	来年度も送迎業務円滑化のため送迎連絡表を毎月配布します。

②－３ ルート表は「基本ルート表」を基礎として１ヶ月単位で利用者へ配布し、それに沿って運行を行います。	毎月２５日前後にご利用者へ翌月度の基本ルート表の配布を行い、それに沿った運行を行いました。	実施できました。	来年度もご利用者に配布した基本ルート表に沿った運行を行います。
③－１ 前期と後期に総括を行い、送迎業務の見直しをし、次期に反映させます。	前期と後期に総括は行いませんでしたが、日常的に業務の確認や必要に応じ送迎員で話し合いました。	着手できませんでした。	定期的に業務の確認、見直しを行います。
③－２ 家族会からの要望等があれば、必要に応じて家族会とも話し合いの場を持ち、送迎業務に反映させていきます。	今年度は家族会からの要望はありませんでした。	実施できました。	家族会から要望があった場合には、話し合いの場を持ち、送迎業務に反映させます。

５．防災委員会

(１) 目標
① 花の郷関係者の防災への意識を高めます。
② 災害時の食事を体験します。
③ 応急救護訓練の実施をします。
④ 災害備蓄品の見直しを行います。
⑤ 災害時のマニュアル等の整備を行います。

(２) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１ 年２回総合防災訓練を実施し実際に火災が起きた場合の自衛消防隊の動きの確認、消火器の使い方、通報の仕方、避難の仕方を確認し、防災への意識を高めます。	年に２回、総合防災訓練を実施しました。(７月２９日、３月２４日)実際に避難訓練を行い、防火管理者による消火器使用の説明事務所内内線を使い通報訓練を実施しました。ご利用者、職員の防災への意識を高めることができました。今年度設置したプロパンガス式の発電機の説明を防災訓練時に行いました。また、防災訓練の前にBCPの見直しを行い、現状に合った内容に変更、追加することが必要であることを確認しました。	実施できました。	

②－１ 年１回炊き出し訓練を行い、防災備蓄品の調理の仕方の確認、ご利用者への適切な食形態への対応の練習、かまどなどの設置の確認を行います。	新型コロナウイルス対応のため、炊き出し訓練は実施できませんでしたが自家発電機エネポの確認を定期的に行うことができました。また、栄養士に常食及び形態食の３食３日分の献立を作成してもらい献立に合わせた備蓄食材の購入を３年計画で実施中です。 防災食の日として、防災食を安全に提供しおいしく食べる経験を積むことを目的とした取り組みを実施しました。（５月１３日、１０月１４日）	概ね実施できました。	
③－１ 防災備蓄品に二時避難所として必要な物品を再確認します。	防災備蓄食材を中心に購入し、備蓄することができました。（形態食含む）	概ね実施できました。	
④－２ 用途別、期限の有無、追加備品などの整理を行います。また、内容について管理していきます。	備蓄食材の在庫管理を行いました	概ね実施できました。	
⑤－１ ９，２月に防災委員会を開き、施設及び設備の点検、防災倉庫の整理、花の郷災害マニュアルの作成、花の郷二次避難所開設マニュアルの整備等を行います。	町田市の二次避難所に関する資料を提出する際、再確認しました。防災委員会としての開催は実施できませんでしたが、二次避難所開設に関するマニュアルをはじめ、各種防災関連の引継ぎ時に確認を行いました。	概ね実施できました。	

6. 花の郷祭り

(1) 目標
① 年一回の施設の開放と大きな地域交流の場として花の郷関係者及び地域の方々にも楽しんでいただけるようにします。
② 地域の方々に来ていただくためにPR活動を行います。
③ 安全に楽しめるように企画します。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１ ステージ企画や模擬店を通じて地域の方々との交流の機会を設けます。	新型コロナウイルス感染予防のため、実施しませんでした。当日は、施設開所し、フロアごとに企画し、祭りのイベントにしました。	着手できませんでした。	新型コロナウイルス感染状況により、実施を判断します。
①－２ 他団体に声をかけ、イベントや外の販売ブースなど充実できるようにします。	新型コロナウイルス感染予防のため、実施しませんでした。	着手できませんでした。	新型コロナウイルス感染状況により、実施を判断します。
②－１ ポスターやビラを作成し、近隣へ配ります。	祭りは開催せず、施設は通常開所する旨の連絡は、全ご利用者へはお知らせを配布しました。祭りの開催がないことについて、近隣へのお知らせ等はありませんでした。特に問い合わせはありませんでした。	着手できませんでした。	
②－２ ご利用者の活動とも連携し、計画的にビラの配布を行います。	新型コロナウイルス感染予防のため、実施しませんでした。	着手できませんでした。	
③－１ 花の郷祭り実行委員会を開催し、企画の立案と安全かつ効率的に運営できるようにします。	新型コロナウイルス感染予防のため、実施しませんでした。	着手できませんでした。	
③－２ ご利用者、職員全体が主体的に楽しく、達成感が持てる関わりができるよう企画します。	新型コロナウイルス感染予防のため、実施しませんでした。	着手できませんでした。	

7. 拡大外出

(1) 目標
① 安全、安心して楽しい外出を企画し、笑顔になれる時間を提供します。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－1 拡大外出PTで安全で安心して楽しい外出を実施する為の方向性を出します。	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、実施出来ませんでした。	実施出来ませんでした。	感染状況を見ながら検討していきます。
①－2 各グループでの拡大外出を企画するだけでなく、グループの枠にとられない拡大外出も企画し、よりご利用者のニーズや状態に合わせた拡大外出を実施します。	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、実施出来ませんでした。	実施出来ませんでした。	
①－3 ご利用者の健康面、精神面を考慮した拡大外出を企画、実施します。	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、実施出来ませんでした。	実施出来ませんでした。	
①－4 緊急時を想定して、外出の企画を考えます。	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、実施出来ませんでした。	実施出来ませんでした。	
①－5 体調不良やご家庭の事情などで参加できない時には、別日に保障できるようにします。	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、実施出来ませんでした。	実施出来ませんでした。	
①－6 拡大外出について課題が出た場合には、適宜会議を開催して解決に向けて話し合います。	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、実施出来ませんでした。	実施出来ませんでした。	

8. 宿泊体験

(1) 目標
① 安全、安心、快適に花の郷でわくわくドキドキしながら泊まることを楽しもう。
② 安全でおいしい食事をしよう。
③ いつもの花の郷とは違う雰囲気大切にしよう。
④ ご家族のいない環境に慣れよう。
⑤ 職員は全人的な視点で取り組もう。
⑥ 地域を意識した取り組みにしよう。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１ ご利用者へ泊まりの希望アンケートをとり人数の把握をします。	2018年度にアンケートを実施し希望者の把握をしました。3年に1回のスパンで実施していましたが、コロナ禍の状況で現在は中止しています。		新型コロナウイルス感染予防に向けて、安全に実施できるか検討していきます。
①－２ アセスメントシートを利用してニーズの把握をします。	コロナ禍の状況で実施出来ませんでした。		
①－３ 1回の受け入れ人数、日にち、体制等々各泊まりの単位で計画を立てます。	実施出来ませんでした。		
①－４ 全体では送迎の調整、布団の手配、職員勤務の整理について確認していきます。	実施出来ませんでした。		
①－５ 医療的ケアの受け入れ、それに伴う設備の調整を行います。	実施しませんでした。		
②－１ ご利用者が安全においしく食事を食べられる支援を行います。	実施しませんでした。		

②－２ 緊急時にも安全でおいしい食事が提供できるよう、職員全員形態食(再調理)ができるようにします。	デリバリーの日を利用して形態食（再調理）を実施しました。		
③－１ 泊まりの実施に向けて計画的に行事計画を立て実施後の報告をします。	実施しませんでした。		
④－１ ご利用者の夜の過ごし方が分かるアセスメントシートを利用してご本人及びご家族に報告します。	実施しませんでした。		
⑤－１ 入浴マニュアルの見直しを行い、安全に入浴できるようにします。	実施しませんでした。		
⑥－１ 実施前に近隣へのご挨拶をします。	実施しませんでした。		
⑥－２ 地域の医療機関と連携を図り安全に花の郷に泊まれるように救急体制の整備をします。	実施しませんでした。		人員の確保ができ次第、実施します。
⑥－３ ご利用者の主治医と連絡を取り合います。	実施しませんでした。		継続します。

9. 日中一時支援

(1) 目標
① 今まで日中一時支援の仕組みを再考します。
② 日中一時支援中のご利用者の過ごし方及び送迎について検討します。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①-1 今までの日中一時支援について改善点を検討します。	コロナ禍の状況で実施出来ませんでした。	実施出来ませんでした。	感染状況を見ながら検討していきます。
①-2 日中一時支援の内容、業務について改善点を検討します。	実施出来ませんでした。	実施出来ませんでした。	感染状況を見ながら検討していきます。
②-1 日中一時支援検討委員会の中で送迎の実施について検討していきます。	実施出来ませんでした。	実施出来ませんでした。	感染状況を見ながら検討していきます。

2022年度ボワ・アルモニー年間総括

Ⅰ. 経営計画

(Ⅰ) 目標
目標Ⅰ. 障がいのある人の「働くこと」と「自立生活」を支える為に、工賃向上を図ります。(就労継続支援B型)
目標Ⅱ. 地域資源としての施設の有効活用を行います。
目標Ⅲ. 適正収支を確保します。

(Ⅱ) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(Ⅰ)－① ダイレクトメール作業を通じ、各ご利用者の技術向上を図りながら、より高い工賃をご提供できるよう、取り組みます。(就労継続支援B型)	ご利用者の得意な作業を提供しつつ、苦手な作業にも挑戦して頂く等の取り組みを行いました。	実施できました。	継続して支援していきます。
(Ⅰ)－② ご利用者ご自身の体力の低下や情緒面等に考慮し、楽しく働ける環境をご提供します。ご家族の状況等を鑑みて、相談支援事業所や支援センターと協力して適切な対応をとってまいります。(生活介護)	体力の維持に繋がられるよう、作業も含め体力作りのレクリエーションも取り入れました。ご家庭やGHでの様子も参考にし、生活で悩み事がないか確認しながら、取り組みました。	実施できました。	継続して支援していきます。
(Ⅰ)－③ SDGSを意識した取り組みを行います。	17のSDGSの取り組みの中でも「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する。」に注目し、健康的な生活に重点を置き、作業やレクリエーションを提供しました。	概ね実施できました。	継続して取り組みます。

(2) - ① 子どもの貧困問題等の収入格差問題のみならず、ひとり親世帯における生活環境の不安定要素やヤングケアラー問題等、子供たちを取り巻く厳しい環境に対し、地域の方々の協力を頂きながら子ども食堂を開設し、児童福祉支援活動を実施します。小中学校や地域からの情報を調査し、食材の提供や、おやつ・お弁当の配布、食事の提供と徐々に取り組みの幅を広げていきます。	子供食堂についての実施におけ、各事業所の取り組みの見学や会議に参加しましたが、実施には至っていません。	実施できませんでした。	今年度も見学や情報等を整理し、アルモニーで実施可能なことから始められるよう取り組んでまいります
(2) - ② 二次避難所として整備をしていきます。	二次避難所として有事を想定した整備に取り組みました。。	実施できました。	食材、飲料水等の確保は出来ていますが、十分ではない為、BCPを基に有事の想定に取り組んでまいります。
(3) - ① 人件費率を75%以内にします。	離職者も多くなったことで、アルモニーとしての人件費率は達成できませんでした。	実施しましたが、結果が不十分。	今後は、予算も念頭に置きつつ、健全な人件費率を保てるよう運営してまいります。
(3) - ② 事業活動収支差額を10,000,000とする予算管理を目指します。	出勤率の100%を目指しながら運営に取り組みました。	実施しましたが、結果が不十分。	ご利用者の体調や情緒面の様子を確認しながら、出勤率を高めます。ランニングコストの見直しも含め、今後は削れるコストを洗い出し予算管理に努めます。
(3) - ③ 水道光熱費、事務消耗品（白黒印刷、ペーパーレス化等）の無駄を省き、コストカットを徹底します。	水道の水漏れや無駄と思われる光熱費にも注目し節約に取り組みました。ペーパーレスを基調とし、できるだけ紙を出さないよう、メールでの対応や可能な範囲で裏紙でのプリントアウトに心掛けました。	実施できました。	継続して取り組みます。

ボワ・アルモニー事業計画（就労継続支援B型）

2. 支援部門

(1) 目標
目標1. 心も体も健康に働き続けられるよう支援します。
目標2. 地域との関わりを持って生活できるよう支援します。
目標3. 集団の中で個別支援をチームで実施します。
目標4. 職員の専門性の習得、資質の向上を図り、サービスの質の向上に努めます。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(1)－①日々の健康状態の把握（健康観察票による出勤時の確認）、毎月の体重測定、半年ごとの体脂肪率測定、口腔ケア（休憩時のうがいの実施・口腔ケアの職員補助）、健康診断、歯科検診、問診を実施します。	健康診断、歯科検診、ブラッシング指導を実施しました。 コロナ対策に昼食前検温、適宜換気の実施。	実施できました。	高齢化に伴う、健康管理・身体機能低下の把握。診断結果を保護者と共有し、治療などに結びつけていく。歯科通院に繋げ、治療の開始となりました。
(1)－②生産活動において、ご利用者の体力、腰痛などの身体への負担に配慮して役割分担や作業を提供します。	腰痛、体力低下の防止のため、長い時間座位にならないよう、立位での作業時間を組みました。	実施できました。	継続して支援していきます。
(2)－①行事を通して地域の方々の交流の実施。みんなの会で実施する美化活動を通しての地域貢献を行ないます。	コロナの影響により行事は実施できませんでした。 美化活動は、生活介護にて実施。	概ね実施できました	コロナの状況に合わせて計画の見直しと代替案の検討をします。
(3)－①生産活動を通して、ご利用者の状態像や目標に合わせた作業内容や作業環境を職員で検討、共有を適宜、対応します。	その日々のご利用者の状態に合わせて、適宜、作業環境を調整・設定しました。	実施できました。	次年度も継続。

(4) - ①各職員の目標管理に基づいて、外部研修に参加・研修報告を会議などで実施し専門職として必要な知識や専門性を身に付け、適切な支援が出来る様に努めます。	目標管理に則った階級別研修に参加し、専門職として知識を身に付けるため、内部研修を行い、外部研修にも参加しました。	実施できました。	次年度も達成に向け、計画を行い継続。
--	---	-----------------	---------------------------

3. 生産活動部門（就労継続支援B型）

(1) 目標
目標1. “働く”ことから「生きがい」「やりがい」が実感できるよう支援します。
目標2. 授産収入を上げ、工賃アップします。

(2) 計画	実施状況	評価結果	今後の課題
【全体】(1) - ① 毎月の作業実績・売上をグラフで表し、仕事の達成感を共有します。	グラフ化し、支援会議での報告、検討、食堂の掲示板に掲示し、みんなの会にて報告をしました。	実施出来ました	次年度も継続。 1日の封入、宛名貼りの部署ごとに目標数を作業場に掲示して、達成を共有できるようにする。
(1) - ② ご本人のスキルや目標、作業の納期や作業量に合わせ、ご利用者の作業分担を検討し、個々に設定し実施していただきます。	ご本人の能力に合わせ、封入点数を調整し、質を高めペース良く行なえるようにしました。	実施出来ました。	次年度も継続。
(2) - ① 作業状況を本体・分場の支援職員間で共有し、納期や作業量に応じて臨機応変に職員体制を調整して授産収入および工賃アップを実施します。	ほぼ固定の職員でしたが、状況に合わせて職員の配置を適宜実施しました。	概ね実施出来ました。	職員の欠員の改善

【就B】（１）－①ご利用者が毎日意欲を持って、個々の持つ力を大いに発揮していただけるよう、作業の組立・工程の工夫、作業ジグの開発、また個別スペースを活用し、作業を実施します。	的確に個人の能力に合わせた作業工程や環境を整備しました	実施できました。	次年度も継続。
（２）－① 受注量150,000通/月以上、収入月平均1,200,000円/月以上を目標とします	平均工賃35,000円を下回らないように職員欠員の中達成しました。	実施できました。	次年度も継続。職員による事前準備、後処理で残業がある。売上、DMSとの関係性などから受注量を維持するのか残業削減の為受注を減らすのか課題。

ボワ・アルモニー事業計画（生活介護事業）

１．支援部門

（１） 目標			
目標1. 心も体も健康に働き続けられるよう支援します。			
目標2. 地域との関わりを持って生活できるよう支援します。			
目標3. 職員の資質の向上を図り、サービスの質の向上に努めます。			
目標4. 余暇活動を設定し、充実した時間を過ごします。			
（２） 計画	実施状況	評価	今後の課題
（１）－① 毎朝バイタルチェックを行い健康状態の把握 毎月の体重測定、半年ごとの体脂肪率測定、口腔ケア（休憩時のうがいの実施・口腔ケアの職員補助）、健康診断、歯科検診、問診を実施します。	看護師との連携の元、毎朝のバイタルチェック健康状態の把握のほか、毎日の口腔ケア、月例の体重測定、健康診断・歯科検診・問診を実施しました。結果については各ご利用者に個別にお伝えしています。コロナワクチンの集団接種を行ないました。	実施できました。	次年度も継続。
（１）－② 生産活動において、ご利用者の状態像に合う作業を提供し、無理なく取り組めるような作業を提供します。	工程ごとに分けるなど、各ご利用者それぞれのペース・方法で作業に携われるよう作業提供をしました。	実施できました。	次年度も継続。

(2) - ① 行事を通して地域の方々との交流を実施します。みんなの会で実施する美化活動を通しての地域貢献を行います。	コロナの為、地域交流は出来ませんでしたが、社会貢献の一環として美化活動に取り組みました。	実施できました。	次年度も継続。
(3) - ① 各職員の目標管理に基づいて、外部研修に参加・研修報告を会議などで実施し専門職として必要な知識や専門性を身に付け、適切な支援が出来るよう努めます。	目標管理に則った階級別研修に参加し、専門職として知識を身に付けるため、内部研修を行い、外部研修にも参加しました。	実施できました。	次年度も継続。
(4) - ① ご利用者のご希望を取り入れながら、毎月2回余暇活動を計画、実施します。	月2回のレクリエーションを計画、実施しました。実施内容をポスターなどで掲示して事前にお知らせする事や製作活動での作品を展示、自分でやりたいものを選択できる機会も設けました。また体力低下の懸念からレクリエーションにストレッチ、ボールやゴムチューブを使用した運動、ダンス、エアー卓球、グラウンドゴルフなど身体を使ったプログラムを多く取り入れました。	実施できました。	次年度も継続。

2.生産活動部門（生活介護）

(1) 目標
目標1. “働く”ことを大切にします。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(1) - ①DMSからの作業を中心として平均工賃7,200円を目指します。	適宜個別スペースを活用し、集中して作業に取り組めるよう環境を設定しました。	実施できました。	職員欠員により、受注量をセーブしたため、経費を施設会計で支払わなければならない月もありました。レクリエーション等との取り組みになるが、ご利用者の体力維持に繋がることも踏まえ、工賃も意識しながら作業提供をします。

(1) - ② 個々のご利用者により合った方法で作業を提供し、生産性を高めていきます。	作業内容により、席の配置変更を行いながら、ご利用者が安全に動けるように作業の提供を行いました。	実施できました。	
(1) - ③ 働くことの大切さをご利用者と一緒に考えていきます。	個々の特性にあわせた仕事のしやすい環境を提供することで、働くことの意識が高まり、目標工賃を達成することが出来ました。	実施できました。	

3. 栄養部門

(1) 目標
目標1. 日本人の食事摂取基準に基づいて、ご利用者一人ひとりに適正な栄養のある食事、年間を通して飽きの来ない美味しいランチ提供を目指します。
目標2. HACCPに基づいた衛生管理の徹底をし、安心・安全な食事提供をします。
目標3. 「食べる力＝生きる力」食事の大切さや楽しみ、食を通して生きることを育む食育を実施します。
目標4. 災害時を想定した献立を、喫食者数に応じ対応できるように訓練を行います。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(1) - ① 一人ひとりに適正な栄養目標量を設定して献立作成を行います。	一人ひとりの栄養目標量を4月、10月に設定して必要な栄養が摂取できる献立作成を行いました。	実施できました。	次年度も継続。
(1) - ② ご利用者の嗜好調査、アンケート、健康診断の結果、食事時の訪問を通して利用者の摂食機能や食事状況の把握に努めて、支援職員、看護師と連携を図り、必要な栄養素を摂取出来る食事量、食事形態を考慮した給食を提供します。 また、肥満の方（BMI 25%以上）には、カロリー-33%減で食物繊維が豊富なマンナンヒカリ入りごはんを提供します。	アンケート調査の結果や個人の嗜好への配慮、健康診断や通院の結果を踏まえて個別の計画を立て食事提供を行いました。 肥満傾向のある方にはマンナンヒカリ入りごはんを提供しました。	実施できました。	次年度も継続。

(1) - ③ 季節の行事食の提供、毎月の誕生会に誕生者のリクエストメニューで実施します。多数のリクエストをいただいた場合にはその月の献立に取り入れます。毎月、選択メニューも実施します。	リクエストをご利用者全員にお聞きし、誕生会とリクエストが多い時には、その月中に実施して喜んでいただけました。 選択メニューは月2～3回程度、「お肉かお魚のメニュー」「ごはんかパン」「ハンバーグのソースを和風かデミグラスソース」など実施しました。	実施できました。	次年度も継続。
(1) - ④年間を通して飽きの来ないように、旬な食材を用いた新メニューを取り入れて提供します。	旬の食材を使用した季節感のある、色彩豊かな食事の提供を行いました。また、ご利用者から、さまざまなリクエストをいただけて、新メニューの開発にもつなげることができました。	実施できました。	次年度も継続。
(2) - ①「食材の品質」「冷蔵庫・冷凍庫の温度」「調理員の健康管理や衛生的な作業着の着用」「調理中の重要管理のポイント」など HACCPの考え方を取り入れて立てた衛生管理計画の表に、毎日記録をつけて確認をします。	出勤時や調理中に、それぞれの書式にもれなく記入をして、HACCPの考え方を取り入れた衛生管理の徹底をしました。	実施できました。	次年度も継続。
(2) - ②コロナ禍に伴い密をさけ、パーティションを設置し、2交代制での給食提供をし、酸性水やアルコールを用いて常に消毒を行います。	6人掛けのテーブルに互い違いに3名の席をご用意して一人ずつにパーティションで仕切り、食堂の準備時、ご利用者の入替時、食事終了後には必ず消毒を行いました。	実施出来ました。	次年度も継続。
(2) - ③ 清掃チェックリストに基づいた清掃の他、5月と11月に厨房内、食堂の大掃除を実施します。	出来る限り通常業務を早く終わらせるように努力をして、5月、11月に一カ月をかけて、厨房内、食堂、ベランダ、窓、外回り、風呂、トイレ、各種フィルター等を丁寧に掃除をしました。	実施できました。	次年度も継続。

(3) - ①コロナ禍で昨年度は、旅行や日帰りレクなどの外出が出来ませんでした。実際に今は行けなくても、ご利用者の行きたい場所を選んでいただき「ショクイクモニー・ツーリズム」を開催し、その土地の楽しみのあるワクワクする給食を提供しながら「食べる力」を伝え、残食0を目指します。	6月に食育週間を設けて「ショクイクモニー・ツーリズム」を開催しました。日本各地の旅行に行きたいところや、食べてみたい食事などをご利用者に投票していただき、選ばれた5カ所の郷土料理を本場に近い状態で召し上がっていただけるように、仕入れるのが難しい食材はお取り寄せをして好評でした。その土地や料理の画像を見ながら、観光地や料理、食育の説明をいたしました。	実施できました。	次年度もテーマを変えて継続。
(3) - ②食事のありがたさを改めて感じられるように、「食品ロス0！食べられる適量を知り、きれいに食べきろう」の取り組みを行います。	「食品ロスを減らすように私たちができること」のスライドを作成し、ご説明させていただきました。また、給食では、個々に食事の量の調節を行っているため残食はありません。給食ぐらいの食事を適量と覚えていただいています。	実施できました。	次年度も継続。
(3) - ③食育に関するアンケートにご協力いただき、集計結果を配布します。ご利用者、保護者のご意見を踏まえ今度の食育活動のテーマに取り入れて行きたいと思います。	9月に食育に関するアンケートを実施して、集計結果のお知らせを配布しました。多くの方が、食事の内容、マナー、特に家族や仲間と食事をするを大切に過ごされていました。コロナ禍に入り食生活に変化が見られない方は7～8割でした。	実施できました。	
(4) - ①昨年、災害時を想定して、電気、ガス、水が使用出来なくても温かい食事が提供できるように1週間分の献立を作成しました。実際に喫食者数やご利用者の食事形態により、使用する器具や調理法が異なりますので、工夫をして調理工程を考え、いざという時にも、スムーズに対応出来るように訓練をします。	備蓄食材や給食食材在庫の乾物類、缶詰、冷凍庫にある食材を使用して作る献立を、炊き出しかまど、カセットコンロを使用して、月1回食事提供を実施しました。1月には、ご利用者と炊き出しかまどで汁物を作り、アルファ米にお湯を入れるところから見ていただきました。	実施できました。	

(4) - ②災害時の献立を給食で提供して、ご利用者、職員に召し上がっていただいて感想等を献立に反映させて改良をします。	炊き出しかまどで作った、ごはんやうどん、パスタ等の調理は、普段から食べなれている食材の料理なので美味しく召し上がっていただくことが出来ました。備蓄食材では、ご利用者に出来る方には、蓋や袋を開けてもらい、付属のスプーンで召し上がっていただきました。その様子を観察して、食べやすい形状の備蓄食材なのかを見極め、今度の備蓄食材購入時の参考にさせていただきます。	実施できました。	
---	--	-----------------	--

4.みんなの会

(1) 目標
目標1. みんなの会でご利用者に関わる行事内容などを話し合う機会を設定し、ご利用者中心に決定します。
目標2. ご利用者一人ひとりが自己表現・自己決定できる機会とします。
目標3. 地域交流活動を行います。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(1) - ①ご利用者の意見を反映させ、良い行事となるようみんなの会で話し合う時間を作ります。	みんなの会でやりたい事やほしい物など、話し合い、新しい曲が収録されたカラオケを行ないたいとの意見から新しくカラオケを契約しました。	実施できました。	話し合いを行い多くのご利用者の意見取り入れられるようにします。
(2) - ①行事の内容や参加をご利用者自らの意思で、選択する、設定するなどの自己決定ができるようにします。	赤い羽根募金ではご自身の意思で募金活動に参加しました。 新しい曲が収録されたカラオケを行ないたいとの意見から新しいカラオケを契約し、余暇活動でカラオケをおこないました。	実施できました。	意思決定できる機会を増やします。
(2) - ②年度末にみんなの会役員選挙を通じて、立候補することや他のご利用者を推薦する・されるなど、自身の自己表現・自己決定ができるようにします。	立候補者を募り数多くの立候補者の中から、選挙によりみんな役員を決めることができました。	実施できました。	継続します

(3) - ①地域の中で共に生活する一員として、地域貢献として美化活動を実施します、	作業の合間を見て、美化活動を実施しました。引き続き来年度も実施していきます。	実施できました。	レクリエーションや買い物など外出する機会などを利用し美化活動を実施します。
--	--	----------	---------------------------------------

5.保健衛生

(1) 目標
目標1. ご利用者の安心・安全を目指した健康支援を行います。
目標2. 歯科衛生に努めます。
目標3. 家庭支援としてご家族からの健康相談に応じます。
目標4. 感染症の予防に努めます。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(1) - ① 希望されるご利用者のみ健康診断を施設にて実施します。	産業健診センターに依頼し、検診車来訪の元希望者に対して健康診断を実施しました。 今年度は、成人病予防の観点からHBAI cの測定も追加しました。	実施できました。	来期についても産業健診センターに実施依頼していく予定。
(1) - ② 毎月体重・血圧測定を行ないます。	基本的に月末に本体、分場と分けて測定しました。	実施できました。	次年度も継続。
(1) - ③年に1度体脂肪率測定を行ないます。	健康診断受診時に体脂肪測定を行いました。	実施できました。	次年度も継続。
(1) - ④殺菌効果のある酸性水を使用し、うがいを行なうよう支援します。	毎日の休憩時に行なっています。	実施できました。	次年度も継続。
(1) - ⑤服薬管理を適切に行ないます。 ・常備薬の内容の把握 ・災害時用の3日分の服薬管理(4月・10月に差し替えを行ないます)	日々の服薬管理については、誤薬なく実施しています。頓服薬の管理についても、ご家庭と連携を取り、把握した分については効能書の控えを管理しています。災害時の預かり分については、定期的な入れ替えを含めて実施できています。また、返却した薬に潰れたり変質したのが見られたため保管状況を見直した。	実施できました。	次年度も継続。保管状況については必要時適切に対処していく。

(2) - ①昼食後の歯みがき支援は、コロナウイルス感染を予防する観点で必要最小限の人数を行います。	感染予防対策をとり昼食後の歯磨きを徹底して、ブラッシング指導内容を参考に対象者を設定し仕上げ磨きを行ないました。	実施できました。	継続していきます。
(2) - ②歯科衛生士によるブラッシング指導を実施します。(6月予定)	6月、全員を対象に障がい者歯科の歯科衛生士によるブラッシング指導を4回に分け個別に行いました。結果を受けて食後の歯磨きを徹底し、必要な方には磨き直しを行いました。	実施できました。	次年度も継続
(2) - ③原則全員のご利用者に成人歯科健診を実施します。	今年度は予定通りに実施できました。その結果必要な方には医師受診を進めました。	実施できました。	次年度も継続
(3) - ①嘱託医による問診を実施します。	西島医院と調整し2/22に実施しました。	実施できました。	次年度も継続
(4) - ①施設内のインフルエンザ流行を防ぐため、ご利用者・職員の呼びかけ、希望者に予防接種を実施します。	今年度は、嘱託医の西島医院と調整し10/26実施しました。	実施できました。	次年度も継続
(4) - ②コロナウイルス感染予防のため非接触のアルコール消毒と常時マスクの着用を徹底します。	毎日手指消毒器の清掃点検を行い、アルコール液の残量も確認した。	実施出来ました。コロナワクチン接種も4回と5回を実施しました。	次年度も継続。

(4) -③手洗いチェッカーを施設に設置し、7月、11月、3月に手洗い確認を実施します。ご利用者の皆様に正しい手洗い方法を習得していただきます	3回／年の手洗いチェック実施できました。手洗いが不十分な方に対してはネットやブラシを利用して洗っていただくように蛇口横に準備しました。使用後は酸性水で洗浄後乾燥させるようにしました。	実施できました。	次年度も継続
--	--	-----------------	---------------

6.実習・ボランティア

(1) 目標
目標1. 職場体験・実習生の受け入れをします。
目標2. ボランティアの方が楽しく作業や行事補助ができるよう配慮します。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(1) -① 特別支援学校、福祉、一般学生からの実習受け入れを年間スケジュール、現場の状況から勘案し、計画的に受け入れます。	コロナウイルスの関係で要望通りには、応えることができませんでした。日数、時間短縮等で協力頂き、特別支援学校、一般学生の依頼に沿って実習の受け入れをしました。	実施できました。	新型コロナウイルス対策を徹底し、介護等体験実習について、要請に基づいて受け入れます。
(2) -① ボランティアセンターと連携を取り、積極的に受け入れを行います。また、ボランティアの方との意見交換を実施して、受け入れについての改善点などを見つけ定着を図っていきます。	ボランティアセンターとは連絡は十分ではなかったが、現在受け入れているボランティアの方とは、意見を交換しながら活動協力をいただくことが出来ています。	実施しましたが、達成できなかった。	ボランティアセンターと連携しましたが結果に結びついておりません。引き続き取り組んでまいります。
(2) -② ボランティアの方が楽しく作業補助や行事補助が出来ように環境作りします。	作業補助のボランティアの方が、ご自身のご都合で辞められた為、ボランティアセンターと連携し、人材を探しました。	実施しましたが、達成できなかった。	今後もボランティアセンターと連携し、取り組んでまいります。

7.送迎管理

(1) 目標
目標1. ご利用者の安心安全を第一に考えた送迎業務を行います。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(1) - ① 無事故で送迎できるように安全運転を徹底します。	ドライブレコーダーを取り付け、また運転手の協力を頂きながら、安全に送迎業務を行いました。	実施できました。	
(1) - ② 日常点検、整備、洗車、給油等を随時実施し、送迎業務に支障がないよう管理します。	運転手の協力の元、日々の走行前後に車内外の清掃を行なっています。	実施できました。	日常点検項目にシート・ドア等の確認を追加し、安全運行を心掛けます。
(1) - ③ 送迎車内でのトラブル防止に配慮します。	送迎運行の際、停車時・ご利用者の乗り降り時にトラブルはありませんでした。	実施できました。	
(1) - ④ 運行予定表を作成しご利用者の休み等を事前に把握し、スムーズな送迎業務を実施します。	送迎キャンセルの把握を行ない、運転手への連絡を確実にこなうことで、日々確実な運行を行なうことが出来ました。	実施できました。	
(1) - ⑤ コロナ感染対策の為、乗車時には消毒の徹底をします。	ご利用者の乗車時は、消毒を徹底し、窓を開ける対応を取りました。乗車前に車内の除菌消毒を行ないました。	実施できました。	
(1) - ⑥ 緊急時に備えたマニュアルを作成し車内に常設できるようにします。	災害時用の水・非常食・災害避難マップを車内に常備し、運転手と確認を行ないました。	実施できました。	

8.車両管理

(1) 目標
目標1. 車両の安全走行の為の点検・整備。
目標2. 車両の清掃・車検。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(1)－①安全走行を第一に心掛け、週に一度、点検項目確認（エンジンオイルの量や色、ラジエーター液の点検、ヘッドライト・テールライトの点検、ファンベルトの緩みの確認、タイヤの溝の確認や空気圧の点検、室内空間/ヒーター・クーラーの確認）を行います。	運転手の協力の元、運行前に点検を行ないました。	実施できました。	送迎車ドアにネジの緩みが見つかる事案がありました。点検項目に加え、確認を行ないます。
(1)－②冬用のタイヤへの交換は12月・3月に実施します。	業者と調整のうえ、交換を実施しました。	実施できました。	
(2)－①車両の外・内部を清掃に保つよう清掃点検を実施します。	運転手の協力の元、運行前後の清掃を行ないました。	実施できました。	
(2)－②減免申請や車検の手続きは滞らないよう、計画的に行います。	全車両の車検日の一覧表を作成し、計画的に行いました。	実施できました。	
(2)－③コロナ感染予防の為、夏場は酸性水、冬場はアルコール消毒を車内に用意し、乗車の際には消毒の徹底をします。	ご利用者の乗車時は、消毒を徹底し、窓を開け換気対応を取りました。	実施できました。	

9.法人広報誌

(1) 目標
目標1. より多くの方々にボワ・アルモニーの行事やお知らせに興味を持っていただけるよう編集します。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(1) - ①年4回発行される法人広報誌の紙面と適宜更新されるホームページを利用して、ボワ・アルモニーで取り組んでいる活動等について、広く地域に向けて発信します。	ボワ・アルモニーで行った行事や日々の活動の様子、取り組みを広報誌やホームページに掲載し、お知らせすることが出来ました。特にホームページ掲載は定期的に更新し、最新の活動風景をお示しすることが出来ました。	実施できました。	今後も、ご利用者の日常や活動、作業の様子が常にわかる様、ホームページの掲載数を増やしてまいります。
(1) - ②ご利用者の個人情報に配慮し、行事を通してボワ・アルモニーのご利用者の様子を広くお知らせします。	個人情報等に配慮し、ホームページ、広報誌を媒体として、日々の活動等を広く、お知らせすることができました。	実施できました。	個人情報に配慮し、日常のご利用者の活動や、特別な行事等も含め、幅広くお知らせしてまいります。

10.虐待防止委員会

(1) 目標
目標1. 虐待防止研修を実施しサービスの質の向上をします。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(1) - ①虐待防止責任者を設置し、虐待防止に取り組めます。	虐待防止責任者を設置し、運営層が中心となり、虐待と思われる案件や繋がる案件について話し合いました。	実施できました。	虐待に繋がる行為について意識し、常に話し合いができる環境を作る。
(1) - ②虐待防止についての研修を5. 10月に実施し、職員の質の向上・人材育成を行ないます。	アルモニーに於ける虐待に繋がる案件等を例に挙げ、職員全員で意見交換をし、虐待に繋がらないような支援について話し合いました。	実施できました。	

(1) - ③虐待防止についてのアンケートを全職員に実施して、職員の人権意識の向上を図ります。	自身の行為や他の支援者の行為言動についてアンケートで、意識を高められるよう実施しました。	実施できました。	
---	--	----------	--

11.防災委員会

(1) 目標
目標1. 災害時に備え、防災意識を高めていけるよう、避難訓練、点検を実施します。
目標2. 災害などが発生して事業継続が危機的状況に陥った際に、より重要な業務への影響を最小限に抑え、できる限り迅速に業務を再開できるように、復旧対策の手立てを事前に策定するBCP計画を基本に災害時の対応を進めて参ります。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(1) - ① 避難訓練 (火災想定、地震想定)を実施します	火災、地震を想定し実施しました。 また滑り台を使用した避難についても実施しました。	概ね実施できました。	多種にわたる災害に備え、有事に則した訓練にします。
(1) - ② 起震車体験を実施します	計画を立てましたが、コロナウィルスの影響により実施できませんでした。	着手できなかった。	新型コロナウイルスの状況を鑑み、消防署と相談しながら行います。
(1) - ③ 防災備蓄品の確認を年に1回行ないます	賞味期限管理を含めて実施し、新たに購入も行いました。	実施できました。	
(1) - ④ 引き渡しカードを作成し、引き渡し訓練時に使用します。	コロナウィルスの影響により実施できませんでした。	着手できなかった。	新型コロナウイルスの状況を鑑みながら計画に沿って行ないます。
(1) - ⑤ 年2回、専門業者に委託し、消防設備等の点検を行ないます。	予定通り2回実施しました。	実施できました。	

(1) - ⑥ 防火管理責任者が、施設・設備の総点検を行ないます。	施設内の設備点検とともに防災設備および防災の視点での点検を毎月1回実施しました。	実施できました。	
(1) - ⑦ 自主検査チェック票（日常）「閉鎖障害等」を毎日確認、記入します。	本体・分場職員により自主点検を毎日実施しました。	実施できました。	
(2) - ① BCP計画に基づいたマニュアルを作成します。 初動対応・業務再開・業務回復・全面復旧までの終結を念頭に、時系列で具体的な動きをマニュアルにします。	BCP計画書を作成に着手致しました。今後は職員、ご利用者と計画に基づく訓練に結び付けて参りたいと思います。	実施しましたが、結果が不十分。	マニュアルの見直しを行なっている途上であり今年度に完成させ、有事を想定した訓練を行って参ります。

12.安全衛生委員会

(1) 目標
目標1. ご利用者・職員の安全及び衛生的な環境で過ごせるための環境整備に努めます
目標2. 感染症対策を徹底し、感染予防に努めます。
目標3. 安全衛生に関する研修を実施し、職員の知識の向上、育成に努めます。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(1) - ①施設内の安全、快適な環境整備を維持する為に、日々の消毒、清掃を実施します。	施設内に於いて、不要なものは処分・片付けを行い整理し、決められた場所に決められたものをいつでも使用できるよう整頓に心掛け、清潔な環境が保たれるよう消毒、清掃に力を注ぎました。	実施できました。	次年度も継続。

(2) - ①感染症に関する適切な情報収集による早め予防対策を随時検討し、対応します。	特にコロナウイルス感染症に対し、保健局の職員と密に連絡を取り、感染予防や感染した場合の対策を直接確認しました。また施設で抗原検査キットを用意し、体調不良のご利用者、職員には検査を行い、陽性が出た際は適切に対応することができ、クラスター等は防げました。	実施できました。	次年度も継続。
(2) - ②感染者発生時対応訓練 (11月)を実施します。	コロナウイルス感染症のみならず、あらゆる感染症の発症時の対応手順を看護師を中心に組みました。	実施できました。	次年度も継続。
(3) - ①感染症及び食中毒等の防止の対策を、内部、外部研修で実施(適宜)します。 外部研修の情報は、職員全体に周知して共有します。	感染症に対応する手順や発生を未然に防ぐ対策をインターネットを利用し内部研修で学びました。外部研修についてもインターネットに繋ぎ、取り組み職員会議等で発表し啓発しました。手指の消毒は通常の消毒液を使用し、うがいは酸性水を提供し、感染防止に取り組みました。	実施できました。	次年度も継続。

13.日帰りレクリエーション

(1) 目標
目標1.日頃の作業を離れ、余暇活動を提供します。
目標2.コロナ禍に於ける新しい形の余暇活動を提供します。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(1) - ① 楽しい余暇活動出来るよう、みんなの会と連携し、何処で何をしたいか話し合い、出来るだけご希望に沿った余暇を実施します。	みんなの会と連携して、お楽しみ会で何をしたいか話し合いました。新型コロナの影響で実施には至りませんでした。	着手できなかった。	コロナウイルス感染症等に配慮し、新しいスタイルのレクリエーションの実施も含め、外出できる環境が整い次第、日帰りレク等も提案してまいります。

(1) —② 心身のリフレッシュを図れる企画を立て、実施します。	毎月2回ご利用者に楽しんで頂ける様な企画を計画致しました。	実施できました。	
(2) —① コロナ禍に於ける生活様式を意識し、ご利用者と共に考え、外出に拘らないレクリエーションを提供します。	体力作りや創作活動、調理レクリエーションなどを企画致しました。	実施できました。	

2022年度 ボワ・ミニヨン 年間総括

Ⅰ. 支援部門

【ボワ・ミニヨン】

(Ⅰ) 目標
①ご利用者個々のニーズをくみ取り、ご本人が思い描く生活を支援します。
②外部研修への参加、内部研修の実施において、支援の専門性を向上します。
③感染症に対する取り組みを徹底します。 火事や自然災害に備えます。 防犯研修への参加、防犯備品を整えるなど、防犯対策に取り組みます。
④経営計画に沿った施設運営を行います。

(Ⅱ) 計画	実施状況	評価	今後の課題
Ⅰ-① 自己選択・自己決定ができる支援、環境作りをします。	個別での外出やプール、音楽といった外での余暇活動について、ご利用者個々に楽しめました。感染症が拡大している時期は、職員の判断にて参加を見送らせていただくこともありましたが、その際は対象となるご利用者と話し合いの場を持ち、双方が納得できる結論を導きました。また、誕生日の食事メニューや、ティータイムの飲み物など、ご利用者自身で選択する機会を設けることができました。	実施できました。	
Ⅰ-② 感染症に注意を払いながら、安全に楽しい時間が過ごせるよう、日帰り旅行など、余暇活動を企画、実施します。	昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止対策として、外出や外食など、外へ出るイベントは中止しました。代替活動として少し豪華な弁当を楽しむなど、ホーム内でレク活動を実施しました。ご利用者みな、楽しんで参加されている様子でした。	一部実施できました。	日帰り旅行などの余暇活動は今後も計画していきます。感染症の流行などには注意を払い、安全に実施できるように努めます。

1-③ 日々検温をし、必要に応じて血圧を測定します。排尿・排便を記録します。配食サービスを利用し、バランスの取れた食事を提供します。	表情や顔色などの他、朝夕の検温は全ご利用者を対象に実施しました。また各ご利用者の健康状態に合わせ、血圧測定や排便の有無の記録などをしました。普段と違った様子や数値が見られた時は、保護者や通所施設等と連携をし、必要に応じて通院支援をするなどの対応を行いました。	実施できました。	
1-④ 個々の希望に基づき、個別面談を行います。面談を通じてご家庭の状況など、ご本人を取り巻く環境を把握するとともに、必要に応じて社会資源の提案をするなど、ご本人やご家族にとって、より適した生活環境を整えられるよう努めます。	希望されるご家庭を対象に個別面談を実施しました。日々の様子や支援の他、将来的なことについても話をし、必要に応じて後見人についての説明などもしました。	実施できました。	
1-⑤ ご利用者、職員の双方にとって安心して安全な支援が行えるよう、浴室へのリフトの導入を検討するなど、ノーリフティングケアの構築を目指します。	福祉機器の展示会に参加しました。グループホームの建物の構造やご利用者の障がい特性と合致する入浴リフトについては、実際に2週間程度のデモンストレーションにて試行しました。使い心地などについて、ご利用者に感想を聞くとともに、職員間でも今後に向けての検討を図りました。	一部実施できました。	

2-① 東京都社会福祉協議会階層別研修、グループホーム世話人研修など、各種研修に参加します。また職員の支援力に合わせた研修を計画し、（オンライン研修も含め）現場へのフィードバックまでを評価します。	中堅研修やチームリーダー研修など、職位に応じた研修に参加し、各職員は必要なスキルを身に付けました。 また、記録の書き方や虐待防止などについて、オンラインでの研修を計画し、実施しました。研修後は報告書の回覧や職員会議を通じたフィードバックを行うことで、内容の周知を図りました。	実施できました。	
2-② 職員会議において虐待防止や支援の向上につながる研修を実施します。	虐待防止については、職員会議にて取り上げたほか、研修への参加やセルフチェック、事例の回覧などを通じて職員の意識づけに取り組みました。	実施できました。	
2-③ 職員個別に目標管理面接を実施します。年度目標を管理者、職員双方で計画し、達成状況についての確認を行います。	定期的に目標管理面接を行いました。年度初めに立てた目標について確認するとともに、研修への参加などについても話し合いました。	実施できました。	
2-④ 管理者は職員育成のための研修に参加します。	管理者はハラスメント研修やメンタルヘルスケア研修などに参加し、職員の育成やモチベーションの上げ方、メンタル面のフォローなどについて学びました。学んだことについては、職員との目標管理面接やコミュニケーションの取り方といった形で実践しました。	実施できました。	

3-① マスク、アルコール消毒液等を一定量備蓄しておきます。職員の就業前の検温を徹底します。	マスクやアルコール消毒液の備蓄に努め、不測の事態に備えました。また、職員は就業前に検温や手洗い、うがいをするとともに、PCR検査及び抗原検査を週に一度実施するなど、感染防止対策に努めました。	実施できました。	
3-② 嘔吐等、感染症が懸念される汚染に対して迅速に対応できるよう、処理に必要なものをまとめておき、感染が広がらないよう努めます。	嘔吐時の処理セットを用意するなど、緊急時に備えました。また職員会議などで、処理セットの中身の確認や、消毒液の作り方などについて確認をしました。	実施できました。	
3-③ 初期消火訓練、地震・火災避難訓練、救急救護訓練(AED訓練)、無線電話訓練を行います。	5月に初期消火訓練及び停電時の電源確保訓練、6月、10月、3月に避難訓練、9月に救急救護訓練(AED訓練)をそれぞれ実施しました。避難訓練については、無線電話訓練も同時に実施した他、身の守り方や避難についてご利用者と確認しました。	実施できました。	
3-④ 災害用備蓄品の更新・補充を行います。	水や食料といった、災害用備蓄品について、それぞれの必要個数や保存(品質保持)期限を一覧にして壁に貼りだすことで、担当者だけでなく、だれもが確認できるようにし、不備がないようにしました。	実施できました。	

3-⑤ 施設の見回りや施錠など、日常的な防犯・防災の備えを徹底します。	防犯対策として、施設の出入り口については日中であっても常に施錠をし、夜間は常夜灯をつけるなどしました。夜間帯は定時に見回りをし、退勤時にはチェック表を用いて施錠などの確認をしました。また、さすまたを設置し、使い方の確認や実際にさすまたを使った訓練をしました。 防災対策として、台風や積雪の予報が出た際は、危険予測をし、外にあるものを屋内に入れることや、物干しざおを下ろしたりするなどの対策をしました。	実施できました。	
4-① 職員体制を整えることで、円滑な支援が行えるよう努めます。	常時職員の募集を行い、シフトについても働きやすいと考えられる時間帯を新たに設定しました。有期職員の雇用や派遣社員の継続等により、体制を整えました。	実施できました。	
4-② ご利用者やご家族のご要望を聞き、グループホームの今後の方向性について検討します。	個別面談などを通じ、ご利用者やご家族のご要望を聞き、支援などに活かしました。ひなたでは祝日の日中開所を実施しました。 また、グループホームがご利用者個々にとってどのような場所であるべきなのか（安全、安心、くつろげる場、家庭的な場など）について検討しました。	一部実施できました。	
4-③ ご利用者の高齢化に伴う新たなニーズにも対応できるよう、医療機関との連携など、仕組み作りを検討します。	ご利用者の高齢化に伴う健康状態の変化について、かかりつけの医療機関にご本人からのニーズや様子観察の結果について、報告や相談をしました。薬の変更があった際などは、職員間で共有し、間違いがないようにしました。	実施できました。	

4-④ グループホームは るかぜの耐用年数経過に 伴い、建て替え及び各グ ループホームで暮らすご 利用者の年齢や障がい特 性を鑑みた再編成につい て、検討します。	グループホームの再編成について、 具体的な計画を作成するまでには至 りませんでした。運営会議等で検 討しました。	実施できまし た。	
4-⑤ シフトの見直しの 検討など、適切な収支差 額の維持ができるよう努 めます。	シフトについて、ご利用者支援に支 障をきたさないことや、収支差額の 維持などを念頭に入れながら見直し を行いました。	実施できまし た。	

2022年度 短期入所であい 年間総括

1. 支援部門

【であい】

(1) 目標
①ご利用者個々にあった支援を充実させます。
②ご利用者やご家庭の意向も踏まえながら、体制の強化や短期入所の在り方について検討しま す。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
1-① ご家庭、通所先 (日中活動先) と連携 し、安全に過ごせるよう 努めます。また落ち着け る環境作りをするなど、 安心して過ごせるよう支 援します。	服薬の確認など、必要に応じて、ご 家庭や通所先と連絡を取り合いました。 事故などなく、安全に過ごすこ とができました。また、初めてであ いのショートステイを利用された方 について、緊張する様子が見られる ことがありました。その際は食事や 就床などについて、無理に誘導する ことはせず、ご本人が希望する場所 の提供をし、ご本人のペースを大切 にすることで、落ち着いて過ごされ ました。	実施できまし た。	

1-② 定時の検温など、健康観察を行います。必要に応じて関係機関と連携し、健康に過ごせるよう支援します。	健康など、必要な情報は連絡帳や電話などを通じて通所先と共有を図りました。利用されたご利用者は安定して過ごされている様子でした。	実施できました。	
2-① 施設の見回りや施錠など、日常的な防犯の備えを徹底します。	防犯対策として、施設の出入り口については日中であっても常に施錠をし、夜間は常夜灯をつけるなどしました。夜間帯は定時に見回りをし、退勤時にはチェック表を用いて施錠などの確認をしました。また、さすまたを設置し、引継ぎ事項の確認時に使い方の確認や実際にさすまたを使った訓練をしました。 防災対策として、台風や積雪の予報が出た際は、危険予測をし、外にあるものを屋内に入れることや、物干しざおを下ろしたりするなどの対策をしました。	実施できました。	
2-② 初期消火訓練、地震・火災避難訓練、救急救護訓練(AED訓練)、無線電話訓練を行います。避難訓練はご利用者と一緒に行い、災害発生時に備えます。	5月に初期消火訓練及び停電時の電源確保訓練、6月、10月、3月に避難訓練、9月に救急救護訓練(AED訓練)をそれぞれ実施しました。避難訓練については、無線電話訓練も同時に実施した他、身の守り方や避難についてご利用者と確認しました。	実施できました。	
2-③ 職員体制を整えることで、円滑な支援が行えるよう努めます。	職員体制については、不足なく支援にあたることができました。	実施できました。	

2-④ ご利用者やご家族のご要望にも耳を傾け、グループホームの今後の方向性について検討します。	日々とは異なる生活空間において、ご本人やご家庭からの要望にもあ る、「ご家庭と同じように安全で安心してくつろげる場」を提供するため、ご利用者ごとの特性に配慮しながら検討し、支援にあたりました。	実施できました。	
2-⑤ 医療的ケアが必要な方の受け入れなど、より幅広い状態像の方に利用していただけるよう仕組み作りを検討します。	医療的ケアが必要な方の受け入れなどについて、管理者間で話し合いの場を設けましたが、仕組み作りには至りませんでした。	実施には至りませんでした。	幅広く受け入れができるよう、今後も検討を継続します。

2022年度 児童支援部 年間総括

部門別年間総括

Ⅰ. 支援部門

【全体】

(1) 目標
①発達年齢を考慮し、楽しみや成長に繋がるような継続的な支援を提供します。
②生活年齢を考慮し、社会に繋がるような関わりや活動を提供します。
③専門的な視点で発達を捉え、根拠を明確にしながら適切な支援を行います。
④法人内看護師との連携、また訪問看護ステーション事業所との連携を活用し、医療的ケアが必要な児童が利用しやすい環境や体制を整えます。
⑤個別面談の実施などにより、個人の発達や生活に関する疑問や悩みについて相談しやすい環境を整えます。
⑥保護者向け法人事業所見学会を実施します。
⑦保護者間の交流を目的に保護者懇親会を開催します。
⑧放課後等デイサービスガイドラインの遵守及び自己評価の結果を公表します。
⑨事業所全体のマニュアルの見直しを計画的に行い、ズレの少ない統一した対応ができるようにします。
⑩豊かな時間の提供を工夫しながらも、収支バランスの取れた事業所運営をします。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①発達年齢を考慮した、継続的な支援を提供します。	それぞれの事業所で、児童の興味ややりたいことに合わせた活動を設定しました。手順書や予定表を用意するなど、分かりやすさへの工夫をしました。活動や遊びを通して「楽しい」「できた」と思えることや、満たされることを大切にしました。	実施できました。	発達や障がい特性への理解を深め、専門的な視点で支援や活動を検討できるようにします。
②生活年齢を意識した関わりや活動を提供します。	日常生活動作や身の回りのことに対しては、一人ひとりに合わせた適切な支援を行い「自分でできること」を大切にしました。学齢期、思春期、青年期などその時期での育ちを意識しながら、気持ちの伝え方や人との関わりを支援しました。社会へのつながりを意識しながら呼称についても検討し取り組みました。	実施できました。	支援のあり方や考え方について丁寧に検討し、周知することによって一定の方向性をもって支援できるようにします。

③専門的な視点で発達を捉え、根拠を明確にしながら適切な支援を行います。	日々の打ち合わせの中で児童の行動や様子について議論し、原因やきっかけについて分析しました。考えられる原因から対応を考え、実施しました。PDCAを繰り返し、より適切な支援を考えました。必要なことについては正職会議や職員会議で情報共有し、幅広い視点で検討しました。	概ね実施できました。	次年度も継続します。
④法人内看護師との連携、また訪問看護ステーション事業所との連携を活用し、医療的ケアが必要な児童が利用しやすい環境や体制を整えます。	訪問看護ステーションとの連携について検討し、2か所の事業所に相談をしましたが、費用、時間設定など、先方との調整が難しく実現には至りませんでした。また、法人内の看護師についても採用が難しく、児童支援部の対応ができる体制を整えることができませんでした。部分的な医療的ケアについては、法人内看護師と連携し実施することができました。	実施しましたが、結果が不十分でした。	法人内看護師と連携し、医療的ケアを必要とする児童の対応ができるよう整えます。
⑤個別面談の実施などにより、個人の発達や生活に関する疑問や悩みについて相談しやすい環境を整えます。	希望者を対象に各事業所で個別面談を実施しました。希望される方も多く、連絡帳やメールのやり取りだけでは把握できない児童の様子やご家庭で取り組んでいること、悩みなどについても知ることができました。メールや電話での相談に対しても、できるだけ丁寧に対応し、不安や悩みの解消に努めました。話ができる場があることが多少の安心に繋がることを感じました。	実施できました。	年度後半に取り組みを始めたweb相談についても広く伝え、より相談しやすい環境を工夫します。
⑥保護者向け法人事業所見学会を実施します。	新型コロナウイルス感染予防のため、今年度の保護者向け事業所見学会は中止の判断をしました。	着手できませんでした。	直接の見学が難しくても事業所の職員から話を聞く機会を提供するなど、実施可能な方法を工夫します。

⑦保護者間の交流を目的に保護者懇親会を開催します。	新型コロナウイルス感染予防のため、今年度の保護者懇親会は中止の判断をしました。	着手できませんでした。	保護者間の交流を保証できるような取り組みを工夫します。
⑧放課後等デイサービスガイドラインの遵守及び自己評価結果の公表をします。	10月のお便り発送にて、自己評価について協力の依頼と評価表を配布しました。集計結果と結果から見える『認識のずれ』について各事業所で課題の抽出と改善策を検討しました。1月ホームページにて公表し、改善策については次年度の事業計画に活かせるようにしました。	実施できました。	次年度も継続します。
⑨事業所全体のマニュアルの見直しを計画的に行い、ズレの少ない統一した対応ができるようにします。	年間予定に合わせてマニュアルの見直しを設定しました。一人ひとりがマニュアルを確認、変更点や修正点について抽出し、改定箇所を検討しました。新たにマニュアルが必要になった事項についても検討し、原則についての確認作業を行いました。	概ね実施できました。	次年度も継続します。
⑩豊かな時間の提供を工夫しながらも、収支バランスの取れた事業所運営をします。	児童支援部全体の収支のバランスをみながら、できる取り組みについて検討しました。なるべく定員を埋めることができるよう、コンサールとフルール、フルールとエールの2事業所契約者を増やし、利用のご希望に添えるよう取り組みました。職員の配置についても見直し、同時に活動内容や職員連携についても工夫をしました。	着手しましたが達成できませんでした。	予約の数が少なく、定員を欠く状況が多くありました。職員数の見直し等も行いましたが収支バランスを整えるには至りませんでした。取り組みの工夫と合わせて、今後のあり方についても検討を深めます。

委員会年間総括

2. 虐待防止委員会

(1) 目標
①虐待防止や児童の安全と権利擁護に向けて取り組みます。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①虐待防止責任者を設置し、虐待防止に取り組みます。	責任者が中心となり、月1回虐待防止委員会を設定し取り組みの検討、情報共有を行いました。	実施できました	次年度も継続します
②運営会議と合わせて虐待防止委員会を開催し、虐待や身体拘束防止の検討を行います。	毎月運営会議の際、虐待防止委員会を開催しました。事業所ごとの状況の確認、検討事項の検討を行いました。3か月ごとの身体拘束適正化委員会も実施し、事業所ごとの状況を確認し情報共有しました。虐待防止研修の内容や進め方の検討を行い実施しました。	実施できました	次年度も継続します。
③10月、全職員を対象とした虐待防止研修を行います。	職員会議内で全職員対象で研修を行いました。事前に虐待防止チェックリストの配布と回収を行い、集計結果の周知も行いました。虐待防止の手引きの確認と、eラーニングにて研修を行いました。欠席者にも個別で説明を行いました。	実施できました	次年度も継続します
④虐待防止の取り組みとして、全職員を対象に虐待防止チェックを実施します。	虐待防止研修前にチェックリストを実施。集計結果を含め全職員に周知しました。回答が分かれる項目に関しては、全体の会議内で対応方法や課題の検討を行い改善策の話し合いを行いました。	実施できました	次年度も継続します

⑤気づきを共有できる、風通しの良い職場環境を整えます。	事業所ごとに、支援前の引継ぎや打ち合わせを実施しました。支援の対応に関することなど意見を出し合ったり、職員から上がった意見に関しては委員会内で議題として提案し、検討し結果の報告を全体に行いました。	実施できました	次年度も継続します
-----------------------------	--	---------	-----------

3. 身体拘束適正化委員会

(1) 目標
①事業所内での身体拘束廃止に向けた取り組みを実施します。
①安全確保のため、やむを得ず身体拘束をする場合の検討を行い、記録を徹底します。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
1-①3ヶ月に一度身体拘束委員会を開催し、身体拘束に関わる現状把握、見直し等について検討します。	予定通り委員会を開催し、必要な内容について確認、検討しました。個別の対応について、丁寧に情報共有し、適正についての検討を深めました。	実施できました。	次年度も継続します。
1-②虐待防止と合わせて身体拘束に関する研修を実施し、身体拘束廃止に向けた基本方針や取り組みに対する理解を深めます。	10月の虐待防止研修を合わせて、身体拘束に関する研修を行いました。車いすのベルトなど、ご本人の安全を守るためのものでも身体拘束にあたることもあるという事実を理解し、その必要性や実施についても丁寧に考えられるようにしました。	実施できました。	次年度も継続します。
2-①安全確保を目的とした身体拘束について、事業所内での定期的な見直し、改善を検討し、身体拘束適正化委員会の中でさらに検討を深めます。	会議において実施の状況や個人の様子、ご家庭との連絡について確認しました。定期的な見直しの中で、身体拘束ではない方法で安全を確保する方法について議論し、対応を検討しました。個人の安全を守るために必要なもの（取り組み）については、その必要性についても十分に議論しました。	実施できました。	次年度も継続します。

2-②安全確保を目的とした身体拘束を行う際は、ご利用者、保護者への説明を丁寧に行い同意を得ます。また、実施の際は状況や必要性について丁寧な記録を徹底します。	車内での補助ベルトなど、その必要性については、児童の状況や行動を含め、丁寧にご家庭に伝え確認を行いました。自主送迎の実施など代替策も選択肢として提示し、より適切な対応についてご家庭と検討しました。 実施については、ケアカルテにて日々の状況を記録しました。	実施できました。	次年度も継続します。
--	--	----------	------------

4. 安全衛生委員会

(1) 目標
①児童・職員の安全及び衛生のための取り組みを実施します。
②事業所内の重大事故を未然に防ぐ事故予防に努めます。
③児童・職員が健康で快適に過ごせる施設環境を整えます。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
1-①運営会議と合わせて安全衛生委員会を開催し、児童・職員の安全衛生及び労働環境についての検討、整備を行います。	月に一度、安全衛生委員会を実施し児童の健康状態や職員の健康、労働環境について検討、情報共有しました。	実施できました。	次年度も継続します。
1-②11月、全職員を対象とした感染症研修を実施し、感染症予防、衛生環境についての理解を深めます。	11月に、全職員を対象とした感染予防研修を実施しました。e-ラーニングを活用し、感染予防についての基礎を学びました。各事業所に設置している、感染症対応セット（吐物処理セット）の内容を確認し、必要時には迅速に対応できるよう整えました。	実施できました。	次年度も継続します。
2-①事業所内でのひやりはっとなについて検証、必要な対策を講じることで重大事故を予防します。	それぞれの事業所で気づいたひやりはっとなや安全衛生に関わることにについて、安全衛生委員会の中でも検討し、必要な対応について、職員会議で周知できるようにしました。社会的にニュースになった事故についても、自事業所に置き換えて危険やリスクについて検討し、事故防止に努めました。	実施できました。	ひやりはっとなの抽出方法を工夫し、より安全な支援ができるよう検討します。

2-②事故検証では、直接的な要因だけでなく背景となる要因にも目を向け、環境改善を含めた再発防止に努めます。	事故発生の際は、各事業所で原因、対策について検討しました。児童に関わる事故については、本人の行動特性や得たい刺激、支援のあり方、空間環境などさまざまな視点から検証し、解決策を模索しました。安全衛生委員会の中でもさらに深め、再発防止に努めました。	実施できました。	次年度も継続します。
3-①定期的に設備や備品、玩具等の安全を確認します。	備品や玩具の点検を定期的を実施し、破損や不具合がみられるものについては適切に修理、破棄しました。備品や玩具の破損による事故は発生しませんでした。	実施できました。	次年度も継続します。
3-②定期的な換気や季節に合わせた温度湿度に配慮し、健康に快適に過ごせる環境を整えます。	感染症に気を付け、定期的な室内の換気や温度調節を行いました。感染症の対応については市や保健所とのやり取りをしながら適切な対応ができるよう努めました。	実施できました。	次年度も継続します。

5. 防災委員会

(1) 目標
①災害に備え、避難訓練を実施し、職員・児童の防災意識を高めます。
②消火訓練、応急救護訓練、AED研修を実施します。
③災害備蓄品の適正な管理や補充を行います。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
1-①火災想定避難訓練、地震想定避難訓練を1回ずつ、1週間を通して実施します。	火災（5月）、地震（1月）を想定した避難訓練を実施しました。一週間を通して設定することで多くの児童、職員が避難訓練に参加し安全意識の向上に努めました。	実施できました。	年間予定、連絡帳、広報、HPなどで保護者へお知らせをしていますが周知しきれていない様子が伺えているので周知のあり方について検討します。

1-②避難訓練の振り返りを行い、必要な備品や人の動きを確認し、適切な防災環境を整えます。	訓練実施後に各事業所ごとで振り返りを実施しました。備品や避難のあり方を再検討し、実際に避難が必要な場面でスムーズな避難ができるよう環境を整えました。実施内容については報告書を作成し次年度に活かせるようにしました。	実施できました。	次年度も継続します。
2-①年間計画で日程を整え、計画的に実施します。	年間計画（児童支援部共通）で決めた日程で計画的に実施しました。年間計画、連絡帳、HPなどを通して実施状況を保護者にも周知しています。居住支援部、児童支援部合同での初期消火訓練やAEDの取り扱いについて研修形式で訓練を実施し防災、応急救護への意識を高めました。	実施できました。	次年度も継続します。
3-①各事業所で必要な防災備蓄の確認をします。	各事業所ごとに必要な防災備蓄品の確認を進めました。	実施できました。	次年度も継続します。
3-②賞味期限を確認し、無駄なく消費、追加をします。また、備蓄内容についてリスト化し、分かりやすく管理します。	賞味期限を確認しながら、活動の中で（おやつ、昼食など）無理なく美味しく消費してからの購入を進めています。備蓄内容、消費期限リスト化し見やすいところに掲示するなどして管理しました。	実施できました。	次年度も継続します。

6. 送迎委員会

(1) 目標
①安全な送迎を実施します。
②災害や事故に備え、マニュアルの作成や災害対応訓練を実施します。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
1-①半年に一度の定期点検を行います。また各事業所での走行前点検を行い、安全に走行できるよう車両を整備します。	各事業所で半年点検、車検を実施しました。また送迎実施前には全車両点検を行い、安全に走行が行えるように車両の整備を行いました。	実施できました。	次年度も継続します。
1-②運転者チェックリストや健康確認等、運転者の適正を確認し、安全に送迎業務を行います。	運転者チェックリストは整備がされておらず未実施でした。運転手の健康確認や適正については運転手に直接確認を行いまいした。運転手からの申し出により勤務日の変更や運転車両を限定するなど、安全な送迎が行えるように努めました。	実施しましたが、結果が不十分でした。	次年度も継続します。 運転者チェックリストの整備を行う。運転前の健康確認を行えるツールを整備する。
1-③運転者は、交通ルールを遵守し安全な走行に努めます。	送迎実施中の人身事故・違反はなく、交通ルールを遵守した安全な送迎が実施できました。	実施できました。	次年度も継続します。
1-④車内では児童の座席配置に配慮し、安全に乗車できるようにします。	乗降順や児童同士の相性や特性を考慮して座席を配置しました。車内での大きなトラブル・事故はなく、安全な送迎が実施できました。	実施できました。	次年度も継続します。
2-①事故時におけるマニュアルを整備し、迅速な対応ができるようにします。	事故対応マニュアルを各事務所に設置し、いつでも閲覧できる環境を整えました。年に1度、災害対応訓練の際に確認をし、事故が起きた際に迅速な対応ができるように努めました。	実施できました。	次年度も継続します。

2-②災害時に備え、実際に車両を運行させた災害対応訓練を実施し、適切な判断ができるようにします。	年に1回、送迎に関わる職員（運転手、添乗員）を対象にして、災害対応訓練を実施しました。実際に車両を走行させ、安全確保と連絡の訓練を行いました。	実施できました。	次年度も継続します。
--	---	----------	------------

7. 広報委員会

(1) 目標
①広報誌にて、児童支援部の取り組みや活動の様子を広く伝えます。
②ホームページを活用し、活動の様子や必要な情報を発信します。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
1-①広報発行に合わせて、原稿を構成し地域や保護者に向けて活動の様子や取り組みを紹介します。	今年度の広報発行（4月、7月、9月、1月）に合わせて、原稿のテーマを受けて記事を作成しました。事業所ごとの活動の様子や取り組みを写真を使用して紹介することができました。	実施できました。	次年度も継続します。
1-②写真使用について、毎年、個人情報同意書にて同意の有無について確認をします。個人情報の取扱いに厳重に注意します。	写真使用について同意があるご利用者のみ掲載するように広報誌やホームページを作成しました。広報発行前、HP掲載前には決裁にて内容や写真の使用可否の確認を行いました。	実施できました。	次年度も継続します。
2-①保護者会資料や年間予定など、必要な情報をホームページ上で確認できるようにします。	ホームページの児童支援部専用ページにおいて、保護者会資料や年間予定などの情報提供を行いました。また、法人ホームページにて2022年度児童支援部事業所自己評価集計及び検討結果を掲載しました。	実施できました。	次年度も継続します。

2-②事業所での活動について、定期的に記事を投稿しお知らせします。	各事業所ごとに定期的にホームページの記事を作成し、更新をしました。活動の様子を写真を交えて紹介することができました。	実施できました。	次年度も継続します。
-----------------------------------	--	----------	------------

8. 苦情解決委員会

(1) 目標
①利用児童、保護者、地域からの苦情や要望に対して、適切な対応を検討します。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
1-①苦情や要望の内容を正確に把握できるよう丁寧な聞き取りを行い、適切な対応を検討します。	苦情については傾聴姿勢を意識し、丁寧に話を聞くと同時に、話の主訴が明確になるよう対応しました。具体的な要望を確認し、事業所としてできることとできないことを明確にお伝えしました。会議にて情報を共有し統一した対応ができるよう整えました。	実施できました。	次年度も継続します
1-②苦情、要望、相談については、迅速に対応します。	寄せられた苦情、要望、相談については、職員、主任、園長など対応職員について判断し、時間をあけずに対応しました。年度の後半にwebでの相談窓口を開設し、広く声を拾えるよう取り組みました。	実施できました。	次年度も継続します
1-③苦情の内容や対応の経過、検討結果について、必要に応じて情報開示できるよう、透明性の高い対応をします。	苦情の内容については所定の用紙にまとめ、苦情解決第三者委員会へも報告しました。委員会でいただいたご意見を活かし、より良い対応やサービスを工夫しました。求めがあった場合には当事者へも開示できる内容で報告書を作成しました。	実施できました。	次年度も継続します

Ⅰ. 支援部門

【ボワ・コンサール】

(1) 目標
①一人ひとりが安心して楽しい時間を過ごし、好きな遊びや興味の幅が広がるように支援します。成功体験を増やし、自信を持って行動できることを増やします。
②ご家庭・学校・関係機関との連携を図ります。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
Ⅰ-① 一人ひとりの障がい特性や発達、性格を理解し、個人に合わせた適切な対応をします。	個人に合わせた言葉の量や視覚的な手がかりの使用など、分かりやすい情報の伝え方を工夫しました。言葉の影響を受けやすい児童に対しては、なるべく言葉を減らし、人の言葉や自分の言葉に振り回されない対応を心掛けました。また、玩具カードや文字盤の使用、言葉やジャスチャーなど、要求を適切に伝えることができるよう支援しました。怒りや苛立ち、興奮などによる気持ちの表現に対しては、いろいろな角度から要求の意図や行動のきっかけ、理由について考え、必要な対応を検討、実施しました。	実施できました	引き続き、一人ひとりの障がい特性に合わせた支援を工夫します。個人のもつ感覚の世界を理解し、行動のきっかけや原因について丁寧に考え、必要な対応を検討します。対応については、全体で統一した対応を目指します。
Ⅰ-② 安心できる環境の中で、好きな遊びや得意な遊びに取り組み、楽しい時間を過ごせるようにします	個人の好みや得手不得手を把握しながら活動や遊びを設定し、遊びやすい環境を整えました。個人の様子を観察し、どのような感覚をどのように楽しんでいるかを知り、遊びを通して「楽しむこと」「チャレンジすること」「合わせること」などの経験ができるよう支援を工夫しました。遊びの中で得られる達成感や満足感を大切に、その気持ちに寄り添える支援を行いました。	実施できました	引き続き、遊びや活動の様子を丁寧に見守り、遊びや生活の幅が広がり、豊かになるよう工夫します。
Ⅰ-③ クッキング、季節の制作を年間のスケジュールで計画的に行います。活動の中で役割や順番を楽しく経験し「できた」「楽しかった」という達成感を得られるようにします。	年間のスケジュールに沿って、クッキングや季節の制作を実施しました。継続的に取り組む中で、児童の持っている力を把握し『やりすぎない、やらすぎない支援』を工夫しました。また、分かりやすい役割分担をし、与えられた役割に責任を感じ、楽しく果たすことも経験できるよう支援しました。新型コロナウイルス感染予防のため、活動にやや制限はありましたが、感染予防に配慮しつつ昼食作り（カレー）などのクッキングを楽しみました。	実施できました	引き続き、分かりやすく情報を伝えることで「自分でできること」を大切にします。感染症予防に努めつつ、安全に楽しめる活動を工夫します。

1-④ 玩具遊びやおやつなど興味のあることを通して『自分で選ぶ』『自分で決める』ことを楽しく経験します。日常の中で、納得して行動できることを増やします。	玩具カードを使って玩具を選ぶことや、工作で好きな色や好きなパーツを選ぶこと、カゴの中から好きなおやつを決まった数だけ選ぶことなど、遊びや生活の中で『自分で選ぶ』ことを大切にしました。自分で決められることで納得して行動できるよう支援しました。	実施できました	引き続き、自己選択、自己決定の機会を多く作り、主体的に取り組めることを大切にします。
2-① 連絡帳や電話連絡でご家庭との連携を図ります。	日々の様子や連絡事項など、連絡帳やメールを通してご家庭とやりとりしました。必要に応じて電話連絡を行い、細かい様子について直接お伝えすることを大切にしました。希望を確認して行った個別面談では、ご家庭での様子、コンサールでの様子を保護者と共有し、支援に活かしました。また、日常の不安や悩み、進級に向けての相談など電話やメールでのやり取りを多く行いました。話をしやすい雰囲気を作り、児童の成長について一緒に考えることを大切にしました。	実施できました	連絡帳、メール、電話連絡など様々なツールを活用し、ご家庭とのやり取りを丁寧に行います。疑問や悩みなど話をしやすい雰囲気、相談しやすい環境をつくります。
2-② 学校と連携した支援を行います。	学校へのお迎え時に、学校での様子について申し送りを受け、同時にコンサールでの様子を伝えました。学校での支援方法についても確認し、できるだけ統一した支援ができるようにしました。学校や相談支援事業所主催の児童のケース会議に参加し、学校、他のデイサービスとの情報共有や適切な対応について検討しました。事業所だけではなく個人の生活の全体像を把握することができました。	実施できました	引き続き、学校や他事業所での様子についても話ができる機会を作り、地域全体で統一した支援ができることを目指します。
2-③ 関係機関との連絡会や支援会議等に参加し、地域の情報を積極的に集めます。	支援計画の立案や評価を行う時期に、相談支援事業所の方から連絡をいただき、コンサールでの様子を伝えることの他に、ご家庭の状況や他事業所での様子についても一部知ることができました。また、大学の保育実習の受け入れを積極的に行い、保育内容や支援、事業所の目指すものなどについて広く伝えることができました。	実施できました	地域で行われる会議には積極的に参加し、情報提供、情報収集ができるようにします。得られた情報を事業所運営や支援に活かします。

(1) 目標
①保育環境を整備し、児童の遊びが充実できるようにします。個別に応じた対応をしながら、安心して活動できる環境を作ります。
②ご家庭や学校、関連機関との連携を図ります。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(1) ①障がい特性や発達段階を理解し、一人ひとりにあった適切な支援をします。	支援会議や毎日の打ち合わせを実施し、児童の様子や支援方法の共有、検討に努め統一した支援に繋がりました。児童の移籍に関しては、移籍前の利用や個別支援計画などで情報を共有しながら引き継ぎを行い、移籍児童が安心して楽しく過ごせる環境を整えました。	実施できました	一人ひとりの障がい特性や性格、好きな遊び等を職員が共有し児童が安心して楽しく過ごせるように努めます。適宜、個別支援マニュアルも見直しを行いながら有効に活用していきます。今後も、移籍対象の児童がスムーズに新しい環境に慣れていける体制を整えていきます。
(1) - ② 興味のあることに集中して取り組む時間と、体を動かす活動をバランスよく設定します。得意や苦手を職員間で共有し遊びの幅や他者との関係性を広げていけるように支援方法の検討、工夫をしていきます。苦手なことにも遊びを通して無理なく挑戦できる環境を設定します。	集団活動、個別活動をバランスよく提供しました。児童の興味があることや苦手なことなどについても職員間で共有し、無理なく挑戦できる環境を整えました。必要に応じて職員が間に入ることで遊びながら他児童、職員との関係性が築いていけるように努めました。 コロナウイルス感染症の影響により一部活動を制限する状況がありましたが、制限された中でも、児童が楽しく過ごせるよう工夫して取り組むことができました。	実施できました	引き続き、興味のあるものに集中して取り組む時間と集団でひとつの活動を楽しむ時間をバランスよく設定します。遊びながら他者との関係性を広げていけるように支援方法の検討、関わり方を工夫します。
(1) - ③季節に合わせた制作やクッキングを年間スケジュールに沿って計画的に実施します。作る、食べることを通して達成感を味わい、友達と協力する経験を大切にします。また、児童が主体となり相談しながらやりたいことを決定し、活動に取り入れます。自分たちで活動を決めることで楽しみや達成感に繋がります。	年間計画に沿って、季節の制作やクッキングを実施しました。制作は、季節を意識できる内容や自然物を取り入れながら日本の風習も感じられるようにしました。児童が「どこまでできるか」を見極めながら集中して取り組める環境を整えました。 クッキングでは、皆で協力しておやつを作る体験を味わいました。夏休み中には感染予防に努めながら昼食（カレー）作りや買い物（おやつ）、夏祭りなど夏休みにしかできない活動を設定し楽しみました。	実施できました	引き続き、季節の制作やクッキング、夏休みの活動が充実した内容になるように検討していきます。児童が主体的に考え、楽しみを持って活動や行事に参加できるように工夫します。
(1) - ④安心、安全に活動できるように施設設備、玩具の整理整頓、清掃、感染症予防（消毒、換気など）に努め衛生的な環境を整えます。	玩具、扉、窓、送迎車の車内などの清掃、消毒、換気を徹底し、施設の美化衛生や感染リスクの軽減に努めました。遊具は定期的に点検し安全に使用できるようにしました。食事、おやつを食べる時の距離や座席に配慮し感染防止に努めました。	実施できました	引き続き、整理整頓、清掃、消毒、換気等を徹底し安心、安全に活動できる環境を整えます。

(2) - ①連絡帳や電話連絡でご家庭との連携を図ります。	活動の様子は連絡帳に記載しました。保護者の不安や、気になっていることなどの記載がある時には、適切な返答ができるように努めました。児童の様子で気になることがある場合は、保護者へ対応方法を確認したり、情報交換を行いフルールでの支援に活かしました。必要に応じて、発作記録表や排泄記録表などを使用し健康面の共有に努めました。個別面談では、学校や自宅での様子や他事業所での様子を伺い、フルールの様子だけでは分からないことも共有することができました。	実施できました	引き続き、活動の様子をご家庭に分かりやすく伝えます。連絡帳を通して様子を確認し、より良い支援に活かします。引き続き、個別面談を通して児童への理解を深めていきます。必要に応じて、発作記録表や排泄記録表を使用し健康面の共有に努めます。
(2) - ②学校と連携した支援を行います。	学校お迎え時に当日の様子について引継ぎを受け、必要に応じてフルールの様子も伝え情報共有を図りました。学校での支援方法を確認し、できる限り統一した支援を目指しました。依頼があった場合はケース検討会議に参加し、学校、他事業所との連携に努めました。	実施できました	引き続き、児童の様に合わせて、学校での関わり方や取り組み方を確認します。必要に応じて、施設見学などの受け入れを行い連携に努めます。
(2) - ③関係機関との連絡会や支援会議等に参加し、地域の情報を積極的に集めます。	関係機関から、モニタリング評価や支援計画立案のため、利用児童の様子や、活動について問い合わせをいただくことができました。事業所での様子をお伝えし共有することができました。必要に応じて支援会議に参加し学校、家庭と情報を共有し統一した支援ができるようにしました。	実施できました	関係機関からの問い合わせ等には今後も丁寧に対応し、共通認識を持って支援していきます。必要に応じて、連絡会や会議にも参加し、統一した支援ができるようにします。

(1) 目標			
①一人ひとりが、安心して楽しく過ごせるように支援します。			
②社会性を育む支援を行います。			
③ご家庭・学校・関連機関との連携を図ります。			
(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(1) - ①障がい特性や発達段階を理解した上で、一人ひとりの気持ちに寄り添った支援を行います。	支援前に職員間で一日の活動の内容、支援での留意点や個人に関する振り返りを行い、情報共有をしました。また、個人の状況を全体で共有しながら、児童が安定して活動できるよう支援や対応方法について検討、振り返りを行いました。 困難事例に関しては、会議等で対応方法を検討と検証を行い、定期的に対応と様子の確認を行い支援方法の変更を行いました。	実施できました	次年度は職員の勤務体制が兼任の職員が多くなり、同時に打ち合わせなどを設定することが難しいため、情報の共有の仕方の工夫をしていきます。 支援方法の検討なども限られた職員での検討になってしまうため、広く意見を求め対応方法を決めることが難しくなるため検討方法や周知方法を考えていきます。
(1) - ② 活動の中で、体を動かす活動や、のんびりリラックスした気持ちで過ごせること、集団で活動することをバランスよく設定できるようにします。満足感や達成感を感じられるような活動や安全な環境を設定します。	集団活動、個別活動をバランスよく提供しました。制作、クッキングなどの行事を設定し、季節を感じたり、みんなで協力しながら取り組むことを大切にしました。 外出などについても、限られた場所ではあったものの買い物レクなどを再開することができました。	実施できました	集団活動と個別活動をバランスよく取り入れながら、活動が固定しないように工夫していきます。
(1) - ③ 医ケア・肢体不自由児の支援の充実を図ります。	eラーニングを利用した介護技術の学習会は設定できませんでした。年度途中で職員の入れ替えがありましたが、丁寧な引継ぎや学習機会の設定が難しく、できませんでした。 看護師の体制により、吸引を必要とする児童の受け入れが年間を通してできませんでした。 車いす利用の児童も外に出て全体の活動に参加したり、車いすから降りてリラックスできる時間も設定したり、個々の好きなものに合わせて制作したり遊びを提供しました。	実施しましたが、結果が不十分でした。	職員会議などでは必要な研修を全体で実施できましたが、介護技術などは事業所内でできるような設定を検討します。 医ケア児の受け入れの制限が続いている状況のため、看護部門との調整や連携をして安定した受け入れができるよう整えていくことが課題です。
(1) - ④ 季節の制作やクッキングを年間のスケジュールで計画し、季節を感じることを、伝統行事に触れる機会を大切にします。	年間予定に沿って実施できました。クッキングは感染防止対策をしながら、なるべく個人で工程を進められるような手順にしたり工夫しながら実施しました。 季節に合わせて制作をしたり、外の活動も夏は水遊び、冬は氷を触ったりと季節を感じられる活動を意識して設定しました。	実施できました	次年度も年間予定に沿って実施します。 活動によっては児童からの意見を取り入れながら活動の充実を図ります。

(2) - ① 生活年齢を意識した関わりを行い、集団生活でのルールなどを理解・意識して活動できるように支援します。	児童の呼称や介助時の留意点を確認し、生活年齢に応じた対応を心掛けました。 個人の課題も理解しながら声掛けの工夫や集団に合わせて活動するための支援の手立てを検討して情報共有しました。児童一人一人の力を伸ばしていくことを大切に、身の回りのことができるようにそれぞれに合わせた支援をしました。	実施できました	定期的に児童の呼称については確認を行い、職員一人一人が意識をもって接することができるようにします。 職員が先行してやってしまうことが多くなってしまうため、児童が行動を獲得・定着できるように支援を検討し必要な支援をしていきます。
(2) - ② 困ったこと、不安なことなどの自分の気持ちを周囲に伝え、解決できた・対処できたことの経験を積み重ね、対処する力や気持ちをコントロールする力を身に付けていけるようにします。	活動で内容を決める時や、児童同士で相談し合う時に、児童の意思を確認しながら「どのようにしろよいか」を考えられるよう、複数の選択肢や決定の仕方を提案しながら児童自身が選択・決定することを大切にしました。 行動の問題があった時は、その理由を確認し、児童が自身の行動を振り返れるようにしました。感情や行動を言語化しながら、気持ちに寄り添いつつ正しい行動を促す支援をしました。	実施できました	学校の行事や年度の変り目など様々な要因で気持ちの波が生じることもあるため、行動の背景を含めて適切な対応をその都度検討して対応できるようにしていきます。 行動や感情を言語化し、気持ちに共感し、望ましい行動を伝えていきます。
(3) - ① 連絡帳や電話連絡を通し、ご家庭との連携を図ります。	必要な状況は連絡帳に記載し、その他の状況に関しては、必要に応じて電話やメールで細かくお知らせするようにしました。ラインの相談窓口を設定しました。実際相談での利用はなかったですが、今後も相談手段として継続していきます。 個別面談を実施し、保護者と直接意見交換をする時間を設定しました。また、保護者からの問い合わせや相談を受け、その都度エールでの状況の報告や、説明を行いました。	実施できました	連絡帳以外にもメールや電話、送迎時の引き渡しなどで丁寧にお伝えできるようにします。相談や問い合わせにも対応していきます。
(3) - ② 学校との連携を図ります。	学校では引き渡しの時に特記事項を確認し様子を引継ぎました。 学校公開については、感染症防止の観点により案内がなかったため参加することができませんでした。	実施できました	引き続きその日の体調や情緒面については確認し、必要な対応や活動の配慮をしていきます
(3) - ③ 関係機関との連絡会や支援会議等には積極的に参加し、意見交換を行います。	相談支援事業所、学校、関係機関による支援会議に参加し、児童個人の状況について、事業所ごとの様子を確認し情報共有することができました。現状を確認しながら、将来に向けた支援の方針を全体で確認することができました。 会議の内容は職員間で情報共有し、日々の支援に活かすことができました。	実施できました	支援会議には引き続き参加します。また、他事業所での様子を確認し職員間で共有できるようにします。